受験国語
選択肢の判別
111の視点

2025年版

■受験国語の選択問題でよく用いられる手法を
■主に論理的アプローチにより
■111種に分けて整理しました

※本資料は中学生・高校生の学習にも利用できます

＊2025年（令和七年）4月1日改訂版
＊両面印刷し、製本してご使用ください
＊作成：細川

受験生の君たちへ

一、ものごとを自分の力で解決する姿勢
大人に全てを任せきるのではなく、自分の力でできることは、まず自分の力で解決に挑もう。

二、大人の知恵
自分の力を尽くして、それでもどうにもならないときに、そこで初めて大人の知恵を借りて、解決への道筋を開いてゆこう。

三、自律的マネジメント
その日一日の、また、一週間単位での時間の使い方を自分で考えて、それを着実に実践しよう。

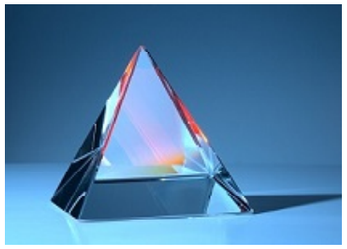
四、考え抜く力
一つの問題について、柔軟に、広い視野で、自分の頭を使ってとことん考え抜こう。

五、「自分の力」への変換力
学んだことは流してしまわず、その都度「**自分の力**」へと確実に変換してゆこう。

六、伝える力
しっかりとした自分の考えを持ち、それを他者に対して正しく、確かに伝えられる自分になろう。

七、自分の力で自分を育て、作り上げる
自分の目標を明確に見定め、主体的に学び、獲得しながら、揺るぎない自分自身を作り上げてゆこう。

八、夢を実現しよう
近い将来や、遠い将来を見据え、そこに自分自身の理想の姿をはっきりと映し出し、その姿に強く、強く、自分を引き付けていく歩みを続けてゆこう。



■本資料は、大人の助力により手順を踏んで説明すれば、小学5、6年生にもしっかりと内容を理解させることが可能です。
■本資料は小学生・中学生・高校生の学習に利用できます。

■正味64頁（B4用紙：両面17枚/表紙含む）
■約102,500字
■PDF：7.50MB
■本資料は随時改訂を行っています。ウェブサイトより適宜最新版を確認してください。
■本資料は無料でご利用いただけます。

【印刷・製本】
・用紙サイズ：B4/両面17枚
・プリンター設定：両面印刷/短辺とじ/印刷の向き（横）
・用紙をしっかりと二つ折りにし、ページ順に揃えて重ね、『回転式ホチキス』で「中とじ」します。
・ホチキスは、背（外側）からノド（内側）に向けて打ちます。また、天地からそれぞれ6～7cmの位置に一か所ずつ打つと冊子が安定します。

※選択問題で用いられる各種技法について、20年来メモを取りためてきたものを中心に分類、整理しました。
※本資料、およびウェブサイトに掲載した内容の剽窃・アイデア盗用・改変使用は (・∀・)/ もうやめよう！

【 接続語 一覧表 】

●**語句と語句、文と文、段落と段落等**をつなぎ、前後がどんな関係であるかを示す言葉。

分 類	働きと具体例 ※自立語のみ
①順 接	前の事柄(ことがら)が**原因・理由**となり、後にその**順当な結果**がくる。 ※**順当**：当然なさま。
	だから、**すると**、したがって、それで、そこで、ゆえに、それゆえ、よって
②逆 接	前の事柄と**対立**するような事柄が後にくる。 ※対比・不調和・反対・逆とも。
	しかし、**ところが**、でも、けれど、それでも、が、だが、だけれども、それなのに、しかしながら、だのに、ですが
③並 列	二つ以上の事柄を**対等に並べる**。「**並立**」ともいう。
	そして、**また**、それから、および、ならびに
④添 加	前の事柄に、**新しい事柄や重要な事柄をつけ加える**。
	また、**そして**、さらに、しかも、そのうえ、それから、おまけに、それに、かつ
⑤選 択	前の事柄と後の事柄の、**どちらかを選ぶ**。 ※**選択的並列**
	または、**あるいは**、それとも、もしくは、ないしは
⑥説 明	(1) **理由**：**なぜなら**、だって ※根拠 (2) **換言**：**つまり**、要するに、すなわち ※**換言**(かんげん)：言いかえること。 (3) **例示**：**たとえば** 、いわば (4) **補足**：**ただし**、なお、もっとも ※**補足**：足りない点を補(おぎな)うこと。 ※条件・例外とも。
⑦転 換	**話題を変える**。 ※話題転換
	さて、**ところで**、では、それでは、そもそも、ときに

■**注意**

※テストや演習の際などに、各接続語の**区別や働き**を知らずに必死に「**接続語探し**」をしてチェックに勤(いそ)しんでいる受験生を非常に多く見受ける。チェック作業に注力するあまり認知的視野を狭(せば)めたり、読解そのものがお座なりになったりといった**本末転倒に陥(おちい)らぬよう、基本をしっかりと学んでおこう**。

※「**そして**」を「**添加・並列**」の接続語ではなく「順接の接続語」と捉(とら)え違(ちが)えている小学生が非常に多い。**「そして」には前後の因果関係を積極的に示す働きはない（＝順接にはならない！）**。

※「**添加の接続語**」の後には「**新しい事柄**(ことがら)**や重要な事柄**」が置かれる場合が多い。

> ①私は七時に起きた。**だから**、顔を洗いに行った。
> ・前後の内容について、**因果関係を積極的に示す文脈**には『**順接**』を用いる。
>
> ②私は七時に起きた。**そして**、顔を洗いに行った。
> ・**因果関係ではなく、前の事柄に別の新たな事柄を付け加える文脈**には『**添加**』を用いる。

※「箱(はこ)のふたをそっと開けた。（**だから/すると**）白い煙(けむり)がもくもくと…」のように、同じ順接でも意味や用法が異なる。接続語は、日常においても話者や書き手の感情の表出、また、主観性や客観性、ニュアンスなど、その時々に応じてさまざまに使い分けられている。中学入試では**小学生の語感を試す出題**は珍(めずら)しくないので、**文脈や場面、状況に応じた言葉の選択、使い分け**ができるよう、**普段から語感を磨き、表現力を高める訓練**にも注力しておきたい。

※「**接続語補充問題**」では、前後それぞれの「**主語・述語（主部・述部）を押さえて要約し、文脈をたどる**」訓練により**判定の精度が向上する**。

※「**説明**」の項に含めた「**たとえば・言わば・つまり・要するに**」は、品詞としては「**副詞**」である。**連結機能**を持つ一部の副詞は「**接続語**」として扱(あつか)われる。 ※**品詞**としての『**接続詞**』になるわけではない。

※文章を書く際には、**接続語の後に「読点（、）」を打つ**ことが原則となっている。

ｼﾞｰ(･ω|

【選択肢の判別 111の視点】

■本資料は、国語の選択問題で用いられる各種技法について、20年来メモを取りためてきたものを中心に分類、整理したものです。本資料に掲載(けいさい)された各手法を知ることで全ての問題が解決できるわけではありませんが、選択肢を論理的、多角的に分析、検討するうえでの一助としてください。

■受験生、特に小学生は、大人が当然備えているような様々な**視点**が未発達であり、**検討力**も不十分です。そのため、塾講師や家庭教師は、子どもたちの学力を育成すべく、また、新たな視点を付与すべく、試行錯誤(さくご)を重ね、様々な技術を工夫して指導をしています。

　随分(ずいぶん)昔からある「**定石**(じょうせき)**テクニック**」の一つに、「**本文を通読していては制限時間内に全問を解き切ることは困難だ。本文は通読せず、先に設問に目を通し、本文で問われている箇**(か)**所の前後内容によって解答を決めよ**」といった手法がありますが、残念ながら現在でも、非常に多くの小学生（中学受験生）たちが、この非本質的な手法を「正攻法」として指導を受け続けています。

　また、「**国語は秋になって伸びなければ、もう伸びることはない。国語は捨てなさい**」、「**記述問題は捨てなさい**」といった、指導者（教育者）の無責任極(きわ)まりない言説を信じ込まされ、素直にそれに従い、受験産業の食い物（犠牲(ぎせい)）となっている多くの純粋な子どもたちのことを思うと、大変気の毒で残念に思います。

　選択肢の判別においては、「**『言い過ぎ』、『大げさ』、『極端(きょくたん)』な印象を与える選択肢は選ぶな**」、「**『断定表現』や『限定表現』、『強調表現』のある選択肢は選ぶな**」、「**『全て・どれも・みな』のような全称**(ぜんしょう)**表現が用いられた選択肢は選ぶな**」、「**選択肢の説明文の前半を棒線**(ぼうせん)**で消し、後半の内容のみで判断せよ**」、「**『強い』印象や『ポジティブ』な印象を与えるものを選べ**」、「**プラス、マイナスの印象の違いで決定せよ**」、「**説明が具体的すぎるものは選ぶな**」、「**いかにも立派な正論が主張されたものは選ぶな**」、「**教育上好ましい内容となっている説明を探せ**」といった、思考や論理によらない、その時その場だけの「**印象や感覚に依存**(いそん)**する手法**」や「**安直な機械的処理法**」が指導されているケースが相当に見受けられます。これは、高校受験や大学受験の指導においても一般のようです。

　論理や思考によるのではなく「印象や感覚による判定法」や「**安直な機械的処理法**」によって解答を決めるというのは、「**鉛筆やサイコロを転がして答えを決める**」のと違いはありません。作問者の側は、多くの子どもたちがそのような手法によって国語の選択問題に当たるよう指導されていることを承知のうえで、判断に揺(ゆ)らぎを与え、**誤答に誘導しやすいよう**、手を変え品を変え、様々に工夫を凝(こ)らして作問をしています。**自分自身の将来のため**にも、「**読む力と考える力**」を育て、「**本文との速**(すみ)**やかな照合と検討**」とによって「**論理的、かつ正確な判断**」ができるよう、普段から「**本質的な読解学習**」にしっかりと取り組んでおきましょう。

※本資料巻末に掲載した「**時間配分のしかた**」、「**時間短縮訓練**」、「**高速トレース（全脳型分析的高速処理）**」、「**再現学習（口頭でのアウトプット）**」、「**フラッシュリーディング（全脳型分析的速読法）**」等の資料も併(あわ)せて参照してください。

■かつて、当方の指導する生徒に、「**私は作問者と戦うつもりで問題に当たっています**」ときっぱりと言い切る者がいました。問題が解けないことが悔(くや)しい、作問者の仕掛けた罠(わな)にはまるのが悔しい、とその生徒は言い添(そ)えましたが、大人（作問者）の思考力に自分の思考力が及(およ)ばない悔しさと苦悩(くのう)、そして、それを克服(こくふく)してゆくために、一つひとつの問題に真正面から実直に向き合ってゆこうとする11、12歳の子どもなりの気概(きがい)が、私にはひしひしと伝わってきました。

　中学受験を志(こころざ)す皆さんは、中学校側が求めている生徒像がどのようなものかを今一度考え、それをよく心に受け止め、思考したり苦闘(くとう)したりせずともあらゆる夢を楽に叶(かな)えてくれる「**魔法の杖**(つえ)」の存在を信じて安易にそれにすがろうとするのではなく、「**直面した問題の一つひとつを、自身が持てる能力を最大限に発揮して解決してゆく姿勢**」、「**自分の力で自分を育て、作り上げてゆく姿勢**」、「**自分の人生を自分の力で築き上げてゆく姿勢**」の大切さを常に忘れずにいてください。

　また、中学受験国語は、論理や思考力だけで全ての問題が解決するわけではありません。日がな一日机(つくえ)に向かうばかりでなく、時に外界へと視野を広げ、自然や世の中のさまざまな事象に目を向け、五感を働かせて、触れ、感じ、想像し、考えてみる。そして、人との出会いや、人との関わりを大切にし、**自分の未来にしっかりと目を向け、自分の生き方を一つひとつ見定めてゆく**つもりで、自分自身を磨(みが)き、育(はぐく)んでゆく。そうした姿勢こそが、**揺**(ゆ)**るぎない自分という存在の礎**(いしずえ)**を築き、人間としての幅を広げ、心の豊かさを培**(つちか)**うための大切な勉強**であると言えます。そのことを常に胸の底に置いて、溌溂(はつらつ)と日々の学習に勤(いそ)しんでもらいたいと思います。

■作問に携(たずさ)わる方々には、受験生の思考力や分析力、検討力を測る本来の目的に沿(そ)い、そして、何より子どもたちのために、その場しのぎの安直な手法や機械的な手法によって容易(たやす)く崩(くず)されないよう、より巧(たく)みに工夫を施(ほどこ)してもらいたいと思います。今後、『**不適切肢を選ぶ問題**』や『**当てはまるものを全て選ぶ問題**』、『**三択で絞**(しぼ)**り込みに迷う問題**』、あるいは、『**資料や図表を用いつつ本文との確実な照合によらねば判断が困難な問題**』、『**二種の異なる文章を関連付けて考えさせる問題**』等を増やしてゆくのも一手でしょう。

　また、塾講師や家庭教師の方々にも、子供たちが論理的な思考力と多角的な検討力とを備え、自分の頭をよく使い、思考作業による判断と結果に確かな手応(てごた)えが得られるよう、より本質的で精緻(せいち)な工夫を指導に施(ほどこ)してもらいたいと思います。

ヽ(･ω･)/

■目次

【基本的な論理】

①三段論法（演繹法） 4
②暗黙の前提 4
③前提のすり替え 5
④因果関係 5
・因果の逆転
⑤矛盾 5
⑥背理法 6
⑦飛躍（論理的飛躍） 7
⑧論点のすり替え（論点違い/論点ずらし） 7
⑨弁証法 35
⑩帰納法 36
⑪類推（類比推論/アナロジー） 37
・類比論法
⑫仮説形成（アブダクション/リトロダクション） 38

【選択肢の判別 111の視点】

■一般手法

(1)論外 8
(2)カモフラージュ（カモ/偽装） 8
(3)ホイホイトラップ（まき餌） 8
(4)コピペ（フェイク/ダミー） 8
(5)キラキラワード（キラキラフレーズ） 9
(6)直前トラップ(直前に書いてあるもん♡) 9
(7)おとり（また引っかかったもん♡） 9
(8)ウソ（違うこと言ってる/デタラメ） 9
(9)読み取り不能（ヨミフ/根拠無し/情報無し） 9
(10)真逆（逆のこと言ってる） 9
(11)要素不足（部品不足/ポンコツ） 10
(12)説明不足（具体性欠如/抽象論） 10
(13)視点違い(視点ずれ/よそ見禁止) 10
(14)論点違い（ロンチ/論点のすり替え） 10
(15)方向違い（崖からバンジー/方向ズレ） 10
(16)展開無視（ワープ/タイムトラベラー） 10
(17)矛盾（両立不可能） 11
(18)表面的説明(形式的説明) 11
(19)踏み込み不足（前段階/トンズラ/寸止め） 11
(20)ファンタジー♡（お花畑/おとぎの国） 11
(21)誇張（盛ったでしょ） 12
(22)誇張カモ（言い過ぎ？/大げさ？/極端？） 12
(23)強調カモ(こそ？/まさに？) 12
(24)断定（断言/言い切ったな！） 12
(25)断定カモ（絶対に？/必ず？/常に？） 12
(26)限定(そんだけぇ～♡/限定的一致) 12
(27)限定カモ（だけ？/のみ？/しか？） 12
(28)全称（全部が全部！） 13
(29)全称カモ（全て？/どれも？/みな？） 13
(30)お楽しみ箱（びっくり箱） 14～15

■飛躍（論理的飛躍）

(31)飛躍（論理的飛躍） 16
(32)意志飛躍（そんなつもりないし！） 16
(33)意志調整（積極度・消極度の調整） 16
(34)二分法（白黒思考） 17
(35)期待・願望飛躍（別に期待してないし） 17
(36)好意飛躍（別に好きってわけじゃないし） 17
(37)拡大解釈（意味広げたでしょ） 17
(38)単純化（単純な話さ） 17
(39)無理な一般化（例外は無いのけ？） 18
(40)カゼオケ論法（ドミノ論法/連鎖飛躍） 18

■前提操作

(41)前提のすり替え（聞いてないよ！） 19
(42)暗黙の前提（暗黙の了解） 19
(43)人物像不一致（人物像のすり替え） 19
(44)人物関係のすり替え（関係性が違くね？） 19
(45)条件トラップ（『条件』作ってみた!） 20
(46)仮定トラップ（『仮定文』作ってみた!） 20
(47)因果トラップ（『理由』作ってみた!） 20
(48)基準トラップ（『基準』作ってみた!） 20
(49)つまみ食い論法（チェリーピッキング） 20
(50)歪曲・曲解（ねじ曲げ/ネジマゲドン） 20
(51)肯定前提（肯定してたっけ？） 21
(52)前向き前提/決意前提 21
(53)受け入れ前提（受け入れてたっけ？） 21
(54)理解前提（理解してたっけ？） 21
(55)認識前提（認識してたっけ？） 21
(56)好意前提（好きになってたっけ？） 21
(57)期待/願望/あこがれ前提 21
(58)推定妥当（確かにアリえ～る!） 21

■偽装論理

(59)比較トラップ（別に比べてないし!） 22
(60)価値トラップ（価値判断/価値語・評価語） 22
(61)比較価値トラップ（比較と価値の合体!） 22
(62)因果の逆転 22
(63)因果要素の倒置 22
(64)偽装因果（因果関係作ってみた!） 22
(65)同語反復（おんなじこと言ってる/循環論法） 23
(66)前後同一（ダブり/同語反復/循環論法） 23
(67)類比論法（その例えは無関係!） 23
(68)屁理屈（ああ言えば、こう言う） 23
(69)ゴール違い（結論間違えた！） 24
(70)コース違い（道筋間違えた！） 24
(71)無関係（関連性無し/虚偽の関連付け） 24
(72)飛躍偽装（これ正解かよ！） 24
(73)意味不明（イミフ/ナゾ/曖昧/支離滅裂） 24

■技術的基本②

①**適切な動詞の選択**:「**ある・いる・やる・する**」で済まさず、その都度適切な**動詞**を探して用いる。
②**本文表現の尊重**:筆者や作者の意図(いと)により選択された表現を尊重する。
③**文末の心情表現**:「安心する**気持ち。**(**体言処理**)」、「安心して**いる。**(**動詞処理**)」のいずれも可。
④**意志・推量表現**:助動詞の「**う・よう・まい**」を適宜(てきぎ)使用し、正確な表現とニュアンスを工夫する。(例:去ろ**う**とした。逃げ**よう**とした。嘘(うそ)はつく**まい**。)
⑤**希望表現**:助動詞の「**たい・たがる**」を適宜使用し、正確な表現を工夫する。(例:帰り**たがっ**た)
⑥**「～ている・～てある」は「～た」に置き換えが可能。**(例:『壁(かべ)に掛(か)かっ**ている**時計＝壁に掛かっ**た**時計』・『紙に書い**てある**文字＝紙に書い**た**文字』)
⑦**ニュアンスの調整**:自分の語彙(ごい)力を駆使(くし)し、「**説明にふさわしいニュアンス**」で表現する。
⑧**語句の補完**:説明に必要な語句を判断し、適宜自分の「**言葉の引き出し**」から取り出して補(おぎな)う。
⑨**自由スペースでの字数の推定**:「**自由スペース**:マス目の無い解答欄(らん)」では、抜き出し問題等のマス目のある解答欄等を利用し、**要求されている字数を推定**する。
※一般に「**縦一行25字**」が平均であるが、模試や各学校の解答スペースに合わせて**適宜推定**する。

⑩**指定字数の順守**:「**～字以内**」とある場合は**八割以上**書き、「**～字程度**」とある時は、**極力その指定字数に近づける**。
⑪**文脈構成**:主語と述語の「**ねじれ**」や「**係り受け**」に注意し、**正確でわかりやすい文脈**を構成する。
⑫**指示語**:指示語を使用する際には、文脈上正しい用い方をすること。ただし、**指示語を使うと無駄**(むだ)**に字数を消費する場合が多い**ので、**なるべく指示語を使わない文脈構成**を訓練しておくとよい。

■技術的基本③

①**強調表現**:文章に説得力を与えたり、ニュアンスを与えたりするための工夫の一つ。
②**説得力を与える**:**読み手を説得する内容や表現の工夫**をし、また、文章に「**流れ**」を作る。
③**抽象表現化**:説明に必要な語句を適宜(てきぎ)抽象化し、無駄(むだ)の無い、要を得た文章を作る。「**抽象化**」が過度だと『**まとめすぎ**』となって「**具体性**」が低下し、逆に「**具体的すぎる**」と「**解答要素をはじき出す**」恐れがあるため、**制限字数に応じて抽象度と具体性を適宜調整する訓練**が必要。平常より「**記述や口頭でのアウトプット**」を通して、説明の具体化や、概念語などの抽象表現に変換する訓練を積んでおこう。
※**概念語**(がいねんご):物事の本質や性質について、その内容を抽象化して表す語。友情・信頼・疑問・対立・理解・喜び・不安・文化・社会・自然・価値・情報・合理的・因果関係、などの語。※p.26参照
④**文章構成・展開**:文章全体の構成や展開を工夫し、無駄のない、まとまりのある文章を心掛けよう。
⑤**書き出しの変更**:当初の書き出し方で文脈構成に行き詰(づ)まったら、即座に「**別の語による書き出し**」に切り替える。普段から「**文の書き出しを瞬時に切り替えて文脈構成する**」訓練を積んでおこう。
⑥**要約・凝縮**(ぎょうしゅく):各部を適宜凝縮する。**無駄のない表現で的確に内容を伝える工夫**をする。
⑦**表現の変換**:状況に応じ、適切な表現に言い換える。
⑧**反照代名詞の利用**
・「**自分**」という語を適宜利用し、**誰の視点からの説明かを明確にする**。「彼は**自分**の思いを伝えた」
⑨「**～など(等)**」は安易に用いず、必要な場合に適切な用法を考えて使用する。
⑩**「の」の連続使用**:「私**の**本**の**表紙**の**絵**の**色**の**～」のような、**『の』の不適切な連続使用**を避ける。
⑪**「Aし**たり**、Bし**たり**」**:「飛ん**だり**、跳(は)ね**たり**」、「降っ**たり**、やん**だり**」のような「**動作や作用の並列**」においては、**並列した回数分の「たり」を使用**する。
⑫**連結表現の工夫**:文中における「**連結部の表現**」を工夫する。「～ので/～から(理由・原因)」、「～のに/～が(逆接)」、「～で/～して/～し(並列・添加)」等を多用すると、「**～で、～で、だらだら**」型の稚拙(ちせつ)で冗長(じょうちょう)な文章となりがちなので注意。(※下表参照)

■**連結表現**
・～について(**論点/関連**) ・～ために(**目的/原因・理由**) ・～ことで/によって/に基づく/をもとに(**土台**)
・～に対し/ことに/への(**対象**) ・～せずに/ことなく(**否定**) ・～において/における(**時間/場所/状況**)
・～だけでなく/とともに/うえに/のみならず/に加え/ばかりか/ばかりでなく(**添加・並列**)
・約束したにもかかわらず/自由でありながら(も)/信じたものの/疑いつつも(**逆接**) ・達成するうえで/協力のもと(**条件・前提**) ・許すとしても/難しいにせよ(にしろ)/友人であれば/認めるなら(ば)(**仮定条件**)
・社会人として(の)(**資格**) ・姉である花子(**同格**) ・増えるにつれて/発展にともない(**変化**)
・早いのに対し(て)/意に反し(て)/強い反面/増えた一方で(**対比**) ・咲くと同時に/日没とともに(**同時**)

■**連用中止法**
・「よく**学び**、よく遊べ」、「**頼もしく**、快活な人物」、「**静かに**、ゆっくりと歩く」などのように、動詞や形容詞、形容動詞などの語を連用形で一旦(いったん)中止して、その後に文を続ける方法。**直後に読点を打つ**。

■技術的基本①

①文末処理

・設問の要求に沿って、文末を正確に対応させる。

> ・なぜ？　どうして？　理由は？ …… ～から。～ため。（～ので。）
> ・何ですか？ …… ～こと。～体言。（～もの。）
> ・どういうこと？ …… ～（という）こと。
> ・どのようなもの？ …… ～（という）もの。（～体言。）
> ・どのような意味？ …… ～（という）こと。
> ・どのような内容？ …… ～（という）こと。
> ・どのような気持ち？ …… ～（という）気持ち。
> ・どのような様子？ …… ～（という）様子。
> ・どのような点？ …… ～（という）点。
> ・どうしていますか？ …… ～している。
> ・どうしましたか？ …… ～した。
> ・どうしていましたか？ …… ～していた。
>
> ※文末を「～ので。」と結ぶのは文法的にも解法的にも誤りではないが、模範解答等ではごく稀（まれ）に見かける程度である。（例：声の教育社版、『麻布中学（平成3年度・昭和63年度）』、『桜蔭中学（平成12年度・8年度）』、『雙葉中学（平成20年度・15年度・10年度）』等）

②前提事項（ぜんていじこう）の重複（ちょうふく）記入に注意

・「設問文中の前提事項」を重複記入しない。
※例えば、設問で「太郎の気持ちを説明せよ」と求められているのなら、太郎を「暗黙（あんもく）の前提」として説明すればよいのだから、文脈上必要な場合を除き、「太郎は…、太郎は…」のように何度も書き重ねる必要はない。
※「前提事項の重複記入」に意識が向かず、制限字数を圧迫（あっぱく）して解答要素をはじき出してしまっている受験生が、上位生を含めて非常に多く見受けられる。
※「抜き出し問題」においてもまた、設問の条件における「前提事項」に注意が向かないと、『ここから、ここまで』という、要求に対応した正確な範囲（はんい）特定を誤（あやま）る恐れがある。

③長い主語の構成

・短い主語での書き出しは、「～で、～で、だらだら」と稚拙（ちせつ）で冗長（じょうちょう）な文章になりがち。
※例えば、「花が →庭に美しく咲いており、……」を「庭に美しく咲いている 花が 、～」のように、関連語句をまとめて「中心主語」の上に載（の）せ、「長い主語」を構成して書き出すことで、それに続く文脈もすっきりとし、わかりやすくなる。
※「主語」以外についても意味的にまとめる工夫をしてみよう。

④表現の重複を避（さ）ける

・文脈上必要な場合を除き、記述説明に「同語・同義語」を重複使用しない。制限字数を圧迫（あっぱく）する原因となるだけでなく、解答要素をはじき出してしまう原因ともなる。

⑤「が」と「は」の使い分け

・「太郎が」と「太郎は」とでは意味、用法が異なる。文意、文脈に沿（そ）ったふさわしい表現を選択する。

⑥語句の短縮

・動詞や語句を適宜短縮する。（例：食物にふくまれている脂肪（しぼう）＝食物にふくまれる/ふくまれた脂肪）

⑦倒置・再構成

・「語句の倒置」や「パーツ全体の再構成」を適宜（てきぎ）行い、無駄（むだ）の無い、内容の整理されたわかりやすい文脈を構成する。
　・例：『牛乳にはわずかな塩分がふくまれているが、海水に比べるとその濃度（のうど）ははるかに低い。（39字）』
　　を再構成すると、『牛乳にふくまれる塩分の濃度は、海水に比べてはるかに低い。（28字）』となる。

⑧具体性を高める

・言葉を整理して、具体的でわかりやすい文章を心掛けよう。

⑨趣旨（しゅし）を文、または文章の後尾に固定する

・「仲直りして、握手（あくしゅ）した（事柄（ことがら）の前後関係を示す）」と、「握手して、仲直りした（並行（へいこう）的状況を示す）」とでは文意が異（こと）なる。趣旨（伝えたい内容の中心）は文章全体を支配する。「解答の核（かく）」となる趣旨を文（文章）後尾に固定したうえで文脈を構成しよう。たとえ解答要素が揃（そろ）っていても、趣旨が異なることで文章全体を殺（ころ）してしまう場合もある。

⑩句読点

・一文において、読み誤（あやま）りや読みにくさを避（さ）けるため、「意味の流れが途切（とぎ）れる所」や必要な場所を適宜判断し、「読点（、）」を打つ。「一つ言いたいことを述べたらテン（読点）を打つ」ことを意識し、各要素どうしを適切に連結していくとよい。そして、叙述（じょじゅつ）が完結したら、文末に「句点（。）」を打つ。

■すり替え一般

(74)主語のすり替え（えっ、マジか!）**25**
(75)心情違い（気持ちが違う）25
(76)理由違い（理由のすり替え）25
(77)きっかけ違い 25
(78)いきさつ違い（経緯違い）25
(79)目的違い（目的のすり替え）25
(80)対象違い（対象のすり替え）25
(81)あらすじトラップ 25
(82)語のすり替え（語意のすり替え）**26**
(83)換言トラップ 26
(84)ぼかし語トラップ ※概念語 26
(85)迂言（うげん）法 26
(86)一般論（普通はそうだろ）**27**
(87)常識・道徳論（文句言うな逆らうな）27
(88)比喩説明不適 ※実在トラップ 27
(89)暗示・象徴トラップ 27
(90)可能性トラップ 27
(91)主題違い（要旨違い/主題トラップ）27
(92)趣旨違い（脱線/意味違い/意味ズレ）**28**
(93)非主要（後回しでよくね？）28
(94)主観（どっかの誰かさんの考え）28
(95)それってあなたの感想ですよね！ 28
(96)成り済まし（偽装理由）28
(97)別の事柄の説明（別件の説明/不正流用）28
(98)余計（邪魔/異物混入/蛇足/お邪魔虫）28
(99)替え玉（身代わり）**29**
(100)偽証トラップ 29
(101)回想部の変造（思い出作ってみた！）29
(102)定義のすり替え（定義ちがくね？）29
(103)語句矮小化（なんか意味弱まった…）29
(104)論点矮小化（大した問題かよ！）29
(105)反対語トラップ 29
(106)単純例示 **30**
(107)半分ずっこ（ハーフ＆ハーフ）30
(108)要素倒置（要素不足誤認）30
(109)具体例照合（落ち着いてあわてろっ♡）30
(110)否定不能（消極的肯定/出直して来いや）30
　※希望的観測
(111)正答もどき（ゴースト/パラレルワールド）30

■関連手法（12種）

＊1:わら人形論法（ダミー攻撃/歪曲攻撃）**31**
＊2:道徳主義トラップ（道徳をダシにせよ！）31
＊3:自然主義トラップ（自然に倣え！）31
＊4:新規主義トラップ（新しければいいの？）31
＊5:伝統主義トラップ（古ければいいワケ？）31
＊6:論点まき散らし（めまいがするぜ）31
＊7:事実の主張へのすり替え **32**
＊8:前後即因果（祈ったから合格した!）32
＊9:逆は必ずしも真ならず（逆立ち飛躍）32
＊10:裏返しは必ずしも真ならず（裏返し飛躍）32
＊11:疑似相関（見せかけの相関）32
＊12:比較不成立（比べるなよ！）32

■心理操作術

①確証バイアス **40**
②初頭効果 40
③新近効果 40
④アンカリング効果（初期値提示誘導）40
⑤誤前提暗示 40
⑥イエス誘導法 40
⑦事後情報効果 **41**
⑧催眠誘導 41
⑨ゾンビ効果 41
⑩サブリミナル効果（隠し誘導文）41

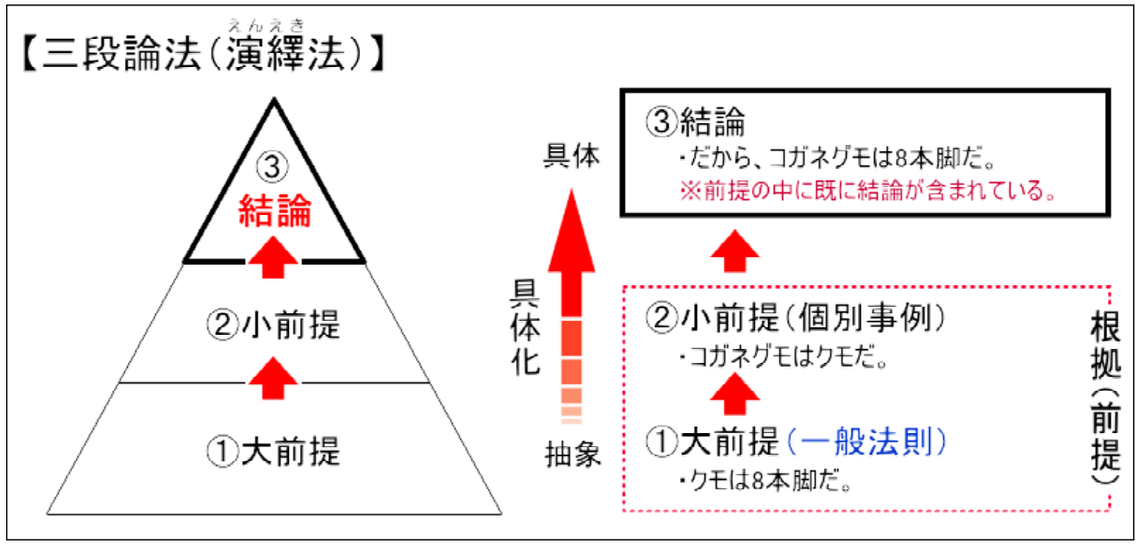
■その他

・自己矛盾 11
・だって論法 13
・曖昧語法（二重語法）13
・レッテル貼り 18
・ダブルスタンダード（二重基準）24
　※概念語 26
・悪魔の証明 33
・疑似相関（見せかけの相関）34
　※循環論法 ※p.23参照 34
・のび太論法・ジャイアン論法 39
・今週のジャイアン当番 42
・5人の宇宙人 43
・Aさんの帽子は何色か？ 44
・天使と悪魔と人間 45
・犯人を見つけろ！ 『誠実』行方不明事件 46
・消えた1,000円の謎 47
・二つの砂時計 48
・ライオンと羊とキャベツを運べ！ 49
・勝利をつかめ！ 50
・魂を返せ！ 51
・偽金貨はどれだ？ 52

■付録（ふろく）

・時間配分のしかた 53
・時間短縮訓練 54
・高速トレース（全脳型分析的高速処理）55
　※高速トレースの方法
・再現学習（口頭でのアウトプット）56
　※読書・音読・読み聞かせについて
・フラッシュリーディング（全脳型速読法）57
　※フラッシュリーディングの方法
・抜き出し問題での「正解の推定字数」58
・「就」の正しい字形 59
・記述力の練成技術 60～63
　※連結表現・連用中止法 63
・「接続語」一覧表 64
・「受験生の君たちへ」（裏表紙）

■基本的な論理① 三段論法（演繹法）



・**三段論法**とは、**「二つの前提」から「一つの結論」を導き出す**推論形式で、論理展開の基本とされます。**「前提」**とは、**「結論」を導くための「根拠となる条件」**のことです。**「前提」は、「論理の土台」**であり、**正しい論理や因果関係を組み立てるうえでの重要な要素**となります。
・読解においては、「思考の迷い」や「判断の揺(ゆ)らぎ」を起こさないために、正確な読解に基(もと)づいて**「前提」をしっかりと固定する**必要があります。

> ①**【大前提】**で**「一般法則（全体のことがら）」**を述べます。
> 例：クモは8本脚だ。
> ②**【小前提】**で**「個別事例（一部のことがら）」**を述べます。
> 例：コガネグモはクモだ。
> ③**【結論】二つの前提を「根拠」として、「結論」**を導きます。
> 例：だから、コガネグモは8本脚だ。 ※前提に既に結論が含まれているために完全に納得される。

■基本的な論理② 暗黙(あんもく)の前提
・**特に言明せずともわかりきった前提**を「**暗黙の前提（暗黙の了解(りょうかい)）**」という。

> ・太郎君：クモは8本脚なんだよ。 【大前提】
> ・次郎君：だから、コガネグモも8本脚なんだね。 【結論】

・日常の会話等ではこのように表現しても意思疎通(そつう)に支障はない。それは、**「コガネグモはクモの一種だ」**という**もう一つの「前提」が当事者間で暗に「共有」されている**ためだ。
・両者で暗黙の前提となっている事柄(ことがら)の全てをいちいち確認し合っていては話が進まない。逆に、自分と相手との間で前提が一致していると思い込んでいると、**「前提の不一致」**により**齟齬**(そご：意見などが食い違うこと)が生じたり、**水掛け論**（両者が自説にこだわって争い、いつまでも結論の出ない議論）に陥(おちい)ったりして人間関係にまでひびが入ってしまうこともあるので注意しよう。

◎中学受験国語の読解学習においては、本文の正確な内容把握により、**①「明示された前提」と、②「表現の裏にある前提」に加え、③「暗黙の前提」の三つをしっかりと押さえる**ことが大切だ。そして、この三つを正しく把握(はあく)するうえで大切なのが**「本文の通読」**であることは言うまでもない。筆者（作者・登場人物）、作問者、解答者との**三者間で「前提を合致(がっち)させておく」必要がある**からだ。前提が合致していないと**思考に揺(ゆ)らぎが生じ、判断もその都度揺(ゆ)れを起こす**。

■表現の裏にある前提
・例えば、選択肢の説明内に**「決心した」**という表現があったとすると、それはその人物が**「それまで迷っていた、それまで決心せずにいた」**といった意味が考えられ、また、**「仲直りした」**とあれば、それは**「それまで仲違(なかたが)いしていた、仲直りするかどうか迷っていた」**といった意味が考えられるが、それが実際に**前提**として本文の内容に合致(がっち)するのかどうかを照合によって正しく掴(つか)む必要がある。

■大原則
①設問の要求を正確に把握する
・設問がまず**「何を要求しているのか」**を正確に捉(とら)え、**正しい方向に沿(そ)って思考**すること。また、**「その要求を、自分に与えられた解決すべき問題としてしっかりと受け止める」**ことで、見当違いの思考やミスが必然的に無くなっていく。
②趣旨(しゅし)を固定する
・**「自分が伝えたい内容を明確に固定する」**。正確な読解に基づき、趣旨(しゅし)を明確に固定すれば、**解答要素は自動的に集まってきてくれる**。ただし、**「あらすじを書いただけ（あらすじ解答）」**、**「機械的に切り貼(は)りをしただけ、本文の内容を書き写しただけ（コピペ解答）」**とならぬよう、趣意に沿って、正確に文脈構成しよう。
③正確で、伝わりやすい表現を工夫する
・**「正確で、伝わりやすい表現を工夫すること」**は、**「表現の本質」**だと言える。最難関校を目指しながら、単に**「切り貼(は)り」**をしただけのような、**機械的で稚拙(ちせつ)な、読み手に「うまく伝わってこない」記述答案**しか書けない受験生が驚くほど多い。入試答案を採点する先生のうんざりした表情が目に浮かぶようだ。自分の将来のためにも、**「自分の考えが読み手や聞き手によく理解されるような表現力や説明力、説得力」**を磨(みが)いておこう。
※「中学受験は**算数さえ強化すれば何とかなる**」といった昔ながらの観点で、**「極端に算数に偏(へんちょう)重した指導」**に徹(てっ)する受験指導者がまだまだ多く見受けられるが、現在は**「国語はできて当たり前」**にしておかなければならないだけでなく、**「四教科や分野間の学習バランスや実力バランス」**、また、**「総合的学力」**をも勘案(かんあん)し、適宜(てきぎ)学習時間や学習メニューを**「調整」**しながら強化、補完等を図ってゆく必要がある。

■基本
①主語・述語
・一文一文、文意が正しく伝わるよう、**主語・述語の整った文章**を心掛けよう。
②係り受け
・趣旨や文脈が乱れないよう、**係り受け**を意識して正しく表現する。
③誤字・脱字
・誤字・脱字の無いよう、**「書きながら確認」**する**注意力**が必要。

④句読点・符号は一字扱い
・一般に**「句読点、符号等は一字扱い」**が原則となっている。**原稿用紙の書き方の決まりと、模試や入試での書き方の決まりとは異なる**ため、句点や読点を次行の冒頭に打たねばならない場合がある。
⑤口語体（会話表現）や俗語を使用しない
・「～けど」、「～じゃなく」、「あったかい」、「おんなじ」等の口語体は使用しない。また、「違(ちが)くて」、「ばれる」等の俗語(ぞくご)も使用せず、「違い」、「知られる・知れる・露見する」などと言い換える。「むかつく」は俗語ではないが粗暴な印象を与えるので「腹が立つ」、「腹を立てる」などと言い換える。
※『**ばれる**』：2025年2月現在、岩波、旺文社、学研、角川、三省堂、集英社、小学館等の国語辞典では「俗語」と明記している。
⑥文体統一
・文体は**常体**（**「～だ、～である言葉」**）で統一する。 ※**「です・ます言葉」**は**「敬体」**という。
⑦文中語句・自分の言葉
・**「本文中の語句を使用して」**とある場合には、**本文中で使用されている語句をなるべく多く使用**する。
・**「自分の言葉で」**とある場合には、説明に必要な語句を除き、本文中の語句はなるべく使用せず、**自分の語彙(ごい)力を駆使(くし)して説明**する。
⑧不明確な比喩(ひゆ)表現の使用は避(さ)ける
・例えば、**「海のような心の持ち主」**という表現は、たとえている内容が「広い、大きい、静かだ、穏(おだ)やかだ、包(つつ)み込むような深さ、荒々しい……」というように受け取り方がさまざまに異なり、客観的な説明が成立しない。
⑨自分の使える漢字は使う
・普段の言語生活がそのまま一枚の答案に反映する。**言葉に関わる姿勢**を保って学習をしよう。
⑩無駄なく、正確な内容で表現する
・**一文50～60字で無駄なく正確な内容と文脈で表現する力**を身に付ければ、あとは**「趣旨に沿(そ)った文どうしのふさわしい連結」**によって、**「一文100字」**であっても流れのよい趣意の正確な叙述(じょじゅつ)ができるようになる。**「連結」**の際に、「～で」、「～して」、「～ので」、「～が」を多用しないよう意識しよう。

■暗黙(あんもく)の前提(ぜんてい)（暗黙の了解(りょうかい)） ※基本的な論理②『暗黙の前提』（p.4）参照！
・**「わざわざ言明せずともわかりきった前提」**を**「暗黙の前提」**という。記述上の高度な技術の一つとして、**「暗黙の前提」の利用**がある。簡単な例では、「建物の**中から外へ**飛び出す（**12字**）」という表現では、「建物の中から飛び出す（**10字**）」、あるいは、「建物から外へ飛び出す（**10字**）」、「建物から飛び出す（**8字**）」としても、意味的にほとんど違いは無い。文脈上、**「飛び出す」**行為に**「中から外へ」**の意味が**暗黙のうえに了解される**ためだ。**「暗黙の前提」**を記述説明に利用する場合には、**文章全体の流れや、文意、文脈を踏(ふ)まえ、文字数も勘案(かんあん)しながら適宜(てきぎ)表現の調整を行う**とよい。

【記述力の練成技術】

■表現の本質

・開成中学で開示された模範解答に、記述解答の採点基準として、かつて次のように記されていたことがありました。「**言葉の係り受けが正確であること、文章のつながりが適切であること、読みやすく誤字のない表記であることなども、重要な要素です**（平成14年度/2002年度入試）」、「**本文中の言葉や自分なりの言葉を使って、説得力のある文章を作りあげる力が大切です**（平成15年度/2003年度入試）」、「**解答にあたって求められているのは、…（中略）…正確な、伝わりやすい表現が工夫されていることです**（平成16年度/2004年度入試）」。

・これを読んでわかることは、表面的には「単に機械的に切り貼りをしただけのような記述答案や、趣意のはっきりしない記述答案には十分な評価を与えられない」といった技術的な側面での評価基準です。しかし、一歩踏(ふ)み込んでみると、そこにあるのは、「**自分の考えをしっかりと持ち、それを論理的、かつ正確に、他者に対してしっかりと伝える力**」を素養として備えた者に入学してきてもらいたいという、人間同士の生身(なまみ)のコミュニケーションを前提とした、開成中学の発するメッセージの深遠な本質です。

・普段、机に向かうばかりが勉強ではありません。時に外界に目を広げ、五感を働かせながら、一つひとつの事象や問題について、触れ、感じ、考えてみる。一つひとつの問題について、それを「**自分の中でしっかりと受け止める**」こと。そして、「**自分が考えたことや感じたこと**」を「**他者に対し本気で伝えたいと欲(ほっ)する**」こと。さらに、それを「**工夫しながら表現し、正確に伝えんとする**」こと。

・**開成中学は、受験生に対して、実は何も特別高度なことを要求しているわけではありません**。書くうえでも、話すうえでも、「**伝えることは表現の本質**」であり、社会を生きてゆく中で、人と人との関わりやコミュニケーションを根本に据(す)えて、「**伝える力の大切さ**」や「**言葉の力への信頼**」という、**ごく基本的で当たり前のこと**を認識し、そのうえで、将来をきちんと見据(す)え、着実な歩みとともに、しっかりと学業に取り組んでもらいたいという、そんな意味のこめられたメッセージと受け取ることができます。

・「**伝え合うこと**」の意味をよく考え、それを自ら深く受け止め、**言葉に関わる姿勢や取り組み**を今一度見直し、普段の言語生活をより豊かに変えてゆくこと、自分自身を磨(みが)き、自分自身の生き方を見定めながら、未来に向けて意志的に歩みを進めてゆく、そんな自分自身に育ててゆくことが、学ぶ者の姿勢としてとても大切です。

■《開成基準》で記述訓練に取り組む

・「**正確な、伝わりやすい表現を工夫する**」、「**説得力のある文章を作りあげる力**」。**開成中学は特別に高度な記述力を要求しているわけではありません**。求められているのは、「**自分の考えをまずしっかりと持ちなさい**」、「**それを他者に対して正しく、確かに伝えられる自分でありなさい**」、「**基本を疎(おろそ)かにしてはいけない**」、というだけの至極(しごく)当たり前のことに過ぎません。難関校に限らず、**いずれの中学校を受験するにしても、これを《開成基準》としてよく心に刻(きざ)み、常に念頭に置いて記述学習に取り組む**ことで、君の記述答案の水準は今後、劇的に変化してゆくことでしょう。

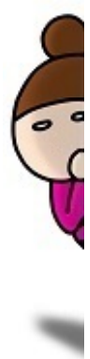
・ちなみに開成中学では、「**漢字の書き取り**」については、「**解答にあたって求められているのは、正確に書かれた読みやすい漢字であることです**（平成16年度/2004年度入試）」としています。自分が書く文字についても、「**伝える手段**」の一つとしてあらためて捉(とら)え直し、いずれの中学校を受験するにしても、また、普段の生活においても、**読み手のことを念頭に置いてきちんと書いて伝えられる**ようにしましょう。

・尚(なお)、現在、配点上、もしくは内容面を評価する都合、入試において「**漢字の書き取り問題ではトメ・ハネ・ハライは見ない**」、「**記述答案での『ら抜き言葉』や『違(ちが)くて』、『今いち』等の『俗語(ぞくご)』の使用は問わない**」、「**句読点についても見ない**」と公言する中学校が増えていますが、君たち受験生は、**学ぶ者の姿勢として、あくまで自分に厳(きび)しく、基本を疎かにしない《開成基準》**を常からよく守り、学び、取り組んでゆくようにしましょう。
※**ら抜き言葉**：見れる、着れる、出れる、来れる、起きれる、食べれる、考えれる、決めれる等の俗語。

■記述指導

・集団指導や個別指導でいくら「**詳細な解説**」を受けたとしても、あるいは、先生から答案に「**丁寧な添削**」を受け、**コメント**を細々(こまごま)と熱心に書き込んでもらっても、**その後の「仕上げ作業」**が伴(ともな)っていないのであれば、いつまで経っても精度の高い記述答案を書き上げられるようにはなりません。返却された添削答案をさらりと眺(なが)めて、「ふうん……」で済ませてしまってはいませんか。

・塾の先生に、質問という形で、少しであっても時間を割いてもらい、大人の視点による指摘を受けながら、**先生と生徒との生きた言葉での直接のやりとり**を通して、**両者が納得のいく水準、精度にまで記述答案を練(ね)り上げていく**ような取り組みを継続しないと、結局は「**添削答案を眺めただけ**」の「**書きっぱなし、やりっぱなし**」に終始し、本来的な記述力の向上を図ることは不可能です。**継続的な訓練により、子どもたちの記述力、表現力がその最高水準に達するのは、まさに受験直前期の1月（あるいは、入試本番）**です。**塾の先生は、自分の担当する生徒たちが質問に来てくれるのを待ってくれています**。遠慮(えんりょ)をしてはいけません。**自身の記述力を磨(みが)き、最高水準にまで高めるために、受験直前に至るまで、塾の先生の指導を徹底的に活用させてもらいましょう**。



・ただし、突然の訪問は避け、先生の都合に配慮し、依頼の気持ちを自分の言葉で誠実に伝えてください。そして、**先生に解決を丸投げ**するのではなく、疑問について「**何をどう改めるべきか**」を自ら熟考(じゅっこう)し、「**自分なりの準備**」を十分に済ませたうえで質問に向かってください。そのうえで、「**自分の考え**」を、自信を持って先生にぶつけてみてください。

■基本的な論理③ 前提のすり替え

・ある主張（結論）が成り立つための大もととなる**「本来の前提」を、「それとは合致しない別の前提」にすり替えたうえで論理展開する**こと。

> ・**花子さん**：**夏休みの宿題、もう全部終わったもんね！（前提**：自力で宿題を処理）
> ・**愛子さん**：**先生にバレなきゃいいね！（前提**：花子がズルい手を使って宿題を処理）
> ・**花子さん**：**もうっ！　違うってば！　意地悪！**

・「花子さんは実際に自分一人の力で全ての宿題を早く片付けることができた（**正しい前提**）」のですが、愛子さんはその「**事実＝前提**」を承知しながら、「花子さんが何かズルい手を使って宿題を早く片付けることができた」という**「別の前提」に「わざと変更＝すり替え」**を行って意地悪く応答しました。

◎「**前提のすり替え**」は、選択問題においても誤答に誘導する手法としてしばしば用いられる。本文を流し読みや飛ばし読みをしていると「**前提の誤り**」を見抜くことができず、**判別を困難にする**。本文における「**前提**」と選択肢の説明における「**前提**」とが**合致するかどうか**を見極められるよう訓練しよう。

■基本的な論理④ 因果関係

・ある事柄が「**原因（前提）**」となり、その「**結果**」として別の事柄が引き起こされる関係を「**因果関係**」という。

> ・**「勉強しないでこっそり'YOU TUBE'を見ていたので（原因/前提）、怒られた！（結果）」**

・読解学習においては、**「原因」と「結果」との間の「関連性や連続性」**をしっかりと掴みながら本文を読むよう心掛けよう。また、ものごとについて考える際には**「論理的矛盾(むじゅん)や論理的飛躍」**が起きないよう注意し、何か問題が起きた際には、**「結果」から遡(さかのぼ)って「原因（前提）」を探り、確かめ、検討し、対処する**ようにしよう。

◎**因果の逆転**：選択問題においては、例えば、「**受験生が多いから、塾が多い（Aだから、Bである）**」という内容を「**塾が多いから、受験生が多い（Bだから、Aである）**」のように「**本来の因果関係を逆転させて説明**」し、誤答への誘導を図る場合がある。「**要素の有無**（必要な要素を含むかどうか）」や「**要素の正否**（せいひ＝要素の内容が正しいかどうか）」に注意を奪(うば)われ、そのために却(かえ)って「**因果の逆転**」に気づかない恐(おそ)れもあるので注意。

■基本的な論理⑤ 矛盾

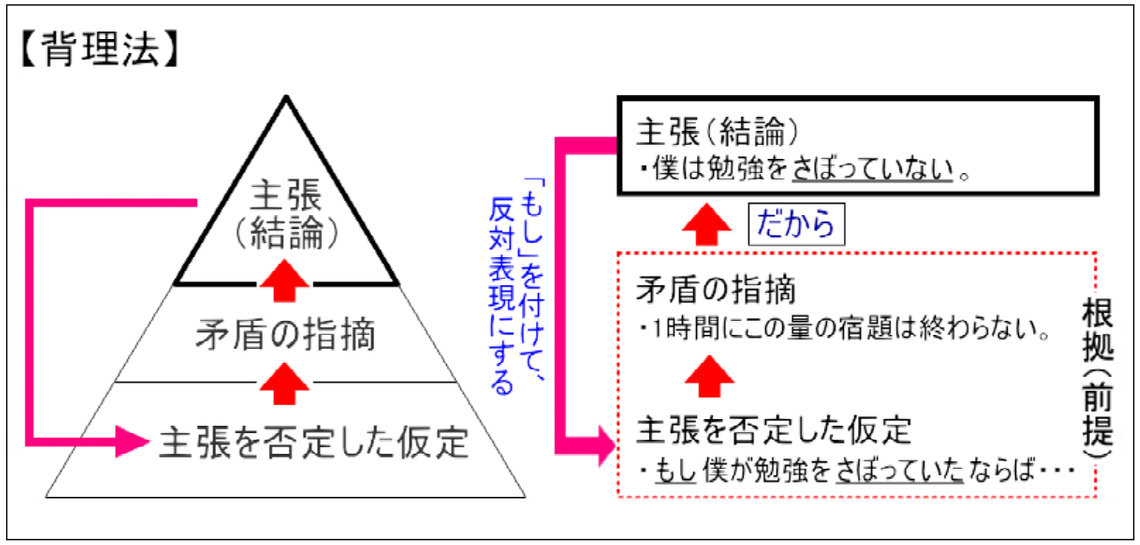
・**二つの主張のつじつまが合わないこと**。論理的な食い違いがあり、筋が通らないこと。**撞着**ともいう。

> ・昔、中国の楚の国で、矛と盾を売っていた商人が、「**この矛は、どんなにかたい盾をも突(つ)き通すことができる。また、この盾は、どんなに鋭利(えいり)な矛であっても突き通すことができない**」と言って誇(ほこ)った。
> すると、見物人が、「**では、その矛でその盾を突いたらどうなるか**」と問うたところ、商人は返答に窮(きゅう)してしまった。

・「この矛はどんなにかたい盾をも突き通すことができる」という**主張**[A]と、「この盾はどんなに鋭利な矛であっても突き通すことができない」という**主張**[B]は、論理的に整合しない。つまり、[A]の主張を「正しい」と認めた場合は[B]の主張が「誤(あやま)り」となり、逆に[B]の主張を「正しい」と認めた場合は[A]の主張が「誤り」となって、**二つの主張を両立させることが不可能**なのだ。

◎選択問題においては、記憶や勘に頼らず、選択肢の説明が「**本文の内容と矛盾しないか**」、「**説明そのものに論理的な食い違いは無いか**」を、本文と照合しながら論理的に検討しよう。

■基本的な論理⑥ 背理法



・「背理法」とは、「①：ある主張」について、「②：その主張を否定した仮定（『もし』を付けて反対表現にする）」を行い、それにより生じる「③：矛盾」を示すことで「仮定の誤り」を導き、結論として「④：当初の主張が正しい」ことを間接的に証明する方法です。ただし、主張（結論）が本当に正しいかどうかは検証によって確かめられる必要があります。

①「お母さん、僕、勉強サボってないよ」	【主張】
②「「もし勉強をサボっていたのなら……」	【主張を否定した仮定】
③「一時間にこれだけの宿題が終わるはずがないよ」	【矛盾の指摘】
④「だから、僕は勉強をサボってない！」	【結論＝主張】

※さぼる：フランス語の「サボタージュ（怠業）」を語源とし、「怠ける」という意味で大正時代から使われているが、俗語（ぞくご）なので、記述答案やあらたまった場面では使用すべきでない。
※俗語（ぞくご）：あらたまった場面では用いられないような、品の無い、くだけた言葉。

・別の例文：①「私は犯人ではない」→②「もし私が犯人なら」→、③「犯行時刻に、犯行現場であるA町にいたはずだ。でも、その時私はB町にいたし、証人もいる」→④「だから、私は犯人ではない」

◎日常においても、私たちは無意識的に背理法を使って思考したり、会話したりすることがあります。上記の図と例文を参考に、背理法を使った簡単な例文を考えてみてください。

①「	」【主張】
②「	…」【主張を否定した仮定】
③「	」【矛盾の指摘】
④「	」【結論＝主張】

◎選択問題での応用：「もし『ア』が正しいとすると、『▲』という矛盾が生じる。だから、『ア』は正解ではない」というように選択肢を背理法で消去できる場合があるので、是非練習してみてほしい。

①空欄Aに選択肢『ア』は入らない。	【主張】
②もしAに『ア』が入るなら……、	【主張を否定した仮定】
③時間の流れから見て、文脈が不自然だ。	【矛盾の指摘】
④だから、空欄Aに『ア』は入らない。	【結論＝主張】

【就】の正しい字形

・漢和辞典に掲載されている漢字は、中国の「康熙字典」という漢字辞典を典拠としています。「就」の字は、「尢（だいのまげあし・おうにょう）」という部首に属していますが、この部首に属する漢字には二つの系統があります。漢和辞典を見てみると、「尢（だいのまげあし）」という部首の項目内に、一つ目の系統として、「尢（オウ）」という字が掲載され、一方、二つ目の系統には「尢（オウ）」の右上に「点」を打った「尤（ユウ）」、「就（シュウ）」等が掲載されています。

・「尢（オウ）」には「まがったすね、せむし」などの意味があり、足や体に障害を負って不自由であるさまを象った象形文字です。一方、「尤（ユウ）」は「とがめる、もっとも、とりわけ、すぐれている」などの意味をもった指事文字であり、両者の由来は全く異なっています。

・康熙字典では、第一の系統（象形文字）にある「尢（オウ）」の字は「少し右に飛び出してから下ろす」形となっていますが、第二の系統（指示文字）にある「尤（ユウ）」は「真っ直ぐに下ろす」形となっています。このことから、同じく第二の系統にある「就」もまた第十一画は「真っ直ぐに下ろす」ことになり、これを「正字」とします。
・ところが、康熙字典には、「少し右に飛び出してから下ろす」字形の「尢（オウ/象形文字）」が、「尤（ユウ/指示文字）の異体字」として別に掲載されてもいることから、「就」の字もまた「少し右に飛び出してから下ろす」字形で書いても、「異体字」としては間違いであるとは言えないのです。
※以上の内容は、大修館書店「漢字文化資料館Q&A：262」に掲載された記事に依拠しています。
※異体字：正字（標準の字体）とは異なるが、意味や発音、用法が同じであるため通用する字体。

・以上により、小学生の場合、6学年配当漢字である「就」は、当然異体字ではなく、「真っ直ぐに下ろして書くのが正しい」として正字を学ぶ必要があります。

■視覚的誤認について

・ゴシック体は、太く角張った線でデザインされた書体で、見やすく目立つため、見出しや広告などによく使用されています。左図（さず）のとおり、第11画の縦線が第10画目に触（ふ）れているだけであっても、線が太い（線幅が広い）ために右に飛び出しているように錯覚（さっかく）されます。この錯覚は、文字が小さくなるほど強くなる傾向（けいこう）にあります。左図を目から離（はな）して見てみてください。また、ラインマーカー（マーキングペン）の太字を利用して、ゴシック体を真似（まね）て5cm角程度の大きさで「尤（ユウ）」の字を書いて、錯覚の状況を自分でも確かめてみましょう。

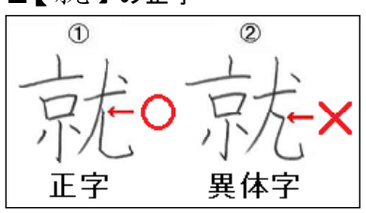
■教科書体

・教科書体とは、小学校の教科書で用いられ、手書き文字に近い字形をもとにデザインされている、「書く学習」のための書体です。
・「就」の字の第11画の入筆部を見てみましょう。第10画に触れるようにして、毛筆のように斜（なな）めに太い「筆あと」がついています。しかし、よく見ると、第11画の線は決して斜め右下に長い線として飛び出してはいません。入筆部の上辺だけを見てしまうと、第11画が斜め右下に飛び出しているように錯覚されてしまいます。この錯覚は、文字が小さくなるほど強くなる傾向（けいこう）にあります。左図を目から離して見てみてください。

・第11画は、「乳」や「乱」の部首である「おつにょう（つりばり）」とほぼ同じ形をしています。「おつにょう」を書くときに、私たちが目立つほど右に長く飛び出して書かないのと同じことです。

※「枕（まくら）」や「沈（しず-む）」の旁（漢字を構成する右側の部分）については字源が明らかになっていませんが、ことさらに目立つほど右に飛び出して書く理由がありません。錯覚という観点から見ても同様です。

■【就】の正字



・小学校で習う『就』の正字」は①のほうですから、極端に右に飛び出した②のように書いてはいけません。ただし、②は「異体字」といって、一般にはよく使用されている字形です。
・シャープペンや鉛筆、ボールペンなどの細い筆先の筆記具で第11画を書く際には、「筆先を一旦（いったん）斜めに置いた後、手首をわずかに右に返してから真っすぐに下ろす」ように書きます。

【抜き出し問題での正解の推定字数】

■抜き出し問題

・「**抜き出し問題（書き抜き問題）**」は、「**設問の要求を正しく把握し、正しく方向づけて考え、要求に合致する箇所を正確に判断し、過不足なく正しく書き写す**」問題です。
・抜き出す箇所の字数条件については、例えば①「20字以内で」と**字数幅を自分で判断する**必要のある場合や、②「15字以上20字以内で」のように一定幅が提示される**場合**、また、③「7字ちょうどで」のように**完全に字数を限定される場合**等があります。
・特に、①の「**〇字以内で**」という条件での抜き出し問題を指導で扱う際に、生徒に「**正解の文字数は何文字以上あると推定されるか？**」と問うと、大抵（たいてい）の場合、「**『最低でも8割以上』と教わった**」と答えます。この「**指定字数の8割以上**」という基準は本当に正しいのでしょうか。実際には何文字を基準とすればよいのでしょうか。

■作問基準

・「〇字以内で」のような条件が設定されている問題について、これまでの経験をあらためて振り返ってみてください。「20字以内で」、「25字以内で」、「30字以内で」、「35字以内で」というように、そのほとんどが**きりのよい字数**であったことに思い当たります。
・作問者が正解と決定した箇所の字数が仮に「10字」である場合、作問者によって、あるいはその時々によって字数条件を変えて「15字以内で」と設定したり、「10字以内で」と設定したりすれば、解答者側は一定しない判断基準に困惑するだけでなく、学習上も大変不都合です。
・そこで、作問者側は、「10字以内で、という条件下では正解の字数は6字以上」、「15字以内であれば11字以上」、「20字以内であれば16字以上」、「50字以内であれば46字以上」というように、一定の字数範囲を暗黙（あんもく）に決め、これを一つの「**作問基準**」としています。

■正解の推定字数

・以上により、『**正解の推定字数**』は、『**マイナス4字以内**（指定字数から4字を引いた字数以内）』、または、『**指定字数を含めて計5字以内**』となり、これを今後の判断基準としてください。
・受験生の多くが認識している「**正解の推定字数は8割以上**」という基準で判断しようとすると、例えば、「25字以内という条件下では20字あれば正解」、「30字の場合は24字、35字では28字、50字では40字、70字では56字あれば正解」のように誤って判断してしまう恐れがあります。「**正解の推定字数は8割以上**」という基準は、「20字以内で」という指定字数を超える字数条件では通用しません。

> ■**抜き出し問題での『正解の推定字数』は、『マイナス4字以内！**（指定字数から4字を引いた字数以内）**』**、または、**『指定字数を含めて計5字以内』！**

・「**正解の推定字数は、『マイナス4字以内』**」、あるいは、『**指定字数を加えて計5字以内**』と判断基準を決めておけば、その基準に合わない解答範囲を明かな誤りと判断できます。
・ただし、この字数基準は絶対的なものではなく、ごく希（まれ）に**基準を外れる場合**があります。このような問題では、受験生が「**設問の要求**」に対して、**各種情報に基（もと）づき、解答箇所を「ここからここまで」と正確に、かつ客観的に判断する力があるかどうかを試されている**と考えてよいでしょう。

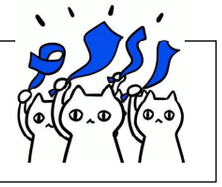
■前提事項に注意　※基本的な論理②『暗黙の前提』（p.4）参照！

・記述問題において、例えば、設問で「**太郎**の気持ちを説明しなさい」と求められているのなら、**太郎を「暗黙の前提」として説明すればよい**のだから、**文脈上必要な場合を除き**、あらためて「太郎は…、太郎は…」のように**何度も書き重ねる必要はない**。「**前提事項の重複記入**」に注意が向かないと、必然、**制限字数を圧迫して解答要素をはじき出してしまう**。
※「**抜き出し問題**」においてもまた、**設問や本文**における「**前提事項**」に注意が向かないと、『**ここから、ここまで**』という、**要求に正確に対応した範囲特定を誤る恐れ**があるので注意しよう。

■基本的な論理⑦　飛躍（論理的飛躍）

・**正しい筋道を追わずに論理が飛び越して進む**ことを「**論理の飛躍**」という。**「前提」と「結論」との間に隔たりがあり、因果関係が不明確**な場合が多い。

> 【前提①】花子はおしゃれだ。
> 【前提②】花子は女の子だ。
> 【結論】　だから、女の子はおしゃれだ。　（そうなのか？）



・**花子以外の女の子の性質を前提に置かず**に、「女の子というものは、一般に皆おしゃれなものだ」と「**飛躍した結論**」を導いています。
・一例に過ぎないものを**無理に「一般化」**したり、「**結論**」を支える**「前提」が不確か**であったりと、「**論理的飛躍**」は日常的にも起こりやすい。対人関係においても、これによって齟齬（そご：意見などの食い違い）や摩擦（まさつ）が生じてしまわぬよう注意しよう。

◎選択問題においても、誤答に誘導するために「**論理的飛躍**」の手法がしばしば用いられる。思い込みが強かったり結論のみを急いでいたりすると「**飛躍**」に気づきにくく、判別も困難になる。**「前提」と「結論」との間の「関連性・連続性・因果関係」**を的確に捉（とら）え、また、「**そうかもしれないし、そうでないかもしれない**」といった**「可能性の視点」**も持って、客観的、総合的に判断しよう。

◎選択肢の説明内容が「**『言い過ぎ』、『大げさ』、『極端』だと感じられるものは選ぶな**」、「**『強い』印象やポジティブな印象を与えるものを選べ**」、「**『断定表現』や『限定表現』のあるものは選ぶな**」、「**『全て・どれも・みな』のような全称（ぜんしょう）表現が用いられた選択肢は選ぶな**」といった、思考によらない**「印象や感覚によって判断する手法」や「安直な機械的処理法」**が小学生（受験生）に指導されているケースが相当に見受けられる。本文の内容（**前提**）に基（もと）づいて**論理的に検討し判断する**というのではなく、**その時その場だけの印象や感覚、あるいは安直な機械的処理法によって解答を判断する**というのは、**鉛筆やサイコロを転がして解答を決める**のと違いはない。作問者の側は、多くの子どもたちがそのような手法によって国語の選択問題に当たるよう指導されていることを承知のうえで、判断に揺（ゆ）らぎを与え、**誤答に誘導しやすいよう**、手を変え品を変え、様々に工夫を凝（こ）らして作問をしている。学習においてだけでなく、**自分の将来のため**にも、「**読む力と考える力**」を育て、「**本文との速（すみ）やかな照合と検討**」とによって「**論理的、かつ正確な判断**」ができるよう、普段から「**本質的な読解学習**」にしっかりと取り組んでおきたい。

■基本的な論理⑧　論点のすり替え（論点違い/論点ずらし）　※『だって論法』（p.13）参照！

・論点とは、「**議論の中心となる問題点**」のこと。**論点を意図的に変更**することを「**論点のすり替え**」という。

> ・花子さん：愛ちゃん、あんた、約束守ってねって、言ったでしょ！（正しい論点）
> ・愛子さん：ふんっ！　花ちゃんだって約束破ったことあるじゃん！（別の論点）

・花子さんは「**愛子さんが約束を守らなかったこと**」を**論点**として追及しているのですが、愛子さんはその**論点**をかわし、「**過去に花子さんが約束を守らなかったこと**」を**新たな論点として都合よく変更**してしまいました。

◎日常においては、特に議論の中で、つい**論点**が逸（そ）れてしまったり、次々と論点が移り動いたり、あるいは、そもそも**論点**が明確でなかったりといった経験をすることがあるだろう。自分の据（す）えた論点はもとより、相手が「**何を論点として主張しているのか**」をしっかりと押さえながら、その論点について、感情に流されず、事実に基（もと）づいて論理的に主張を展開するよう心掛けよう。

◎また、自分の意見を正当化するための**詭弁（きべん）の一種**として「**論点のすり替え**」が用いられることがあるので、議論をする際にはこれも念頭に置いておくとよい。
※**詭弁**（きべん）：誤（あやま）っていることを意図的に正しいと思わせるように仕向けた、ごまかしの議論。

◎選択問題においても、誤答に誘導する手法の一つとして「**論点のすり替え**」がしばしば用いられる。**「本文における各所の論点」、「設問における論点」、「各選択肢における論点」**について、それぞれをしっかりと押さえ、それを軸（じく）に正しく方向づけて思考しよう。

【選択肢の判別 111の視点】

■以下の判別法によって全ての問題が解決するわけではありません。視点や検討力が未発達な子どもたちに提示できる、ものごとを多角的、論理的に検討する際の視点の例としてご参考ください。尚(なお)、一つの選択肢に複数の手法が用いられている場合があります。

■**主要な手法111種**に『＊印(p.31-32)』**の関連手法12種**を合わせると、合計**123種**となります。

【一般手法】

★(1)論外

・**設問の要求に対し、選択肢の説明における内容が明らかに間違っている**。「嘘」、「**読み取れない**」、「**無関係**」、「**方向違い**」などの判断により、比較的除外しやすい。「選択肢を全部検討する時間は無いので、**消去法によって、最後に残った選択肢(一旦保留した選択肢)を正答と判断してよい**」と指導されている受験生が少なくないが、各選択肢の吟味(ぎんみ)が不十分だと、(2)「**カモフラージュ**」や、(42)「**暗黙の前提**」等、「**正解でありながら正解と思えなくする手法」が用いられた正答肢を「確信を持って消去」してしまう恐れ**があり、注意が必要。

◎「**設問で何が要求されているのか**」を確かめもせずに、また、時間的制約から「**本文を照合せずに、記憶に頼って選択肢どうしの読み比べだけで判断する**」受験生が相当に存在することを作問者が承知のうえで作問していることを忘れてはならない。

★(2)カモフラージュ(カモ/偽装)

・**文中語句を敢(あ)えて使用せずに言い換えたり、抽象化したり、あるいは一歩踏み込んだ説明をしたりすることで、「正解でありながら正解と判断されないように偽装(ぎそう)してある」**。十分な検討をせずに、専(もっぱ)ら「**印象や感覚**」、あるいは「**機械的処理法**」によって解答を決める受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。「本文に直接そんなことは書かれていないから」、「本文中の言葉やキーワードが入っていないから」、あるいは、「自分が各所に書き込んだ『×印』が最も多いから」のように表層にばかり引きずられて(1)「**論外**」として早々に除外してしまわぬよう注意。普段から「**言い換え**」や「**抽象化**」の視点をもち、「**自分の頭を使って考える力**」を養(やしな)い、「**本質に踏み込んで理解する**」学習に取り組んでおきたい。

※**カモフラージュ**:偽装。ある事実を覆い隠すために他の体裁を 装うこと。カムフラージュ。(フランス語)

★(3)ホイホイトラップ(撒き餌/おびき寄せ/コラージュ/ツギハギ/寄せ集め)

・本文中の**「キーワード」や「キーフレーズ」、また、(5)「キラキラワード」や「魅力的・理想的な語句」等を散りばめて目立たせ、逆に「正答肢」には「言い換えられた語句」を使用してカモフラージュ(偽装)して誤答肢におびき寄せる**。「**読む力**」や「**検討する力**」が不足し、**目立つ言葉**や**断片情報**にばかり気を取られて感覚的な判断をしがちな受験生が誘導されやすい。自分からホイホイと罠(わな)に掛かっていくようことのないよう、**本質的な学び方と思考力とをしっかりと身に付けよう**。(3)「**ホイホイトラップ**」の一種。

※**ホイホイ(と)**:擬態語。獲物がたやすく、次々と罠に掛かって来るさま。また、思慮なく気軽に行動するさま。
※**トラップ**:罠(わな)。
※**撒き餌**(まきえ) :魚や小鳥などをおびき寄せるために、餌をまくこと。
※**おびき寄せ**:騙(だま)して誘(さそ)い寄せること。
※**コラージュ**:現代絵画(かいが)の一技法で、印刷物や写真の切り抜き、布や針金などの雑多なものを台紙に貼り付けて一枚の作品とするもの。フランス語。
※**ツギハギ**:他人の考えや文章などを寄せ集めて繋ぎ合わせること。「継ぎ接ぎ」と書く。

★(4)コピペ(フェイク/ダミー)

・**本文中から一部をそっくり引用し、いかにも説明らしく見せかけてあるだけ**である。「**本文に書いてあるから**」、「**線部の近くに書いてあるから**」といった安直な判断の仕方をせぬよう注意。(3)「**ホイホイトラップ**」の一種。

※**コピペ**:コピー・アンド・ペーストの略。他の文章から必要な部分の写しを取り、それを別の場所に貼(は)り付けること。俗語(ぞくご)。
※**フェイク**:偽物(にせもの)。本物に似せて偽装(ぎそう)した作り物。ダミー。
※**ダミー**:本物に似せて偽装(ぎそう)した、実際には機能を持たない代用品。替え玉人形。

【フラッシュリーディング(全脳型分析的速読法)】※商標登録出願中

・科学的には、「**右脳によって超高速で文章を読む、いわゆる『速読術(速読テクニック)』は『高度な読書力』の向上には繋(つな)がらない**」という研究結果が既(すで)に出されています(キース・レイナー教授/カリフォルニア大学/2016年)。「**大意(たいい=あらまし)を何となくつかむ練習**」にはなりますが、**本来的な読書力や文章読解力の向上には何の効果もありません**。

・そもそも「**本来的な速読力**」とは、大量の書物を読破した経験を持つような人が備えた特殊、かつ高度な機能的能力であって、形だけを真似(まね)た訓練をいくら積んでも同質の能力を備えることは**原理的に不可能**なのです。**文章の内容を速く正確に理解するには**、まずは平常における「**適切な速度での通読訓練**」と、「**右脳と左脳のフル駆動(くどう)による高度な分析(ぶんせき)的学習(=読解学習)**」の継続が最低要件となります。

・**左脳**をフルに駆動させる「**読解学習=分析的学習」を済ませた後**、続けて「**高速トレース**」と「**口頭での再現学習**」によって当該(とうがい)教材の内容把握を確実なものとし、そのうえで、学習の最終的な仕上げとしての、また、「**より実戦的な速読力のための訓練**」としての『**フラッシュリーディング(右脳と左脳とを同時に駆動させながら分析的に速読する訓練)**』の導入をお勧(すす)めします。

・脳内で一字一字を音声化して読む「**黙読**」をすると「**音読」と同じほどの時間を要してしまう**ため、『**フラッシュリーディング**』では「**視読**(しどく)=脳内で文字を音声化せずに読むこと」を行います。「**文における意味上のまとまり(パート)ごとに、写真を撮(と)るようにしてまるごと右脳に投射**(とうしゃ:文字情報を視覚によって瞬時に脳に取り込むこと)しながら、**次々と高速で視点移動をして本文を辿(たど)ってゆきます**。**ただし、それと同時に、左脳をもフルに駆動させ、逐次**(ちくじ:**順を追って次々に**)、**および瞬時に内容整理をしながら、『分析的』に本文を読み進めます**。文章の内容把握(分析的学習)は事前に済んでいるので、**この頭脳作業は『全脳型の分析的速読を主眼とした訓練』となります**。

※**フラッシュリーディング**:2018年(平成30年)、当方の指導していた、当時インターナショナルスクールに通学していた生徒(小6女子)が名付けてくれました。(旧称は「トレースリーディング」)

①『**フラッシュリーディング**』においては、「一文字一文字を丁寧に追う読み方」をするのではなく、文章における「**一文**」を構成する**「いくつかの意味内容のまとまり」を意識しながら、そのパート内の数文字分をまるごと『写真を撮(と)るようにして瞬時に脳に投射(とうしゃ)』しながら、後に続くパートへと順次滑(なめ)らかに視点移動**してゆく読み方をします。
※例えば、本項①の文の場合、「符号を除いた文字数」は約130字、「**意味上のまとまり**」は10前後です。
②はじめに、**これから脳に「投射」する一段落分程度の範囲を、ほんの一瞬(一秒程度)、さっと目に映し取ります**。少しでも滑(なめ)らかに視読できるよう、断片的情報と、およその道筋(みちすじ)とを予(あらかじ)め脳に無意識的に認知させるだけなので、**文を読む必要はありません**。(※この手順は状況により省略可)
③続けて、「**一文一文の投射**」に入ります。「**読点(、)と句点(。)の位置**」を意識しながら、「**文**」や「**文脈**(語や文どうしの論理的なつながり)」に**意味的な断絶が起きてしまわぬよう『投射読み(フラッシュリーディング)』**を進めていきます。慣れないうちは、**一定のリズムをつけて、各パートをゆっくり視点移動させる**とよいでしょう。視点移動のしかたやスピードは柔軟(じゅうなん)に変えて構(かま)いません。
④気張(きば)って機械的な目の動かし方をするとすぐに目が疲れますから、背筋(せすじ)を張り、気持ちを落ち着け、ある程度文章から目を離して『**物理的・認知的視野**』を広く保ちながら『**投射読み(フラッシュリーディング)**』を進めてください。
⑤**ストップウォッチやタイマー等で時間を計測**してください。同じ文章で「**フラッシュリーディング**」を数度繰り返すと、その都度投射スピードが高速化されます。慣れるにしたがい、「**いくつかのパートを同時に『投射』**」したり、「**パートにこだわらずに滑らかに視点移動**」したり、**「一文」や「数行」をまるごと同時に脳に投射**」してみましょう。**脳の回転力**に勢いがついてくると、**速く視点移動するほうが却**(かえ)**って読みやすくなります**。
⑥**読解学習**で使われた様々な「**分析アンテナ**」をフルに稼働させ、**右脳と左脳を同時に働かせながら**、高速、かつ正確に文意、文脈を辿(たど)りつつ、逐次(ちくじ)、および瞬時に「**情報どうしの関連付けや内容整理**」を行い、「**文章全体の多角的・総合的な把握**(はあく)」を目指します。いわゆる「速読術(速読テクニック)」とは異なる「**本来的な速読訓練**」を積むと、**数行(数文)をまとめて読み進めながら正確に内容把握ができるようになります**。 ※ただし、これについては相当な訓練が必要です。
⑦以後も授業等で扱(あつか)われた教材ごとに同様の訓練を継続することで、全体視野の向上、情報の取り込み方や分析・整理のしかた、処理力や処理スピード等の向上に徐々(じょじょ)に反映してゆきます。**一本一本の教材を大切に扱い、そして最大限に活用しましょう**。
⑧「**速読・速解の訓練**」、あるいは、「テストや入試本番に向けてのシミュレーション(模擬練習)」として、**「速読(フラッシュリーディング)」をしながら、同時に「線引き」や「情報どうしの関連付け」等のチェックをする訓練**も導入してみましょう。**複眼的・全体的視野で要所を押さえながら読解する訓練**となるため、**形式的・近視眼的な線引きや見当外れのチェック等の無駄**(むだ)**な作業が格段に減り、「読解に有効な本来的な『分析的チェック作業』」が身に付きます**。また、「**線引きやチェック作業自体が主目的となって本文の内容把握がぞんざいになる本末転倒**」に陥(おちい)ってしまっている受験生にとっても、その改善に有効です。
※尚(なお)、「**高速トレース**」や「**口頭での再現学習**」、「**フラッシュリーディング(速読)**」、「**分析的チェック作業**」の訓練用に、別途何も書き込みされていない状態の当該教材を予めコピーしておくとよいでしょう。

【再現学習（口頭でのアウトプット）】

・確実に『トレース』ができたかどうか、つまり、学習による理解、獲得が十分であったかどうかは、トレース作業後に、学習内容や解法、記述内容等を子どもに『口頭で再現（アウトプット）』させてみれば確かめることができます。

・『高速トレース』に続き、『再現学習』においては、本文を参照しながら、①「設問の要求に沿って」、②「トレース作業において確認、獲得された情報を一気に総合し」、③「その内容を言語化によって論理的に、かつ的確な表現で『口述（アウトプット）』します。そして、その説明は、聞き手がよく理解でき、話者と聞き手の双方が納得のいくものであることが重要な条件です。この時、『高い再現性』が認められない場合は子どもの理解度やトレースの質が十分でないと判断できますから、指導側や保護者の側が、子どもの理解度や表現力をいっそう高めるための取り組みにあらためて注力することができます。

・指導する側は「教えたつもり」になって自己満足に陥ることのないよう常に自戒しなければなりませんが、子どもにとっては「わかったつもり・学んだつもり」で済ませてしまわぬよう、「本来的な学習・本来的な復習」の一環として、ご家庭における『高速トレース訓練』と『再現学習』の積極的導入をお勧めします。

※尚、慣れないうちは、先に『口述による再現学習（アウトプット）』を行い、解法や学習内容等の理解、獲得がしっかりと為されていることを確認したうえで、その後、『高速トレース』を行うとよいでしょう。

■左脳は言語や論理、分析、判断等の機能を受け持ち、右脳はイメージや感覚、全体的な情報処理、全体把握等の機能を受け持っています。

【読書について】

・「うちの子は読書が好きで、一冊の本を20分ほどで読んでしまうのに、国語が全然できない」といったご相談をよく受けます。「右脳によって作品を楽しんで読む」ことそれ自体は感性や情緒、想像力等を育むうえでの効果も高く、大いに推奨されるのですが、思考力や分析力、論理性が要求される国語の読解問題に専ら右脳によってセンス的に対処することは極めて困難です。「左脳をよく働かせ、主体的に自分の頭を使って考えながら読み、解き、書き、獲得し、また、口述によって論理的に説明する」取り組みにも注力しましょう。また、一編の文章題を徹底的に読解、分析する取り組みは、不十分な理解のままに何冊も本を読むより、読解力の向上においてはよほど効果的であると言えます。

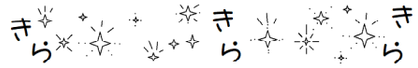
【音読について】

・「『音読が効果的だ』と聞いてずっと続けてきたのに、うちの子は国語が全然できない」といったご相談をよく受けます。文章の内容把握が十分に為されていない状況でいくら音読に時間を割いても、「滑らかに字面を追いながら発声する練習」にはなっても、それが読解力の向上に直結しているとは限りません。文章の内容把握には心理や主張の理解、文脈や展開の把握など、多角的視点や分析力、論理的思考力等による総合的な読解力が求められ、相当な集中力や根気も必要です。もし国語学習に音読を導入される場合には、右脳と左脳をフルに駆動させた『読解学習＝分析的学習』を十分に済ませた後に行うほうが、獲得したことを昇華させ、「自分の力」へと変換させるうえでの効果が高く、合理的です。

※昇華：物事が、ある状態からさらに高度な状態へと飛躍すること。

【読み聞かせについて】

・「子どもが幼い頃には『読み聞かせ』もしたし、音読もさんざんさせてきたのに、うちの子は国語が全然できない」といったご相談をよく受けます。子どもが「自らの頭をよく使いながら主体的に人の話を聞く姿勢を育てる」視点が無いままに一生懸命読み聞かせを続けていても、逆に子どもに「人の話を受け身の姿勢で聞き、ものごとを受け流す習慣が身に付いてしまう」といった弊害も一つの側面として考えられます。子どもが他者の話を主体的に聞き、受け止め、考え、獲得する姿勢が育つよう、もっと左脳を働かせる工夫をしながら読み聞かせをしてあげてください。



★（5）キラキラワード（キラキラフレーズ/うっとり♡ワード）

・「力の限り（全力で/一生懸命に/精一杯）・決してくじけない（あきらめない）・現実に向き合う（を受け止める/を受け入れる）・困難に向き合う（立ち向かう/を乗り越える/を克服する・自分自身に向き合う（打ち勝つ/を見つめる/を見つめ直す）・意志を貫く・信念を貫く・自分らしく生きる・自分らしさを大切に（求める）・ありのままの自分・自分を信じる（見つめ直す）・自分の可能性を信じる・自分に正直に生きる・前向きに生きる・未来を信じる（見つめる/切り開く/へと踏み出す）・一瞬一瞬を大切に・成長をとげる・かけがえのない友（友情/命/家族/絆/時間/思い出/存在/地球）・互いに信頼し合う（認め合う/尊重し合う）・絆を大切に（結ぶ/深める）・真の友情を育む・心に寄り添う・心のよりどころとする（支えとなる）・共に支え合う（理解し合う）・力を合わせて・手を取り合って（携えて）・生きがいとする・幸福をかみしめる（つかみとる）」などのように、精神力によればいかなる障害も克服できるとする「精神論」や、「人間の生き方や人生、生きる姿勢」に通ずる表現等、情緒や信念に訴えかける語句を作為的に使用して目立たせ、誤答肢に誘導する。美しくキラめくものに幻惑されて正常な判断力を失わないよう注意しよう。（3）「ホイホイトラップ」の一種。

※幻惑：ありもしないことに惑わされること。

※尚、上に挙げた表現は、記述等の説明で適宜使用できるよう、自身の中によく取り込んでおくこと。

☆ ･(⁰▿⁰)･ ♡ ･(⁰▿⁰)･ ☆ ･(⁰▿⁰)･ ♡ ･(⁰▿⁰)･ ☆ ･(⁰▿⁰)･ ♡ ･(⁰▿⁰)･ ☆ ･(⁰▿⁰)･ ♡ ･(⁰▿⁰)･ ☆ ･(⁰▿⁰)･ ♡ ･(⁰▿⁰)･ ☆

★（6）直前トラップ（直前に書いてあるもん♡）

・問われている箇所の「直前」に書かれてある内容をそっくり引用し、いかにも説明らしく見せかけてあるだけである。問われている箇所の、特に「直前」に書かれてある事柄にしか注意が向かない受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。「線部の直前に書いてあるから」とか、「本文にそのまま書いてあるから」といった単純な理由で選択してしまわないこと。「頭を使って文章を読み、『設問の要求』を正しく捉え、正しく方向づけて思考し、よく考えて問題解決する訓練」を怠りなく。（4）「コピペ（フェイク/ダミー）」、（3）「ホイホイトラップ」の一種。

★（7）おとり（また引っかかったもん♡）

・本文の内容上、解答者が最も誤解しやすいと推定される解釈を説明し、誤答におびき寄せる。また、「そうだったらいいな」、「そうであってほしいな」のように、解答者自身がいかにも抱きやすい願望や「希望的観測」が説明内容とされていることもあるので注意。（3）「ホイホイトラップ」の一種。

■希望的観測

・「そうだったらいいな」、「そうであってほしい」のように、明確な根拠や事実によらずに自分の願望を優先して都合の良いように事の成り行きを推測したり、判断したりすること。「今日の組分けテスト、前回よりもずっと手応えがあった。今度こそクラスアップできそうだ」など。この例文の場合、「テスト結果という事実（根拠）」が明らかとなる前に、「手応え」という感触をもとに「クラスアップという自身の願望を都合よく推測に反映」させている。

★（8）ウソ（違うこと言ってる/デタラメ/でっち上げ）　※ウソ要素の組み込み

・説明内容そのもの、あるいは説明の一部に虚偽が組み込まれている。つい「本文中のキーワード」に引っ張られてしまったり、「説明から受ける印象や感覚」によって判断してしまったりせぬよう注意しよう。また、「要素の有無」や「要素の正否」のみを判断基準としていると、却って「部分的な誤り」や「文脈そのものの誤り」等に気づけない恐れもある。日々の地道な訓練の継続によって、「選択肢における一文一文を読解する力」と「多角的に検討する力」とを身に付けてゆこう。

※でっち上げ：事実でないことを本当らしく仕立て上げること。捏造。

★（9）読み取り不能（ヨミフ/根拠無し/情報無し/述べられていない/書かれていない）

・その説明内容を一切本文から読み取ることができない。ただし、正解でありながら言い換え等により正解と思えなくする（2）「カモフラージュ」や、（42）「暗黙の前提」等の手法が用いられた「正答肢である可能性」も排除してはならない。（1）「論外」の一種。

★（10）真逆（逆のこと言ってる）

・選択肢の「説明そのもの」、あるいは、「選択肢に含まれる一部」が、本文とは「真逆の内容」となっている。本文を照合せずに、専ら記憶に頼って「選択肢どうしの読み比べ」に注意を向けているばかりでは内容の正否に気づけない恐れがあるので、客観的で論理的な検討力をしっかりと鍛えておこう。

★（11）要素不足（部品不足/ポンコツ）

・説明が完結するための要素や条件が不足している。「要素不足」に気づかれないよう、表現や内容を微妙に調整してある場合が多い。また、問われている箇所の前後数行を読むだけでは「求めるべき要素」を読み取れない可能性があるので、全体視野で本文の文脈や展開、構成等を捉える訓練を積んでおこう。

★（12）説明不足（具体性欠如/抽象論/テキトー）

・趣旨（しゅし）や方向性は正しいが、具体性に欠（か）けていたり、あるいは、抽象論に過ぎなかったりし、説明として不十分、もしくは不完全である。「何となくそれらしい説明」に思えるものを選ぶのではなく、そもそも説明が「具体的、かつ、的確であるかどうか」、「曖昧（あいまい）な所は無いかどうか」をよく検討できるようになろう。

★（13）視点違い（視点ずれ/よそ見禁止）

・選択肢の説明において、無関係な「視点要素」が組み込まれている。例えば、絵画を見るときに「目を向ける点（視点）」が、「芸術性」と「技法」とでは捉（とら）え方が変わる。また、「素人（しろうと）」や「専門家」など、「観察する立場（視点）」によっても捉え方が変わる。「何に着目するのか」、あるいは、「どのような立場から見るのか」によって物事の捉（とら）え方は様々に変わるので、選択肢の説明内に含まれた各「視点要素」について、「その正否（正しいか、正しくないか）」や、そもそも「その視点要素が必要なのかどうか」等についてよく検討しよう。

※視点：キーワードや概念（がいねん）など、ものごとを考えるうえで着目する点。物事を観察する立場。

★（14）論点違い（ロンチ/論点すり替え/論点ずらし）

※基本的な論理⑧『論点のすり替え』（p.7）参照！

・「設問における論点」とは「無関係な論点にすり替え」で説明されている。また、「論点を微妙にずらしてある」場合や、「説明内の一部に無関係な論点を組み込んである」場合も多いので注意。「見せかけの説得力」に騙（だま）されないよう、「設問における論点」をまず正しく掴（つか）み、「正しく方向づけて論理的に思考する」訓練をしっかりと積んでおこう。また、記述説明する際や、普段の会話、議論等においても、論点を明確に据（す）えたうえで、書き、話し、聞き、主張するよう心掛けよう。

※論点：ものごとを論じるうえでの問題点。議論の中心となる問題点。

★（15）方向違い（崖からバンジー/ガケバン/方向ズレ/方向音痴/見当違い/的外れ/明後日の方向）

・「設問の要求」に対し、「異（こと）なった方向性での説明」となっている。「設問の要求」を正しく把握（はあく）せず、「思考の方向」を正しく定めぬままに判断しようとする受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。見当違いの方向に全力で突き進んで崖（がけ）から派手に転落せぬよう、設問の要求を正しく把握し、正しく方向付けて思考する訓練を怠（おこた）りなく。（1）「論外」の一種。

★（16）展開無視（ワープ/タイムトラベラー/時系列無視/展開不一致）

・本文における「時系列」、あるいは、「展開や変化」に合致（がっち）しない説明となっている。「制限時間内に全問を解き切るためには本文を通読してはいけない」と指導されている中学受験生は少なくない。しかし、「本文の情報を部分的、断片的に拾（ひろ）い上げていくような読み方」、あるいは、「記憶に頼（たよ）って選択肢の読み比べだけで判断する」、といった「スピード重視・精度犠牲（ぎせい）型」の取り組み方を続けていても実質的な対処は困難だ。本文全体における「大きな流れ＝時系列や展開・変化、構成」等を通読段階でしっかりと掴（つか）み、「この時点ではまだそのような心情を抱（いだ）いていない」、「この時点では以前の主張を修正している」というように、問われている箇所（かしょ）を「基点」として「それ以前に起きたこと（述べられていること）と、それ以後に起きること（述べられていること）」等との連続性や関連性を全体視点で判断できるよう訓練を積んでゆこう。

※展開：時間や筋道に沿って出来事や話が進行していくこと。

■入試過去問題の演習について

・『志望校の過去問を徹底的に攻略する』という指針それ自体は間違いではないが、志望校の過去問演習を重点的に励行してさえいれば入試本番で確実に合否ラインを突破できるようになるというわけではない。もともと学力が高く、対応力にも優れた受験生たちが多数受験に臨んでくるだけでなく、上位校を狙い、それなりに「対応力」を上げてきた少なからぬ受験生たちが、秋以降に志望目標を下げ、「その学校の合格を余裕で奪い取っていく」という厳しい入試の現実を踏まえれば、他のライバルたちと似たり寄ったりの、あるいは、同水準の学習メニューばかりを日々無難に消化しているだけでは、いずれ、「過去問では得点できていたのに」、「過去問との相性は良かったのに」といった残念な結果を招いてしまうことも十分にあり得る。過去問で得点できるようになるのは当然の目標として、実はそれだけでは不十分であり、危険でもあるという認識も必要だ。団子状態の合否ラインを余裕で突破するために、平常の学習においては、「高い学習水準の維持」や「精度と処理スピードの向上」、また、「対応力を強化するための教材選択」といった点を念頭に、「プラスアルファの力」、「入試本番での絶対的な対応力」を備えてゆくべく指針を検討し、効率的、かつ、実質的な取り組みに注力していく必要がある。

【高速トレース（全脳型分析的高速処理）】※商標登録出願中

※「トレース学習」は、個別指導等により、読解内容、設問における要求の把握（はあく）、解法、記述構成や表現、その他知識事項に至るまで、子どもが当該（とうがい）範囲（はんい）の学習内容を十分に理解、獲得しえた状況を前提として行います。そのため、子どもが「なんとなくわかったつもり」の状況だけではそもそも「トレース学習」は成立しませんのでご注意ください。

※また、「対話型」ではなく、講師がまくし立てながら一方的に進めるスタイルの授業を受けている場合には（※当方自身も1987年～92年の間、集団指導において同様のスタイルで授業をしていました）、子どもにはその解説内容が頭に入っていないことが多く、その場合にも『トレース学習』は不可能です。学習内容が本当に理解されているかどうかは、子ども自身に『解説を受けたその内容を口頭で再現』させてみることで確かめることができます。

・左脳は言語や論理、分析、判断等の機能を受け持ち、右脳はイメージや感覚、全体的な情報処理、全体把握等の機能を受け持っています。国語の読解学習（分析的学習）においては、左脳の機能だけで問題を処理できるわけではなく、右脳をも同時に駆動（くどう）させて問題解決に当たる必要があります。

・読解や解法等の論理的・分析的学習への没入により「頭脳の回転力」が低下する恐れがあるため、当該範囲の学習後に「高速トレース」を行うことで「頭脳の回転力」を回復させ、また、継続的な訓練により「思考の高速化」を図ります。さらに、実戦における脳の機能的シミュレーション（模擬練習）を兼ね、即時（そくじ）の問題解決力の発揮へと繋（つな）げていきます。

■「高速トレース」の方法

①高速での追跡確認
・学んだ内容や解法などを高速で確認する。
②時間を計る
・ストップウォッチやタイマー等でトレース時間を計測する。自分をよい意味で心理的に追い込み、普段眠らせている潜在力を発動させる。
③可能な限り高速で、あるいは瞬時（しゅんじ）に行う
・頭脳の回転力を回復させる。また、思考の高速化訓練、思考の切り替え訓練ともなる。
④声に出さない
・頭の中でだけで思考作業を行う。
⑤言語化は最小限にとどめる
・頭の中でしゃべると（言語化＝音声化すると）、実際に声に出して説明するのと同じ時間を要してしまい、思考が高速化されない。
⑥右脳と左脳のいずれをもフルに駆動させる
・逐次（ちくじ＝順次）に、そして瞬時に、分析的に情報を整理、把握し、判断する。
⑦正確、確実に
・トレース内容の正確性は、口頭での再現時における正確性にそのまま直結する。
⑧「獲得する」意識をもつ
・学んだことを流してしまわず、「自分のもの」にし、「自分の力に変換」する。
⑨「高い再現性」
・トレースを終えた後に、各問題の考え方や解法を口頭で確実に説明できること。
⑩聞き手に対し、説得力をもってしっかりと「伝える」
・トレースを終えた後の「口頭での再現学習」において、聞き手に説明内容がしっかりと納得されることを念頭に置く。「伝える力」の訓練の一環でもあり、記述力や表現力にも反映する。

・ある程度訓練を積むと、「文章題1題分を30秒以内にトレースできる」ようになりますから、指導や学習に導入される方はこれを一つの基準としてください。トレース作業の高速化と実質化に慣れると、塾での授業中のほんのちょっとした時間（一問あたり数秒）を使ってトレースを行い、学習内容によっては現場でその都度「復習」、および「獲得作業」を済ませてしまうことも可能です。

・指導する側においても、子どもの口頭での再現状況を確かめることで理解度の確認ができ、適宜補完指導を行うことができます。また、当該（とうがい）箇所（かしょ）における指導の不備を認識できた場合には、指導法を改善・改良してゆくための手がかりともなります。

※「高速トレース」という名に、「高速での追跡・処理・獲得」といった意味と、「全脳型思考機能の向上と高速化」、「潜在力の発動」、「獲得力・再構築力・再現力・表現力の向上」といった狙（ねら）いを込めました。尚、「高速トレース」は一つのモデル手法として、適宜（てきぎ）工夫を加えてみてください。

【時間短縮訓練】

※「**時間短縮訓練**」は、個別指導等により**平常より「精度重視型」の取り組みが『日々継続的に行われている』ことを前提としています**。この取り組みが実現していない状況下では、以下の「**時間短縮訓練**」は十分な効果を見込めない可能性がありますのでご注意ください。

・「**解答スピードだけは速いが、読解や解答の精度が低く、答案全体の仕上がりが雑**」という特徴が、上位生を含め、特に国語を得意としない受験生に共通して見受けられます。**「スピード」を優先するあまり、「読解と解答の精度」を犠牲(ぎせい)にしてきた結果です**。「**精度より、解答欄を全て埋めきることにこそ重点を置く**」というのは、**学習全般においても本末転倒**です。そればかりか、「**本文を通読せずに解けばよい**」という非本質的な手法や、普遍性の無い安直な小手先テクニックに幻想(げんそう)を抱(いだ)き、それを「よすが」として、ますますこの「**底なしの悪循環(あくじゅんかん)**」から逃(のが)れられなくなっていきます。

・「**精度を犠牲にせず制限時間内に全問解決する**」には、学習におけるそれまでの**取り組み方を「精度重視型」に完全転換**し、併(あわ)せて**「時間短縮訓練」を導入し、日々着実に継続する必要**があります。**平常における訓練の継続無しに、テストや入試本番の時だけ時間短縮を実現することなど不可能です**。

【自宅での演習時における時間短縮訓練】

①時間配分を行う。
②ストップウォッチやタイマー等で時間を計測する。
③本文を通読する。
④読解と解答の精度を上げることに重点を置く。
⑤入試本番を意識し、良い意味で自分を心理的に追い込み、全力で問題解決に当たる。
⑥問題処理中は常に時間を意識しつつ、頭脳の回転力を高速で維持する。
⑦頭脳の回転力をさらに高めるため、解ける問題の処理をどんどん進める。
⑧訓練開始当初、時間内に解き切れない場合は延長時間をとり、**自分の頭を使って最後まで徹底的に考え抜く**。
⑨得点は精度の結果なので当初は気にしすぎず、1か月後、2か月後……の自身の進歩・向上を明確に見据(すえ)えて、それを当面の目標とする。
⑩訓練を重ねるごとに、『今回は延長しても何分以内で』というように、徐々(じょじょ)に延長時間を「短く設定」してゆく。

・「**精度重視型**」の取り組みに転換した当初、個々の状況によっては、暫(しばら)くの期間、**目標の時間内に全ての問題処理が終わり切らない**ことがあります。その場合においても、躊躇(ちゅうちょ)せずに延長時間を設けてください。大人の力を借りる前に、「**まずは限界に挑(いどむ)む気持ちで、自分の頭を使って最後まで徹底的に『考え抜く力』の育成**」を最優先してください。

・そして、**時間短縮のための訓練を重ねるごとに、延長する時間を毎度徐々に短く設定します。元来人間には、訓練によってその能力や技術を確実に向上させる力が備わっています**。また、**一定期間内での訓練機会を多く設けるほど、時間短縮の能力向上が確実に早まります**(指導経験上、断言します)。訓練を開始する時期や受験生個々の状況により違いはありますが、一つの目安として、**通常三か月ほど**で、精度を上げつつ時間内に解答欄全てを埋め切ることができるようになります。

・尚(なお)、国語の偏差値が50前後以下の受験生の場合、学習の取り組み方をそれまでの「**スピード優先・精度犠牲型**」から「**精度重視型**」へと完全転換して1か月ほどの間、テスト本番で制限時間内に「**文章題二題のうち一題がまるごと解答できない**」といった現象が見られる場合があります。しかし、それを恐れて**再び「スピード優先・精度犠牲型」の取り組み方に戻してしまう**と、「**底なしの悪循環**」に舞(ま)い戻り、そのまま**そこから脱(だっ)することなく入試本番を迎(むか)えることになる**でしょう。

■当方自身の経験として、集団指導時代(～2002年)には、「**自宅での演習においても常にテスト形式で臨(のぞ)み、制限時間が来たら、解けていても、解けていなくても、そこで一切手をつけてはならない**」といった方法で生徒たちの解答スピードの向上を図っていました。しかし、この方法だと、大方の子どもたちにとっては、いつまで経っても**精度向上が望めない**ばかりか、自分が処理できなかった問題について「**自分の頭を使って最後まで徹底的に考え抜く**」習慣がつかず、しかも、「**問題の解決を大人に丸投げ**」したり、解説を聞いたり読んだりして、それで全て分かったつもりになって事を済ませてしまう、といった弊害(へいがい)を感じるようになったという経緯があります。

★(17)**矛盾(両立不可能)**(むじゅん)　※基本的な論理⑤『矛盾』(p.5)参照！

・選択肢に書かれた説明内容が、**本文に書かれた意味内容と論理的にかみ合わない**。選択肢の説明に「**論理的な食い違い**」は起きていないかどうか、「**両立不可能な言説**」が組み込まれていないかどうかをしっかりと検討できるよう訓練を積んでおこう。

※**矛盾**(むじゅん)：二つの事柄(ことがら)のつじつまが合わないこと。筋道が通らないこと。

【自己矛盾】(むじゅん)

・自分自身の考えや言動の中に食い違いが生じ、矛盾(むじゅん)すること。自己の言動に自己を否定する要素を含んでいること。**自家撞着**(じかどうちゃく)ともいう。

・**花子さん**：この世界に『絶対』と言えるものなど、『**何一つ**無い』のだわ！
・**愛子さん**：『絶対が存在しない』ことが『**絶対だ**』なんて、あんた、言ってること、絶対おかしいわよ！

・花子さんは、「この世界に絶対といえるものは**何一つ**存在しない」と主張しつつ、自分のその発言が「**絶対のものだ**」と断言しているので、その主張は矛盾しています。「**あの子、いつも他人の批判ばかりするからダメなのよ**(自分自身が『あの子』の批判をしている)」という主張も「**自己矛盾の例**」として覚えておくとよいでしょう。

★(18)**表面的説明(形式的説明/上辺の説明)**(うわべ)　※(19)『踏み込み不足』参照！

・**上辺**(うわべ)**をなぞっただけの表面的、あるいは形式的な説明に止**(とど)**め、「根本的・本質的な説明」が避**(さ)**けられている**。例えば、倉庫で起きた火災の原因について、①「引火によって燃えやすい資材が大量に保管されていたから」という説明と、②「漏電(ろうでん)による資材への引火が起きたから」という説明とでは、いずれについても説明そのものに納得できたとしても、直接的な因果関係が示されているのは②である。説明内容自体に誤(あやま)りや矛盾(むじゅん)があるわけではないため、つい上辺(うわべ)の説明に引っ張られて誤答に誘導されてしまわぬよう注意しよう。

★(19)**踏み込み不足(前段階/トンズラ/寸止め)**(ふこ・すんど)　※(18)『表面的説明』参照！

・例えば、本文において、「AによってBが成り立ち、そのBによってCとなる」のように、**いくつかの段階や因果関係を経て「主要な論点C」に至る文脈となっている**場合などに、設問の要求に対応するはずの「C」ではなく、その**前段階(寸前)にある「B」**を趣旨(しゅし)として説明してある。思考の方向性自体は誤(あやま)っているわけではないため、「**本文にそのままそのように書いてあるから**」といった理由だけで即断(そくだん)してしまわぬよう注意。

※**踏**(ふ)**み込む**：物事の本質や核心に一段と深く迫(せま)る。
※**とんずら**：逃(に)げること。「遁(とん：逃げること)」と「ずらかる：逃げ出す(俗(ぞく)語)」を組み合わせた俗語。
※**寸止め**：剣道や空手などで、強烈(きょうれつ)な打撃(だげき)を、相手の体に当たる寸前で止めること。

★(20)**ファンタジー♡(お花畑/おとぎの国)**

・**事実に基**(もと)**づかない空想的な虚構**(きょこう)**や、都合のよい勝手な解釈や突飛**(とっぴ)**な解釈**が尤(もっと)もらしく述べ立てられている。素材文を「**はじめに結論ありき＝自分が期待する結論に沿うように都合よく想像しながら読む**」のではなく、「**事実を踏**(ふ)**まえて客観的、論理的に読み、捉**(とら)**える**」習慣を身に付けたい。(1)「**論外**」の一種。

※**ファンタジー**：現実にはありえない、幻想(げんそう)的、空想的な世界。
※**お花畑**：一面に広がるのどかな花畑から連想される、喜びと幸福に満ちあふれ、まばゆく、美しくきらめく愛と光の洪水(こうずい)の中で、うっとりとした気分に浸(ひた)りながら、希望の歌を口ずさみ、舞(ま)い、踊(おど)っては、心地よく安楽に暮らしてゆける、永遠の平和と安息が約束された、素晴らしい夢の世界。また、過度に理想にとらわれて現実を客観的に認識することができない人が生きる、夢想や幻想(げんそう)の世界。
※**突飛**(とっぴ)：常識からひどく外れていて、思いがけないさま。

★（21）誇張（盛ったでしょ）

・適切な範囲（はんい）を超え、実際よりも大きく捉え直した説明内容となっている。小手先テクニックに見られるような、思考もせずに「言い過ぎだ、大げさだ。だから消去！」といった安直な判断の仕方をするのではなく、「内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか」を検討、判断する力を養（やしな）おう。また、記憶に頼（たよ）って選択肢どうしの読み比べだけで判断せず、本文との照合と検討とを徹底したい。

※誇張（こちょう）：ものごとを過度に大きく、または小さく形容して表現すること。

※盛（も）る：上辺（うわべ）を飾（かざ）り繕（つくろ）って、実際よりも話を大きく見せかけること。俗語。

※小手先テクニック：その場をしのぐための、普遍（ふへん）性のない、にわか仕込みの浅はかで安直な技術。

★（22）誇張カモ（言い過ぎ？/大げさ？/極端？）

・小手先テクニックに見られるような、「『言い過ぎ・大げさ・極端』な印象を与える選択肢は選ぶな」といった、思考を前提としない「印象や感覚による安直な判別法」が指導されている小学生（受験生）が相当に存在することを作問者は心得ており、それを逆手（ぎゃくて）に取り、作為（さくい）的に『誇張表現』を用いて目立たせることで、『正解でありながら』正解と判断されないように偽装（ぎそう）してある。「頭を使って文や文章を読み、捉え、検討する力」を普段から養い、「内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか」を判断できるようになろう。（2）「カモフラージュ」の一種。

※誇張（こちょう）：ものごとを過度に大きく、または小さく形容して表現すること。

★（23）強調カモ（こそ？/まさに？）

・小手先テクニックに見られるような、「『～こそ/まさに～』のような『強調表現』が用いられた選択肢は選ぶな」といった、思考を前提としない「安直な機械的処理法」が指導されている小学生（受験生）が相当に存在することを作問者は心得ており、それを逆手（ぎゃくて）に取り、作為（さくい）的に『強調表現』を用いて目立たせることで、『正解でありながら』正解と判断されないように偽装（ぎそう）してある。（2）「カモフラージュ」の一種。

★（24）断定（断言/言い切ったな！）　※（25）『断定カモ』参照！

・本文においては「～だろう（推量）」、「～かもしれない（可能性）」、「～ようだ（推定）」といった「非断定的な認識や判断」が読み取れるにもかかわらず、選択肢の説明においては「正しいもの・確かなもの・完全なもの」として「断定（断言）」されている。本文との照合と検討により、あくまで「内容によって『断定』と『非断定』とを判断」できるようになろう。

※選択肢の説明に『絶対に・必ず・常に・決して』のような明確な『断定表現』が用いられているとは限らない。

★（25）断定カモ（絶対に？/必ず？/常に？/決して？）　※（24）『断定（断言）』参照！

・小手先テクニックに見られるような、「『絶対に・必ず・常に・決して』のような『断定表現』が用いられた選択肢は選ぶな」といった、思考を前提としない「安直な機械的処理法」が指導されている小学生（受験生）が相当に存在することを作問者は心得ており、それを逆手（ぎゃくて）に取り、作為（さくい）的に『断定表現』を用いて目立たせることで、『正解でありながら』正解と判断されないように偽装（ぎそう）してある。本質的な思考力と検討力とを養い、「内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか」を判断できるようになろう。（2）「カモフラージュ」の一種。

★（26）限定（そんだけぇ～♡ /限定的一致）　※（27）『限定カモ』参照！

・本文における内容について、その「一部」についてしか説明されておらず、そのため、『限定的には一致している』が、本来求められる説明としては不完全である。説明内容の方向性自体は間違っていないため、本文との照合が不十分だと誤認を招いて誘導される恐れがある。

★（27）限定カモ（だけ？/のみ？/しか？）　※（26）『限定（そんだけぇ～♡）』参照！

・小手先テクニックに見られるような、「『だけ・のみ・しか』などの『限定表現』のある選択肢は選ぶな」といった、思考を前提としない「安直な機械的処理法」が指導されている小学生（受験生）が相当に存在することを作問者は心得ており、それを逆手（ぎゃくて）に取り、作為（さくい）的に『だけ・のみ・しか』などの限定表現を用いて目立たせ、『正解でありながら』正解と判断されないように偽装（ぎそう）してある。本質的な思考力と検討力とを養い、「内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか」を判断できるようになろう。（2）「カモフラージュ」の一種。

【時間配分のしかた】

※以下は一つのモデルです。状況により、適宜（てきぎ）工夫を加えてください。

《 以下の全作業を、試験や演習の開始直後30秒以内に行ってください！ 》

【1】問題全体の把握

・今、自身の眼前にある料理の種類や分量を予め確かめてから食事を始めるのと同様に、今、眼前にある問題の全体像を掴（つか）み、脳を「レディネス＝準備状態」に置きます。

①大設問の構成と問題内容を確認

・問題用紙と解答用紙を見ながら、大設問の数や、選択問題、抜き出し問題、記述問題、漢字や知識の問題など、問題構成や分量などを瞬時に概（おおむ）ね掴みます。

②文種、文章量を確認

・「文学的文章」、「論理的文章」、「随筆文」、詩や短歌・俳句などの「韻文」など、文種によって読み方や処理の仕方が異なります。文種を確認することで頭脳を予め準備状態に置き、適宜（てきぎ）頭脳の切り替えが行えるよう備えます。

【2】時間配分

・問題全体の把握が済んだら、各大設問ごとに逆算的視点で時間配分を行います。

①時間配分を行う

・以上にもとづき、制限時間のうち5分程度を予備としてとっておき、試験時間内に全問解答することを前提に、残りの時間を各大設問に適宜速やかに割り当てます。

②時間の記入

・配分した時間は、問題用紙の大設問を示す番号の上などに書き記しておきます。

【3】時間配分の仕方

（1）漢字・知識問題

・漢字や知識問題が独立した形で出題されている場合は、これを文章題より先に時間配分します。ちなみに、漢字の読み書きの問題が10問の場合、受験者に知識があれば反射的に解答できる種の問題ですから、1分程度を配分します。必要以上に語句・知識問題に時間を充てると、後々読解問題や記述問題を処理する時間が圧迫されてしまいます。

・知識関連の問題が独立した形式で複数出題されている場合は、それらを「合わせて何分」というように時間設定します。

（2）文章題

・自分が比較的得意とする文種であれば、その大設問の処理時間は短めに配分します。

・訓練状況や、文種、文章量、本文の内容、記述問題の分量等によって配分する時間もその都度変わりますから、普段における時間短縮のための訓練を継続する中で、配分する時間を適宜調整できるようにしておきましょう。

《 以上の全作業を、試験や演習の開始直後30秒以内に行ってください！ 》

・以上の作業が終わり次第、速（すみ）やかに問題処理に入ります。随時（ずいじ）時間を確認し、目標とする処理時間を強く意識して問題解決に当たってください。

【偽金貨はどれだ？】

■問題

・金貨が沢山入った袋が三つあります。そのうちの一袋は全て偽金貨です。本物の金貨は1枚100gですが、偽金貨は1枚当たり本物より10g重くなっています。偽金貨の袋がどれかを探したいのですが、秤(はかり)は一度だけしか使えません。**偽金貨の袋を探すには、どうすればよいでしょう。**

■答え

・一つ目の袋から1枚、次に二つ目の袋から2枚、続けて三つ目の袋から3枚金貨を取り出し、計6枚の金貨を秤に載(の)せればよい。

①もし三つの袋が全部本物の金貨であれば、取り出した金貨6枚分の重さを足すと、**600gちょうど**になる。
②もし一つ目の袋に入っているのが偽金貨なら、取り出した偽金貨1枚分だけ、つまり、**10g重くなる**から、秤では610gになる。
③もし二つ目の袋に入っているのが偽金貨なら、取り出した偽金貨2枚分、つまり、**20g重くなる**から、秤では620gになる。
④もし三つ目の袋に入っているのが偽金貨なら、取り出した偽金貨3枚分、つまり、**30g重くなる**から、秤では630gになる。

テレビドラマ『刑事コロンボ』～「殺しの序曲」より

■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予(あらかじ)めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨(のぞ)みなさい。

★(28)全称(全部が全部！)　※(29)『全称カモ』参照！

・ある事柄(ことがら)について、「**一部についてはそう(▲)である**」のように、本文においては筆者の**「限定的な認識や判断」が読み取れる**が、**選択肢の説明においては「全てがそう(▲)である」といった内容にすり替えられている。記憶に頼(たよ)って選択肢どうしの読み比べだけで判断せず**、本文との照合と検討により、**あくまで『内容を正確に判断』**できるようになろう。

※選択肢の説明に『**全て/どれも/みな**』のような明確な『**全称表現**』が用いられているとは限らない。

※**全称**:「**全て・どれも・みな**」のような、ある範囲全体の物事について断定する表現。

★(29)全称カモ(全て？/どれも？/みな？)　※(28)『全称』参照！

・小手先テクニックに見られるような、「**『全て・どれも・みな』のような全称表現のある選択肢は選ぶな**」といった、思考を前提としない**「安直な機械的処理法」**が指導されている小学生(中学受験生)が相当に存在することを作問者は心得ており、それを逆手(ぎゃくて)に取り、**作為(さくい)的に『全て・どれも・みな』のような全称表現を用いて目立たせ、『正解でありながら』正解と判断されないように偽装(ぎそう)してある**。本質的な思考力と検討力とを養い、「**内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか**」を判断できるようになろう。(2)**「カモフラージュ」**の一種。

※**全称表現**:「**全て・どれも・みな**」のような、ある範囲(はんい)全体の物事について断定する表現。

【だって論法】

・相手の主張とは**別の論点**を持ち出して自分の言動を正当化したり、言い逃(のが)れをしたり、自分の責任を帳(ちょう)消しにしようとしたりする論法。

①お前だって論法(ブーメラン論法)

・**ジョン**:おい、カンニングするなよ！
・**ポール**:**お前だって**、今、俺の答え見てるし！(論点のすり替え/言い逃れ/相対化/相殺(そうさい))

②あいつだって論法

・**警官**:20キロの速度オーバーだ！　むふん！　今日は残念だったね！(^O^)／」
・**運転手**:そんなぁ、ちょっと勘弁(かんべん)してよぉ……。あっ！　ほら、見てよ！　**あいつだって**すっごいスピード出してるじゃん！　早くあいつ捕(つか)まえてよっ！　論点のすり替え/言い逃れ/相対化)

③みんなだって論法

・**ママ**:いけません。ゲームなんか買ってあげません！
・**子ども**:ねえぇ、買ってよぉ。**みんなだって**持ってるんだからぁ！　(正当化/論点のすり替え/相対化)

※「**だって**」に代えて、「**～も/～でも/～であっても/～の場合も**」等が用いられることも多い。
※**相対化**:「その事案が特殊なものではなく、取り立てて問題化する必要が無い」とすること。
※**相殺**(そうさい):差し引いて、帳(ちょう)消しにすること。

※基本的な論理⑧『論点のすり替え』(P.7)参照！

【曖昧(あいまい)語法(二重語法)】

・「十代の若者(または高齢者)に自動車を運転させるのは非常に危険だ」という主張は、「**運転をする若者(または高齢者)自身が事故等の危険な目に遭(あ)いやすい**」という意味と、「**若者(高齢者)の運転によって他者が危険にさらされる可能性が高い**」という意味のいずれにも解釈ができ、曖昧である。

※**曖昧**(あいまい):意味内容が二通り、または二通り以上に解されること。意味内容をしっかりと捉(とら)えにくく、はっきりしないこと。

★（30）お楽しみ箱（びっくり箱/気絶フェスティバル）

・設問形式の一つとして、「**本文全体の内容の説明**」、「**文章全体の表現上の特色**」等について適切なものを選ぶといった問題については、通常大設問内の最終問題として設定されていることが多く、**照合と検討に予定外に時間を取られてしまう恐れがあるため**、テストや演習などでは、その開始段階で問題全体の構成や形式、内容等を速（すみ）やかに確認する必要がある。

■本文と照合、検討する必要のある項目（こうもく）については、「背景・事情」、「本文の内容」、「心情・心情変化」、「葛藤（かっとう）」、「人物像」、「人物どうしの関係性」、「視点人物」、「場面・構成」、「時間軸（じく）」、「回想部」、「展開・変化」、「成長・生き方」、「主題・要旨」等の**読解関連**についての他、「会話表現の特徴や効果」、「文章の特徴や効果」、「情景描写（びょうしゃ）の特徴や効果」、「―（ダッシュ）」や「……（リーダー）」等の符合（ふごう）の使われ方等の**描写全般**について、さらに、「象徴（しょうちょう）」や「暗示」等の**描写（びょうしゃ）技巧（ぎこう）**について、「比喩（ひゆ）の有無や、その使用頻（ひん）度」、「擬音（声）語・擬態語の有無や、その使用頻度」、「歴史的現在」、「皮肉」、「反語」、「逆説」等の**修辞（しゅうじ）**に関するものなど多岐（たき）にわたる。**全体視点で様々な「分析アンテナ」を働かせながら通読する訓練**を地道に積んでおこう。
※**修辞**（しゅうじ）：言葉を効果的に使って表現すること。その技術。レトリック。

【視点人物】
・筆者（作者）、主人公、第三者等、「**誰（だれ）の視点から語られているか（描（えが）かれているか）**」を問われる。

【象徴】
・本文において、**一見さほど重要でなく思われる部分的な描写（びょうしゃ）であるが、実は「主題」や「人物の心情」等と深く関連づく、作品上重要な意味や役割を与えられたものごと**。情景描写以外にも、日常ありふれた器具、飲食物、色、形状、音、臭い、味、感触、人物の言動、様子、また、生き物の様子など、人間の五感や感情等を通して描かれる種々（しゅじゅ）のものが、作家の意図と工夫により「**象徴素材**」として利用される。「**象徴する内容**」については、その物事から受ける「**一般的なイメージ**」で説明できるわけではないので、あくまで「**本文の内容との重ね合わせ**」による**精度の高い解読訓練**が求められる。

> **【象徴問題の例】**
> ・問題本文の最終行にある、主人公である「私」の「**とりあえずウミガメのスープを仕込もう。**」という言葉が、以下のように、**「私」の今後の生き方への思いを象徴**する。
>
> **【私が本当に求めている、見た人の胸に真に届（とど）き、生きていく気持ちを支える力を持った絵をいつか描（か）けるようになるために、自分を支えてくれている人達やさまざまなものへの思いを胸に、未来に目を向け、一日一日を大切に生きてゆこう】**
>
> ※『ウミガメのスープ』（宮下奈都）～サピックス『10月度マンスリーテスト（平成30年/2018年10月実施）』の【大設問4番】、および、四谷大塚『第3回 合不合判定テスト（平成30年/2018年9月実施）』の【大設問1番】にて同場面が出題。

【暗示】
・**情景描写（びょうしゃ）や種々（しゅじゅ）の事象（じしょう）描写によって、その後に起こる「事件」や「展開」を予（あらかじ）め読者にそれとなくほのめかしておく手法**。伏線（ふくせん）。暗示内容がその後に具体的な結果や役割として明らかとなる場合を、俗（ぞく）に「伏線回収」と呼ぶことがある。

【比喩（ひゆ）（喩（たと））】
①**直喩（明喩）**：「**Aは（まるで・あたかも）B～（ようだ・みたいだ）**」等のように、「**はっきりと比喩であることを示した言い方**」。「**ようだ・みたいだ**」といった語が用いられることで、隠喩（いんゆ）に比べて**与える印象はソフト**となる。例：「先生は（まるで）**鬼のようだ（鬼みたいだ）**！」
②**隠喩（暗喩）**：「**ようだ・みたいだ**」のような「**比喩であることを直接表す言葉**」を用いずに、「**AはBだ**」のように**喩（たと）えて言い切る**。直喩よりも**鋭（するど）く、強い印象**を与える。例：「先生は、**鬼だ**！」
③**擬人法（活喩）**：**人間でないものを、人間や、人間の動作や様子に喩（たと）えて表現する**方法。親近感や生き生きとした印象を与える効果がある。「**救急車が（人間ではない主語）→悲鳴を上げている（人間の動作）**」、「**冬将軍**（冬の寒さの厳（きび）しさを、将軍の険しく厳しいさまにたとえている）」など。

【魂（たましい）を返せ！】

■問題
・あるとき、ラップにくるんで冷蔵庫に大切に保存しておいた『魂（たましい）』が、誰かに食べられてしまった。そこで、Aは次のように言い、BとCもまた、何かを言った。

A：「犯人はBだよ」
B：「……だ」
C：「……だよん」

・後（のち）に得られた情報は、以下の三つだった。
①犯人は、A、B、Cのうち、1人である。
②本当のことを言ったのは、犯人だけである。
③ウソをついているのは、無実の人である。

・**『もしAが本当のことを言っているのなら』、『もしAがウソをついているのなら』**のように**仮定**して**『矛盾（むじゅん）がないか』**を確かめていくと、真犯人をつきとめることができます。

■答え
(1)「**もしAが本当のことを言っているのなら**」、条件②により、「本当のことを言ったAが犯人」だ。
(2)そして、そのA本人による発言内容もまた本当なのだから、「Bも犯人」である。
(3)しかし、AとBが二人とも犯人であるというのは、「犯人は1人しかいない」という条件①と**矛盾する**。
(4)よって、Aは本当のことを言っておらず、条件③により、「**ウソをついたA本人は無実**」であると考えられる。
(5)逆に、「**もしAがウソをついているのなら**」、条件③により、「**Aは無実**」だ。これは(4)の結論とも一致する。
(6)そして、A本人による発言内容もまたウソなのだから、「**Bは無実**」である。
(7)よって、「**AもBも無実**」であるなら、残された一人、「**Cが犯人**」であるとわかる。条件①、②、③の全てを満たす以上の考え方に**矛盾はない**。

■口頭でのアウトプットに挑戦！
・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予（あらかじ）めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏（ふ）みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨（のぞ）みなさい。

■記述問題
・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜（てきぎ）用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

※基本的な論理⑥『背理（はいり）法』（p.6）参照！

【勝利をつかめ！】

■問題

・「**赤・青・黄・緑**」の箱のどれかに、『**勝利**』が入っています。勝利は、一つの箱にだけ入っているのか、複数の箱に入っているのかは分かりません。勝利を手に入れたいあなたは、どれか一つの箱だけをもらえることになりました。

ただし、……
①**赤**の箱に勝利があるときには、**青**の箱にも入っている。
②**緑**の箱に勝利が無いときには、**黄色**の箱にも入っていない。
③**緑**の箱に勝利が無いときには、**青**の箱にも入っていない。

・情報②と③の、『**緑の箱に勝利が無いときには**』から始めて考えを進めてゆくと、『**ある矛盾**(むじゅん)』に突(っ)き当たります。そして、「**その矛盾が生じた、そもそもの理由**」に気づくと、答えがわかります。どの色の箱に勝利が入っているのか考えてみましょう。

■答え

(1)情報②と③により、「**緑の箱に勝利が無いときには**」、「**黄色**の箱にも、**青の箱**にも**入っていない**」。
(2)「**緑**の箱」にも、「**黄色**の箱」にも、「**青**の箱」にも入っていないのであれば、勝利は「**赤**の箱に入っている」ことになる。
(3)しかし、「**赤**の箱に入っている」のであれば、情報①により「**青**の箱にも入っている」ことになって、(1)の内容と**矛盾する**。
(4)**前提**が誤(あやま)っていると、**論理は誤って展開**し、**誤った結論**を導く。
(5)そうであるなら、(3)の**矛盾**は、「**緑**の箱に勝利が入っていない」とする**当初の『前提』がそもそも誤り**であったために生じたのだと考えられる。
(6)つまり、**『誤った前提』をもとに考えを進めた**ために、この**矛盾**に突き当たったということだ。
(7)よって、当初の「**前提を逆転**」し、勝利が「**緑の箱に入っている**」と考えることで、この**矛盾が解消される**。

■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予**(あらかじ)**めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨(のぞ)みなさい。

■記述問題

・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜(てきぎ)用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

※基本的な論理⑥『背理法(はいりほう)』(p.6)、⑪『仮説形成(アブダクション)』(p.38) 参照！

【皮肉】
①**遠回しに意地悪く相手を非難すること**。アイロニー。「(宿題を大量に与えられた生徒が)先生は大変な生徒思いですね！(真意は『こんなに宿題を大量に出されたら非常に迷惑だ』)」など。
②**予想や期待とは反対の(良くない)結果になること**。「皮肉にもお巡(まわ)りさんは泥棒(どろぼう)に財布(さいふ)を盗(ぬす)まれた」、「まさかあの最下位チームに負けてしまうとは皮肉だ」 など。
③**自分に対する落胆**(らくたん)**した気分を表す**。「雨天により運動会が中止と決定した直後に、**皮肉にも**雨が上がった」など。
※中学受験国語では特に「**皮肉①**」に関連する出題が多いが、「**皮肉②**」の関連問題も散見される。

【反語】
①**「疑問文の形」をとりながら、暗(あん)に「強い否定」の意味を表す**強調表現。「そんな不思議な話が本当に**あるのだろうか**(＝そんな不思議な話が本当に**あるはずがない/絶対にない/決してない**)」 など。
※中学受験国語では「**反語①**」に関連する出題が多いので、しっかりとこれを押さえておきたい。
②**反語を使った皮肉**。**ある語を本来の意味とは反対の意味に使うことで、皮肉を込める言い方**。アイロニー。「(遅刻した人に)随分(ずいぶん)と**お早い**到着ですね」など。

【逆説】
①「急がば回れ」、「負けるが勝ち」、「かわいい子には旅をさせよ」のように、**一見矛盾(むじゅん)しているようだが、実は真理の一面を表す説**。パラドックス。
※中学受験国語では「**逆説①**」に関連する出題が多いので、しっかりとこれを押さえておきたい。
②**通常とは反対の方向からものごとを捉**(とら)**えたり、考えを進めたりするさま**。「**逆説的に言えば**、**苦労が多い**ほど、**人生を豊かにする**ということだ」など。類似表現に、「**逆に言うと**」、「**裏を返せば**」、「**反対に言えば**」などがある。

【擬声(音)語】
・**音や声を言葉に表したもの**。オノマトペ。「お腹(なか)が**ゴロゴロと**鳴る。」(片仮名表記)
【擬態語】
・**ものごとの様子や感じを言葉に表したもの**。オノマトペ。「日曜日は家で**ごろごろと**している。」(平仮名表記)
【葛藤(かっとう)】
・つる性植物である葛《かずら》と藤《ふじ》がもつれ合うことから、**二つの相反(あいはん)する感情の板挟(いたばさ)みとなり、迷い悩(なや)むこと**。「葛藤する」、「葛藤を抱(いだ)く」、「心の葛藤」などと用いる。
【両価性】
・「愛と憎(にく)しみ」のように、**同一の対象に対して相反(あいはん)する感情を同時に持つこと**。肯定的な感情と否定的な感情とが並立して存在すること。「(好奇心から)見てみたいけれど、(怖(こわ)いので)見たくない」、「(好物なので)食べたいが、(太りたくないので)食べたくない」など。アンビバレンス。両面価値。両価価値。

【歴史的現在(史的現在)】
・**過去の出来事に「現在形」を用いて述(の)べる表現技法**。「私は前を**見すえる**。ゴールをこの目で**狙(ねら)い定める**。そして、全力でこの真っすぐな道を**駆**(か)**け抜**(ぬ)**ける**」のように、実際には過去の出来事でありながら、敢(あ)えてそれを現在形で表現することで、**今、目の前で実際にその出来事が起きているかのような印象**を与えたり、**それが今、実際に自分に起きていることであるかのような気持ち**にさせる効果がある。自分の書く作文でも、一度この技法を使って書いて、醸(かも)し出される臨場感や生き生きとした印象による効果を確かめてみよう。

【会話表現】
・「**会話表現**」について、その形式や特徴、効果等について検討が求められる場合がある。
【呼称(こしょう)の変化】
・相手を「**あだ名**」で呼んでいたものが「**さん付け**」に変化したり、自称(じしょう)が「**オレ**」から「**ぼく**」に変化したりするなど、**「呼称の変化」の裏にある心情**について検討を求められる場合がある。

【主観的と客観的】
・**主観的**:その人だけの見方、感じ方であるさま。
「彼の判断は主観的なものであって、公平とは言えない」
・**客観的**:当事者から離(はな)れて、第三者の立場から物事を観察して考えるさま。
「客観的に判断するため、彼女の主張を冷静に聞いた」

【相対的と絶対的】
・**相対的**:他との比較(ひかく)によって成り立つ(存在する)さま。
「製品Aより製品Bのほうが、相対的に優(すぐ)れている」、「相対的な評価/価値/視点」
・**絶対的**:他とは関係なく、それだけで成り立つ(存在する)さま。
「彼の人気は絶対的だ」、「絶対的な評価/価値/信頼/立場/権力」

【飛躍（論理的飛躍）】

★（31）飛躍（論理的飛躍/根拠不足）　※基本的な論理⑦『飛躍（論理的飛躍）』（p.7）参照！

・「十分な根拠に基づかない内容説明」、あるいは、「正しい筋道を飛び越えた内容説明」である。「論理上の飛躍の度合い」が小さい場合や大きい場合など、さまざまに調整してある。論理的な思考訓練が不十分で、判断がその都度「印象や感覚」によって揺れやすい小学生を誤答に誘導しやすい。「前提」と「結論」との間の「関連性・連続性・因果関係」を的確に捉え、また、「そうかもしれないし、そうでないかもしれない」といった「可能性の視点」も持って、客観的、総合的に判断しよう。また、小手先テクニックに見られるような、思考もせずに「言い過ぎだ、大げさだ。だから消去！」などといった方法で安直に判断せず、文章を論理的に読み、把握する訓練を怠らぬように。

※飛躍（論理的飛躍）：正しい筋道を飛び越えて結論づける論理的な誤り。「前提」と「結論」との間に隔たりがあり、因果関係が不明確な場合が多い。

※小手先テクニック：その場をしのぐための、普遍性のない、にわか仕込みの浅はかで安直な技術。

> ・太郎君：花子と愛子は、やっと仲直りしたようだね。
> ・次郎君：二人は絆を今以上に深めて、互いに支え合って生きていくのさ。
>
> （そそ、そうなのか？）

・次郎君は、花子と愛子二人の間に今後生起するさまざまな状況や変化を前提に置かずに、あるいは、不十分な根拠をもとに、今後の二人の発展的な人生について「飛躍した判断」を下しています。

★（32）意志飛躍（そんなつもりないし！）

・筆者の考え、あるいは、登場人物の考えや気持ちに沿わない「意志表現」で説明してある。『言い過ぎだ、大げさだ、極端だ』のように「印象や感覚」によって判断するのではなく、あくまで「本文の内容に照らして、論理的な隔たりがあるのかどうか」を客観的に検討し、「筆者（作者）、あるいは登場人物はそのような意志までは抱いていない」と見抜けるようになろう。（31）「論理的飛躍」の一種。

> ・太郎君：「今回のテスト結果、どの教科も、まあまあの成績だったぜい！」
> ・次郎君：「次回のテストではクラス上位を狙ってるってわけか！」（狙う＝意志）
>
> ※動詞に注意！　相手の意志を勝手に飛躍させている！

・次郎君は、太郎君自身の考えを前提に置かず、一方的に自分の考えだけを都合良く押し進めて、太郎君の「意志を飛躍させて判断」しています。

■「歩も**ウ**とする」、「仲直りし**ヨウ**とする」、「逃げ**マイ**とする」のように、「意志を表す助動詞」である「う・よう・まい」が用いられている場合が多いが、ぱっと見では目立たないために「飛躍」に気づきにくい。

■また、「認める・受け入れる・決める・向き合う・選択する・否定する・評価する」といった「もともと意志を含意する動詞＝意志動詞」や、「～するために・～する目的で」、「～しなければならない・～つもりだ」といった、やはり「意志を含意する表現＝意志表現」を用いることで飛躍に気づかれないよう調整してある場合も少なくないので十分に注意しよう。

★（33）意志調整（積極度・消極度の調整）

・本文において、筆者（作者）、あるいは登場人物が、ある事柄について「意志を抱いていることが間違っていない」場合に、選択肢においてはその「意志の度合い」や「積極度や消極度」を微妙にずらして説明してある。（31）「論理的飛躍」の一種。

【ライオンと羊とキャベツを運ぼう！】

■問題

・動物園の飼育員が、**ライオン**、**羊**、**キャベツ**をボートで川の対岸に運ぼうとしています。

でも、……

（1）飼育員がそばにいないと、**ライオン**は**羊**を食べてしまう。
（2）飼育員がそばにいないと、**羊**は**キャベツ**を食べてしまう。
（3）ボートには、飼育員の他に**ライオン**か**羊**か**キャベツ**のいずれか一頭（一つ）しかのせられない。

・『まず、羊をボートにのせ』から始め、**ライオン**、**羊**、**キャベツ**を無事にすべて対岸に運ぶ方法を考えてください。

■答え

①まず、**羊**をボートにのせ、対岸に運ぶ。
②次に、飼育員が一人で戻り、**ライオン**をボートにのせて対岸に運ぶ。
③その後、**羊**をボートにのせて戻り、陸におろしてから、今度は**キャベツ**を対岸に運ぶ。
④最後に飼育員がまた一人で戻り、**羊**をのせて対岸に運ぶ。

■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨みなさい。

・父親らしき人が吹くオカリナの調べが、夕暮れの浜に静かに響いていました。
※2005年（平成17年）8月4日、千葉市美浜区の『検見川の浜』にて細川撮影

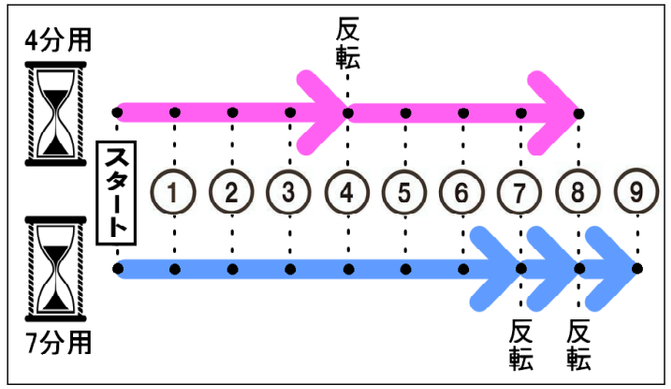
【二つの砂時計】

■問題

・ここに二つの砂時計があります。一つは「**4分用**」で、もう一つは「**7分用**」です。この二つの砂時計を用いて「**9分**」を計りたいのですが、どうすればよいでしょう。

■答え

①まず、二つの砂時計を同時にスタートさせます。
②「**4分の砂時計**」が終わったら、それを反転させます。この時点でスタートから**4分経過**しています。
③その3分後、「**7分の砂時計**」が終わったら、それを反転させます。この時点でスタートから**7分経過**しています。
④さらにその1分後、つまりスタートから**8分経過時**に「**4分の砂時計**」が終わります。そしてこの時、1分前に反転させたばかりの「**7分の砂時計**」を再び反転させます。「**7分の砂時計**」は、反転させたその時点で砂が「**1分**」の分量だけ残っているのですから、この砂が全て落ちた瞬間が、スタートからちょうど**9分後**となります。



■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予**(あらかじ)**めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨(のぞ)みなさい。

■記述問題

・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜(てきぎ)用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

★(34)二分法(白黒思考)

・「**仲間ではない**」という説明は、必ずしも「**敵**(てき)**である**」ことを意味するわけではない。他に「**中立**」や「**無関係**」という立場が想定されるにもかかわらず、そのような「**中間層の可能性**」を排除し、「**二者**」のみを前提とした説明がされている。(31)「**論理的飛躍**」、(41)「**前提のすり替え**」の一種。

> ・太郎君：今回のテスト、国語の成績が最悪だったよ。
> ・次郎君：つまり、勉強をさぼったということだね。　　(…は？…)

・次郎君は、「**勉強したか、勉強しなかったか**」の「**二つの選択肢**」のみを「**前提**」に置き、太郎君が「努力したにもかかわらず苦手な出題分野だった」、「ミスを連発した」、「集中力が発揮できなかった」といった「**他の可能性**」を前提に置かずに、一方的に「**飛躍した判断**」を下しています。

★(35)期待・願望・憧(あこが)れ飛躍(ひやく)(別に期待してないし/別に願ってないし/別に憧れてないし)

・**筆者(作者)、登場人物がそもそも抱**(いだ)**いていない「期待や願望・憧れ」が述べられている**。「仲直りがし**たい**と考えて」、「帰り**たがっ**ている」のように「**希望(願望)を表す助動詞**」である「**～たい・～たがる**」が用いられている場合が多いが、ぱっと見では目立たないために「**飛躍**」に気づきにくい。

■また、「**～してほしい・～を願う・～を望む・～を期待する**」といった表現が用いられている場合もあれば、「**きっと～だろう**」、「**きっと～ちがいない**」のような表現を用いることで飛躍に気づかれないよう調整してある場合も少なくないので十分に注意しよう。

★(36)好意飛躍(ひやく)(別に好きってわけじゃないし)

・ある作品において、「**男女間における親しい関係**」が描(えが)かれていても、それが必ずしも「**両者間における好意や恋愛**(れんあい)**感情**」を意味しているとは限らない。人物の**心情や相互**(そうご)**の関係性、その後の展開などを、思い込みにより都合よく飛躍**させて捉(とら)えてしまわないよう注意しよう。(31)「**論理的飛躍**」の一種。

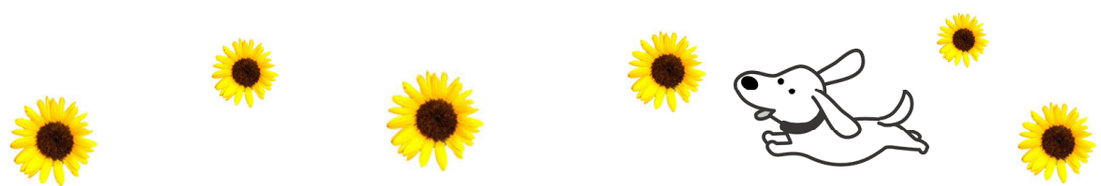
★(37)拡大解釈(かいしゃく)(意味広げたでしょ)

・「休憩(きゅうけい)してよい」を「遊んでもよい」と解釈するなど、**ある事柄**(ことがら)**についての説明や、選択肢の説明そのものが、本来の意味内容を都合よく広げた解釈となっている**。本文中のある事柄について一般化、抽象(ちゅうしょう)化して説明されている場合においても、本文における適正な意味内容を超えていないかどうかを厳密に把握(はあく)しよう。(31)「**論理的飛躍**」の一種。

★(38)単純化(単純な話さ)

・例えば、「**国語学習では漢字の習得がとても大切だ**」という一説を、「**国語学習では漢字が書ければよい**」と再解釈するように、**背景や事情等の重要な要素を意図的に省略し、簡略化して説明**する。「**単純化**」は「**抽象化**」や「**一般化**」、あるいは「**要約**」とは全く異なるが、一見**わかりやすく類型化**され、また、**受け入れやすい**ものにも思えるため、安易に飛びついてしまわぬよう注意しよう。(14)「**論点違い**」、(31)「**論理的飛躍**」の一種。

※**単純化**：物事の重要な要素を意図的に削除(さくじょ)して、単純、かつ**類型的**な説明にすり替えること。正確性を欠き、本質を外した底の浅い説明となる。
※**類型的**：型にはまっていて、個性や特色が見られないさま。
※**抽象化**：多くのものごとが共通して持っている性質だけを抜き出し、それらを同類のものごととして捉(とら)えること。
※**一般化**：一部の事例をもとに、それを普遍(ふへん)的な概念に拡張すること。普遍化。
※**要約**：文章の要点を取りこぼさずに、短くまとめること。



★（39）無理な一般化（例外は無いのけ？）

・「ポチも、ゴンも、モモも、人なつこい犬だ。（AもBもCも▲だ）」、「だから、犬はみんな人なつこい動物だ。（だから、全体も▲だ）」のように、例外の存在を前提に含めずに、一部の事例をもとに、全てが同じであるかのように一般化して説明する。（31）「論理的飛躍」の一種。

> ・花子さん：スズメも、ハトも、カラスも、空を飛ぶことができるわ。
> ・愛子さん：鳥という生き物は、みんな空を飛べるのね。　（…もしも～し…！）

・愛子さんは、ペンギンや駝鳥のように飛べない鳥がいることを前提に置かず、「一部の性質」を「全体の性質」として無理やり「一般化」し、「飛躍した判断」を下しています。「一部の性質」がそうであるからといって、「全体の性質」も同じであるとは限りません。

【レッテル貼り】

・「太郎は真面目だ。」、「花子はおしゃれだ」というように、人物や事物について主観的に一般化し、評価を与えることを「レッテル貼（は）り」という。また、「俺って、天才！」、「私って、ダメ人間なの」のように、自分で自分にレッテル貼りをする場合もある。
◎「次郎は嘘（うそ）つきだ」、「愛子は意地悪だ」のように、良くない情報のみをもとに主観的に一般化し、一方的に悪い評価を与える場合には、皮肉を込めて相手を非難するにとどまらず、「対人攻撃」として「悪口」や「いじめ」、「差別的言動」に繋（つな）がる場合も少なくない。

★（40）カゼオケ論法（ドミノ論法/連鎖飛躍）

> ■風が吹けば桶屋が儲かる
> 【強い風が吹くと、土ぼこりが立つ】→【土ぼこりが目に入って目を傷め、盲人が増える】→【盲人は三味線の演奏を生業（なりわい・せいぎょう）とするので、三味線のに張るための猫の皮が沢山必要になる】→【猫が減る】→【猫を天敵とする鼠が増える】→【鼠は桶をかじるので、桶の需要が増える】→【桶屋が儲かって喜ぶ】　（…な、なるほど！… そういうことか！）

・「風が吹けば桶屋が儲かる」は、「ある事柄が原因となって、まったく無関係と思われるところに影響が出ること」、また、「当てにならない期待をすること」という意味のことわざである。選択肢の説明においては、「AだからB、BだからC、CだからDである」のように「複数の因果関係をつなぎ合わせて都合よく論理を飛躍させていないか」を確かめる視点も備えよう。（31）「論理的飛躍」、（41）「前提のすり替え」、（45）「条件トラップ」の一種。

【消えた1,000円の謎】

■問題
・三人の客がレストランで食事をし、一人10,000円ずつ、合計30,000円を支払いました。客の一人が、「少しまけてよ」と持ちかけると、レジ係は店主から「5,000円を返金してよい」と言われました。するとレジ係は、5,000円だと3人で割り切れないと考え、こっそりと2,000円を自分のポケットに入れ、客には3,000円だけを返金しました。
・さて、客は一人9,000円ずつ支払ったことになるので、支払いの合計金額は27,000円です。これにレジ係がくすねた2,000円を足すと、合計29,000円になります。客が最初に支払ったのは30,000円だったはずです。**1,000円はどこへ消えてしまったのでしょう。**

■答え
・**ドナルド君**：店主が5,000円の値引きを認めたのだから、**本来客側は25,000円を支払えば済んだはず**だ。にもかかわらず、客が支払った金額は27,000円となった。では、**この2,000円分の金額は一体どこから現れたのか。**
・**近平君**：レジ係が2,000円をくすねさえしなければ、客は25,000円を支払うだけでよかったのだから、その「**2,000円分はレジ係のくすねた金額**」に当たるんだよね。
・**ドナルド君**：「**27,000円の中にレジ係のくすねた2,000円分が含まれている**」というのなら、問題文の「**27,000円に2,000円を足す**」という計算は、「**レジ係のくすねた2,000円」を2回足す**ということになるだろう。
・**近平君**：なるほど！　**問題文自体にウソが仕込まれている**んだ！「**総額30,000円のお金の動き**」として見るのなら、**客側に返金された3,000円が計算に含まれていない**のも、そもそもおかしい。
・**ドナルド君**：本当の計算としては、「店の売り上げとなる25,000円」に「**レジ係の手に渡る2,000円**」を加え、さらにそれに「**客に返金された3,000円**」を加えると、問題文にある「**客が最初に支払った30,000円**」と一致する。
・**近平君**：よし、問題文を正してみるよ！「客は一人9,000円ずつ支払ったことになるので、支払いの合計金額は27,000円です。ただし、この金額には、**レジ係がくすねた2,000円分、つまり、本来はレジ係が客に返金すべき2,000円分が含（ふく）まれていますが**、客側はそれを全く知りません。この『**店側に動いた**（客が支払った）27,000円』に『**客側に動いた**（実際に返金された）3,000円』を加えると、合計金額は30,000円となり、**客が店に最初に支払った金額**と一致します。」
・**近平君**：ところで、問題文に虚偽の計算が仕込まれていたことは確認できたけれど、どうしてそれに気づくことができなかったのだろう。不思議だなあ……。
・**ドナルド君**：問題文に含まれている、「**（客による）支払いの合計金額は27,000円**」、「**客が最初に支払った30,000円**」という表現は、つい「**客側の視点**」で一方向的に文脈を捉（とら）えてしまう。それで、問題の読み手はそこに意識が強く引っ張られて、逆に「**店側の視点」から見たお金の流れ**が把握（はあく）しづらくなるんだ。　※アンカリング効果
・**近平君**：確かに、さっきの説明のように、「**客側が支払った27,000円は、店側が受け取った27,000円**」だと**視点を切り替えて捉え直せば、店側から見たお金の流れ**が確認できて理解が簡単だものね。計算上の誤（あやま）りがすぐにわかった。
・**ドナルド君**：ところが、「**視点が固定されて切り替えができずにいる**」と、「客側が支払った27,000円にはレジ係のくすねた2,000円分が含まれている」という「**前提条件」が掴（つか）みづらくなり、読み手の思考からそれがすっぽりと抜け落ちてしまう**。だから、読み手は「**レジ係のくすねた2,000円」が二重に加算されていることに気づけず、筋道（すじみち）を見失って宙（ちゅう）に浮いたようになってしまうんだ。**　※前提操作（『前提の消失/前提の隠匿（いんとく：かくすこと）』）
・**近平君**：はじめは訳（わけ）がわからなくて狐（きつね）につままれたようだったよ。「**問題文自体に虚偽が仕込んである**」だけでなく、「**心理的な誘導（ゆうどう）トリック**」も使われていたのか。**作為（さくい）的に表現を操作して読み手の視点を固定し、その後の判断に歪（ゆが）みを生じさせる「暗示トリック」にかかってしまった**、というわけだね。　※アンカリング効果
・**ドナルド君**：おまけに、思考に筋道を立てるうえでの重要な情報である「**前提」の一つを見失わせて混乱させる「論理トリック」**も仕組まれていた。　※前提操作（『前提の消失/前提の隠匿』）
・**近平君**：「**レジ係の盗（ぬす）みを客側が全く知らない**」という状況も、「レジ係がくすねた2,000円を足す」という**虚偽の計算を読み手に信じ込ませるための暗示材料**となっているね。
・**ドナルド君**：しかもだ、「**これに**レジ係がくすねた2,000円を**足すと**」のように「**偽の計算を当然の条件として直（ただ）ちに与えられる**」と、読み手は自然とこの**誘導に乗せられて**、この条件を前提の一つとして新たに筋道を立て直そうと試みる。だが、そもそも「**偽の前提**」を基（もと）にして計算が合うはずがない。これもまた、**論理的誘導の一手法**というわけだ。　※前提操作（『条件トラップ』）
・**近平君**：妖（あや）し気（げ）に立ち現れては、ふいと消えてしまう「物の怪（け）」の変幻のように、「**前提の変幻**」に翻弄（ほんろう）されて、考えれば考えるほど、いっそう混迷（こんめい）の淵（ふち）に深く陥（おちい）ってしまうというわけか。それにしても、ものごとを理解するには「**視点の切り替え**」や「**相対的視点からの検討**」が大事なんだね。それと、「**国語力**」と、「**論理的思考力**」もだ！
※**物の怪**：人にとりついて祟りをする妖怪・死霊・生霊の類。
※**変幻**（へんげん）：出没（しゅつぼつ）や変化をすばやくすること。
※**翻弄**（ほんろう）：思いのままにもてあそぶこと。
※『心理操作術（4）：アンカリング効果（初期値提示誘導）』、『基本的な論理③：前提のすり替え』、『（45）条件トラップ』を参照！

【犯人を見つけろ！　～今日も元気な学級崩壊～】

■問題

・あるクラスで、『誠実』行方不明事件」が発生しました。一人の犯人だけがウソをつき、残りの二人は本当のことを言っています。それでは、三人の容疑者の供述を聞いてみましょう。

A君：B君が絶対に犯人だよ。僕は『誠実』を隠していない。
B君：C君が犯人だ。僕も『誠実』を隠していない。
C君：僕は犯人じゃない。『誠実』なんか隠してないよ。

・この三人の中に、『誠実』をどこかへ隠した者が一人だけいます。『もしA君が本当のことを言っているとしたら』から始めて『そこに矛盾（むじゅん）はないか』を確かめていくと、誰が犯人であるかがわかります。では、事件の解決に挑（いど）んでください！

■答え

・茂君：「絶対に」などと言っているのであるから、これは絶対にA君を怪しまねばならない。
・佳彦君：印象で決めつけるものじゃないよ！！！
・恋宝さん：印象だけじゃダメなんですか？！
・堀多門：何言ってんの！　ダッセ！　お前、終わってんだよ！！

・洋文君：まず、もしA君が本当のことを言っていると仮定すると、「C君が犯人だ」と言うB君はウソを言っていることになる。一人だけがウソを言っているのだから、残ったC君は本当のことを言っていると考えていい。この理屈だと、特に矛盾は起きないね。
・綾香さん：今度は、もしB君が本当のことを言っていると仮定すると、「自分は犯人ではない」と言うC君の言葉がウソになる。C君が怪しいわ。
・雄一郎君：ちょっと待った！　でも、もしB君が本当のことを言っていると仮定すると、犯人ではないはずの「B君が犯人だ」と言うA君もウソを言っていることになるよ。一人だけがウソを言っているはずなのに、二人がウソをついているとなると、矛盾だよ。

・鉄夫君：やはりB君が怪しいな！
・尚樹君：疑惑（ぎわく）は……
・清美さん：疑惑はさらに深まった！！！
・智子さん：バン!!!（机（つくえ）を激（はげ）しく叩（たた）く音）　あんたは一生お黙（だま）りなさい!!! ガツッ!!!（投げつけた靴（くつ）が清美さんの顔を直撃（ちょくげき）した音）　一応、C君も調べてみようよ。もしC君が本当のことを言っていると仮定すると、「C君が犯人だ」というB君はウソを言っている。一人だけがウソを言っているのだから、A君は本当のことを言っているのね。この理屈で考えても、やっぱり矛盾は起きないわ。

・創平君：世界を操（あやつ）っている闇（やみ）の勢力の仕業（しわざ）だよ！
・宗男君：よし、B君を逮捕（たいほ）しろ！
・竜兵君：聞いてないよ！！！
・憲寿（のりとし）君：『どこが違うのか』、その『定義』を聞いているんです！！
・伸二君：……は？　『定義』の話ではなく、『相違点』の話でいいですよね？
・孝志君：ぶっこわーすを、ぶっこわーす！！
・ひろゆき君：それっていうのも、アリかなって思うんスよね。
・太郎君：だったら変えよう、オイラと一緒に！
・瑞穂（みずほ）さん：がんこに平和！　級長守れ！！　クラスが一番！！！
・人志君：ん～、なんか、五・七・五みたいなん？
・進次郎君：30年後の自分は何歳（さい）かなと、ずっと私は考えていました。
・たけし君：ちょっと何言ってるのかわかんない。

※基本的な論理⑥『背理法』（p.6）参照！

【前提（ぜんてい）操作】

★（41）前提のすり替え（聞いてないよ！/産地偽装（ぎそう））　※基本的な論理③『前提のすり替え』（p.5）参照！
・本文における「正しい前提（正しい事実内容）」を「正しくない前提」にすり替えたうえで論理展開している。本文における「前提（正しい事実内容）」と「解答者の把握した前提内容」とが合致（がっち）していなければ、その都度判断に揺（ゆ）れが起きてしまう。本文を通読せず、また、本文との照合もせずに、専（もっぱ）ら記憶に頼（たよ）って選択肢どうしの読み比べだけで判断しようとする受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。「この説明は、前提がすり替わっている」と見抜けるようになろう。
※前提：論理を支える土台。因果関係や論理を組み立てるうえでの土台となる重要な条件。

■「前提のすり替え」は、日常における冗談（じょうだん）や励（はげ）まし、勇気づけなど、善意に基（もと）づく会話術の一手段としても意識的、無意識的に用いられるが、詭弁（きべん）や詐欺（さぎ）、悪意に基（もと）づく心理操作などの一手法としてもしばしば利用される。「前提のすり替え」による教育やマスコミ（マスメディア）の情報操作によって知らないうちに思想誘導されたり、特定の価値観を植えつけられたりしてしまわないよう、十分に注意しなければならない。「前提となる事実を自分自身でよく確かめ、自分の頭を使って考え、判断する」心構えが、今後ますます強く求められる。

■国語を得意とする受験生の場合、様々な視点を駆使（くし）して多角的に物事を把握（はあく）する能力が高く、たった一回の本文通読時に、特に線引きやチェック等の作業も必要とせずに、広範囲に及ぶ重層的な多くの情報を一気に収集、総合し、その優れて高い分析力や検討力等により、問われている箇（か）所の近辺を瞬時確認するだけで正確な判断をすることができる者が少なくない。記述答案の精度としては不十分な面が見られるにせよ、問題の処理スピードも極めて速い。しかしながら、その域にまで達してもいない者が、「本文を通読もせずに、問われている箇所の前後数行の内容から判断を下す」といった形ばかり似せた安直な手法にすがり続けていても、読解と解答の精度を実質的に向上させていくことは極めて困難だ。「時間が足りない」という受験生は、「頭脳の高速処理訓練」や「時間短縮訓練」、「速読訓練」を普段の学習に積極的に導入し、日々の継続的訓練により、本来的な脳の機能的向上と思考作業の高速化を着実に図ってゆこう。
※「本文を通読せず、問われている箇所の前後数行の内容から判断する」といった手法でどの程度得点できるかをゲームとして競ってみるのは、それはそれで面白いだろう。
※本資料巻末に掲載した「時間配分のしかた」、「時間短縮訓練」、「高速トレース（全脳型分析的高速処理）」、「再現学習」、「フラッシュリーディング（全脳型分析的速読法）」等の資料も併（あわ）せて参照してください。

★（42）暗黙（あんもく）の前提（暗黙の了解（りょうかい））　※基本的な論理②『暗黙の前提』（p.4）参照！
・本文には直接表現されてはいないが、筆者（作者・登場人物）が「暗黙の前提」としている事柄（ことがら）をもとに説明されている。「筆者の主張の根底にある思想」や、本文に直接書くまでもない「当たり前の事柄」などを「暗黙の前提」に置いて説明されるため、まさかと思うような内容の説明となる場合があり、正解でありながら「明らかな誤り」として早々に除外（消去）してしまう恐れがある。判別難度が高く、正答率を極端に下げるのにも有効な手法。本文の内容把握の学習においては、「明示された前提」と「表現の裏にある前提」に加え、「暗黙の前提」の三つをしっかりと押さえ、そのうえで「前提と結論との関係＝因果関係」を捉（とら）える訓練をしっかりと積んでおこう。
※暗黙の前提：特に言明せずともわかりきった事柄（ことがら）。

■表現の裏にある前提：例えば、選択肢の説明内に「決心した」という表現があったとすると、それはその人物が「それまで迷っていた、それまで決心せずにいた」といった意味が考えられ、また、「仲直りした」とあれば、それは「それまで仲違（なかたが）いしていた、仲直りするかどうか迷っていた」といった意味が考えられるが、それが実際に前提として本文の内容に合致（がっち）するのかどうかを照合によって正しく掴（つか）む必要がある。

★（43）人物像不一致（人物像のすり替え/あんた誰？）
・登場人物や作者・筆者の「人物像」とは「異なる人物像」にすり替えたうえで説明されている。「人物像（人柄（ひとがら）や性格）」という「前提内容」をすり替えたり、ずらしたりしたうえで説明されているため、本文全体を通して人物像を正確に把握（はあく）しておかないと、判断が揺（ゆ）らぐ恐れがある。表現を支える「見えない前提」を見抜けるようになろう。（41）「前提のすり替え」、（42）「暗黙の前提」の一種。

★（44）人物関係のすり替え（関係性が違（ちが）くね？）
・本文における「登場人物同士の関係」、もしくは、「作者（筆者）とある他者との関係」が「異なる関係性」にすり替えられ、それを前提として説明されている。「人物像」だけでなく「人物関係」や、さらに「人物同士の関係性の度合い」までをも含（ふく）め、本文に直接に明記されていない「見えない前提」を正確に捉（とら）えられるようになろう。（41）「前提のすり替え」、（42）「暗黙の前提」の一種。
※違（ちが）くて/違く：俗語（ぞくご）。正しくは「違って/違い」とする。また、「違かった」、「違くない」も、それぞれ「違った」、「違わない」と正すこと。

★（45）条件トラップ（『条件』作ってみた！） ※（40）『カゼオケ論法』参照！
・【［A］勉強が終わると（条件）＋［B］読書をし始めた】、【［A］宿題を済（す）ませたが（条件）＋［B］遊べない】、【［A］仲良くなるとともに（条件）＋［B］理解が深まる】のように、【Aを条件（前提）として＋B（となる/である）】の形式で説明されるが、そもそも［A］という条件（前提）が**虚偽**（きょぎ）、もしくは**不正確**である。誘導に都合の良い《**虚偽の条件［A］**》を「**前提**」として、**しれっと［B］が続く**ため、よく注意して文脈把握（はあく）しないと《**条件［A］**》の**虚偽**に気づくことが難しい。**本文を照合せずに、「記憶に頼（たよ）って選択肢どうしの読み比べだけで判断」**する受験生が相当に存在することを作問者は心得ており、「**見せかけの説得力**」と「**虚偽の論理**」に欺（あざむ）かれぬよう注意。（41）「**前提のすり替え**」の一種。
※**しれっと**：けろっとして。平然として。もと俗語（ぞくご）か。

■読み手は、文中に提示される事柄（ことがら）（情報）の一つひとつを【**条件＝前提**】として押（お）さえながら、階段を上るようにして文脈を辿（たど）ろうとするが、**先を読み進めることに意識を取られ**ていると【**条件＝前提**】に虚偽が仕込まれていてもそれに気づくことが難しく、相手の意図に沿（そ）った思考や判断へといっそう誘導されやすくなる。マスメディア（マスコミ）による世論調査やインタビュー等においても、世論誘導や印象操作を図る必要のある場合などにこの手法（**条件トラップ＝前提操作による誘導**）がよく利用される。また、誘導しやすい文脈や表現を調整するため、特定の分野における一部の専門家や学者もこれに協力している。

※ちなみに、社会的事案に関する会見等で対象者を追及（ついきゅう）する際に、ジャーナリスト側が、（31）「**論理的飛躍**」、（34）「**二分法**」、（40）「**カゼオケ論法**」、（41）「**前提のすり替え**」、（45）「**条件トラップ**」、（49）「**チェリーピッキング**」、（90）「**可能性トラップ**」、「**だって論法（p.13）**」、「**ダブルスタンダード（p.24）**」、「**わら人形論法（p.31）**」、「**悪魔の証明（p.33）**」等のさまざまな話法や詭弁（きべん）を使う例が見られるので、機会があれば自身で確かめてみてほしい。また、追及する側に、あやふやな情報に基づいて的外（まとはず）れな質問をする者、状況証拠や憶測（おくそく）をもとに結論を突（つ）きつける者、「結論ありき」で都合良く誘導しようとする者、そして、そもそも事実（前提）を踏（ふ）まえないでいる者や論理性に乏（とぼ）しいジャーナリスト達も少なくないので、追及の質や詰（つ）め方について見定めることは、真実の解明を切望する人々にとっては有益となるはずだ。加えて、私たちが日常において巧妙（こうみょう）な話法に惑（まど）わされ、詐欺（さぎ）や詐欺的な被害に遭（あ）ってしまわないためにも、他者の話を論理的に聞き、理解し、誤りや詭弁を見抜く力を備えていくことが、今後ますます強く求められる。しかしながら、日常や社会生活に関わるこのような「**実用的な論理教育**」は「実質的」には全く行われていないのが現状だ。

★（46）仮定トラップ（『仮定文』作ってみた！）
・【［A］（もし）勉強が終われば（仮定条件）＋［B］読書ができる】、【［A］（もし）宿題を済（す）ませても（仮定条件）＋［B］遊べない】、【［A］（もし）仲良くなれるなら/なれたら（仮定条件）＋［B］理解が深まる】のように、【Aを仮定条件（前提）として＋B（となる/である）】の形式で説明されるが、そもそも［A］という仮定条件（前提）自体が**虚偽**（きょぎ）・**不正確**である。誘導に都合の良い《**虚偽の仮定条件［A］**》を「**前提**」として、**しれっと［B］が続く**ため、《**仮定条件［A］**》における**虚偽**に気づくことが難しい。（41）「**前提のすり替え**」、（45）「**条件トラップ**」の一種。

★（47）因果トラップ（『理由』作ってみた！/イントラ） ※（64）『偽装因果』参照！
・【［A］勉強が終ったから/ので（原因・理由）＋［B］読書をした】、【［A］仲良くなれたため（原因・理由）＋［B］理解が深まった】のように、【Aを原因・理由（前提）として＋B（となる/である）】の形式で説明されるが、そもそも［A］という条件（原因・理由＝前提）自体が**虚偽**（きょぎ）・**不正確**である。誘導に都合の良い《**虚偽の条件（原因・理由）［A］**》を「**前提**」として、**しれっと《結果［B］》が続く**ため、《**条件（原因・理由）［A］**》における**虚偽**に気づくことが難しい。（41）「**前提のすり替え**」、（45）「**条件トラップ**」の一種。

★（48）基準トラップ（『基準』作ってみた！）
・「**一般的に**」、「**常識的に**」、「**社会的に**」、「**伝統的に**」、「**文化的に**」、「**世界的に**」、「**基本的に**」、「**世代によって**」のような「**ある基準を示す表現**」が提示されているが、実はその「**基準要素**」は、本来の説明においては**無関係**であったり、**不正確**であったりする。誘導に都合の良い《**虚偽の基準要素**》を「**前提**」として**しれっと説明が続く**ため、「**見せかけの説得力**」と「**虚偽の論理**」に欺（あざむ）かれぬよう注意。（12）「**余計**」、（13）「**視点違い**」、（41）「**前提のすり替え**」、（45）「**条件トラップ**」の一種。

★（49）つまみ食い論法（チェリーピッキング/いいとこ取り）
・「今度のテストで敬語の問題が出るよ。翔平君もマツコさんも徹子さんも、同じこと言ってるもん。」のように、多くの情報の中から都合の良い情報だけを選び出し（切り取り・切り出し）、それを根拠（前提）として自分に有利な主張をする。（41）「**前提のすり替え**」の一種。
※**チェリー・ピッキング**：おいしい「サクランボ（チェリー）」だけを「選び取って（ピッキング）」食べることから、「つまみ食い」の意。

★（50）歪曲（わいきょく）・曲解（きょっかい）（ねじ曲げ/ネジマゲドン）
・本文に書かれてある内容をわざと歪（ゆが）めて説明してある。「なんとなくそんな意味」ではなく、「内容に正しく見合った文脈と表現で説明されているかどうか」を判断できるようになろう。
※**歪曲**（わいきょく）：事実をわざとゆがめて伝えること。
※**曲解**（きょっかい）：相手の言動などをねじまげて解釈すること。

【天使と悪魔（あくま）と人間】

■問題
・**天使**は常に本当のことを言い、**悪魔**は常にウソをつき、**人間**は本当のことを言うこともあれば、ウソをつくこともあります。A、B、Cの3人が、次のように言いました。

A：私はね、**天使**ではありませんよ。
B：私はね、**人間**ではありませんよ。
C：私はね、**悪魔**ではありませんよ。

・『もしAが天使なら』、『もしAが悪魔なら』のように仮定して『**矛盾**（むじゅん）**はないか**』確かめていくと、A、B、C3人の正体が明らかになります。では、問題の解明に挑（いど）んでみましょう！

■答え
①もしAが天使なら、天使がウソを言っていることになるので**矛盾する**。だから、Aは天使ではない。
②また、もしAが悪魔なら、悪魔が本当のことを言っていることになるので**矛盾する**。だから、Aは悪魔ではない。
③以上により、「**Aは人間**」であると考えられる。
④次に、もしBが天使なら、本当のことを言っていることになるので**矛盾しない**。だから、「**Bは天使**」である可能性がある。
⑤また、もしBが悪魔なら、悪魔が本当のことを言っていることになるので**矛盾する**。だから、Bは悪魔ではない。
⑥以上により、「**Aが人間**」、「**Bが天使**」、「**Cが悪魔**」であるとわかる。3人それぞれの発言として、そこに矛盾はない。

■口頭でのアウトプットに挑戦！
・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予**（あらかじ）**めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏（ふ）みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨（のぞ）みなさい。

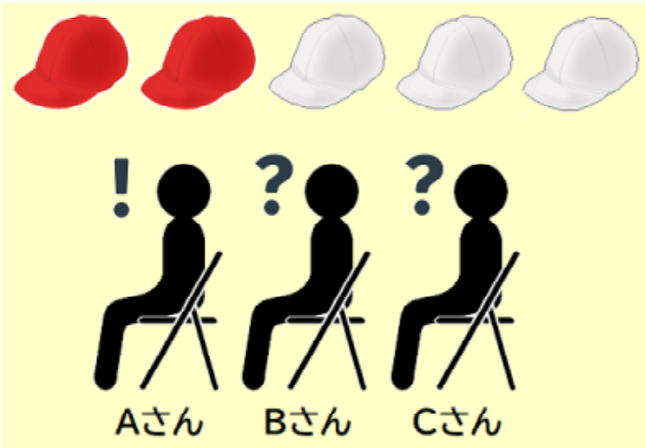
■記述問題
・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜（てきぎ）用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

※基本的な論理⑥『背理法（はいり）』（p.6）参照！

【Aさんの帽子は何色か？】

■問題

・赤い帽子(ぼうし)が二つ、白い帽子が三つあります。Aさん、Bさん、Cさんの三人の生徒が縦(たて)に順に並び、前を向いたまま椅子(いす)に腰(こし)かけました。その後、それぞれが5つの帽子の中のどれかを被(かぶ)りました。3人とも、自分が被っている帽子の色はわかりませんが、3番目にいるCさんには、前の二人が被っている帽子の色が見えており、2番目にいるBさんには、最前列にいるAさんの帽子の色が見えています。



・先生が、まずCさんに自分の帽子の色をたずねると、「わかりません」と答えました。次に、Bさんに同じ質問をすると、やはり「わかりません」と答えました。Aさんに同じ質問をすると、「わかりました」と答えました。

・そこで、『もしAさんとBさんが二人とも赤い帽子を被っていたのなら』から始めて、最前列にいるAさんは自分が何色の帽子を被っているとわかったのかを考えてみましょう。

■答え

①もしAさんとBさんが二人とも赤い帽子を被っていたのなら、Cさんは「自分の帽子は白です」と答えられたはずです。もともと赤い帽子は二つしかないからです。

②でも、Cさんは「わかりません」と答えたので、この仮定は正しくないことになります。だとすると、「AさんとBさんは、二人とも白い帽子を被っていた」か、「AさんとBさんのそれぞれが、赤か白、いずれかの帽子を被っていた」のだと考えられます。

③次に、もしAさんが赤い帽子を被っていたのなら、Bさんは「自分の帽子は白だ」とわかったはずです。なぜなら、最初のCさんの言葉から「AさんとBさんが二人とも赤い帽子を被っている」ことが既(すで)に否定(ひてい)されているからです。

④ところが、Bさんは「わかりません」と答えました。

⑤そこで、Aさんは、「自分の帽子が赤でないのなら、白だ」とわかったのです。

■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を口頭で説明してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、説明する内容を予(あらかじ)めよく整理したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら論理的に、また、伝わりやすさを工夫して説明に臨(のぞ)みなさい。

※基本的な論理⑥『背理法(はいりほう)』（p.6）参照！

★(51)肯定(こうてい)前提（肯定してたっけ？）

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）の「心情や考え」が『否定的(ひてい)』であるにもかかわらず、選択肢では『肯定的』であることを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での「肯定前提」が『否定前提』や『非肯定前提』にすり替わっている場合もある。

★(52)前向き前提（前向きだったっけ？） ※「決意前提/非決意前提」

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）の「心情や考え」が『前向きでない』にもかかわらず、選択肢では『前向き』であることを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での『前向き前提』が『後ろ向き前提』や『非前向き前提』にすり替わっている場合もある。

■また、これに類するものとして、『決意前提/非決意前提』に基づいた説明もあるので注意。

★(53)受け入れ前提/受け止め前提（受け入れてたっけ？/受け止めてたっけ？）

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）がそれを『受け入れていない（受け止めていない）』にもかかわらず、選択肢では『受け入れている（受け止めている）』ことを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での『受け入れ前提（受け止め前提）』が『非受け入れ前提（非受け止め前提）』にすり替わっている場合もある。

★(54)理解前提（理解してたっけ？）

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）がそれを『理解していない』にもかかわらず、選択肢では『理解している』ことを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での『理解前提』が『非理解前提』にすり替わっている場合もある。

★(55)認識前提（認識してたっけ？）

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）がそれを『認識していない』にもかかわらず、選択肢では『認識している』ことを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での『認識前提』が『非認識前提』にすり替わっている場合もある。

★(56)好意前提（好きになってたっけ？）

・登場人物（筆者・作者）が、異性の他者に対して『特に好意を抱(いだ)いているわけではない（非好意）』にもかかわらず、選択肢では『好意』を前提とした説明がされている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。また、少年、少女の恋心(こいごころ)を描(えが)いた作品や、男女間の心の機微(きび)を描いた作品にも是非触れておきたい。(41)「前提のすり替え」の一種。

※機微(きび)：表面上は分かりにくい、人の心の微妙な趣(おもむき)や事情。

■逆に本文での『好意前提』が『非好意前提』や『悪意前提』にすり替わっている場合もある。

■また、他者一般への『好意的感情前提⇔非好意的感情前提』、『尊敬前提⇔非尊敬前提』、『嫌悪(けんお)前提⇔非嫌悪前提』、『敵対前提⇔非敵対前提』等、さまざまなバリエーションも想定しておくとよい。

★(57)期待・願望・憧(あこが)れ前提（期待してたっけ？/望んでたっけ？/憧れてたっけ？）

・ある事柄(ことがら)について、登場人物（筆者・作者）が特に『期待していない（望んでいない/憧(あこが)れていない）』にもかかわらず、選択肢では『期待している（望んでいる/憧れている）』ことを前提として説明されている。選択肢における『表現の裏にある前提』を見抜こう。(41)「前提のすり替え」の一種。

■逆に本文での『期待・願望・憧れ前提』が『非期待前提（非願望前提/非憧れ前提）』にすり替わっている場合もある。

★(58)推定妥当(だとう)（確かにアリえ～る！）

・本文における主題や要旨(ようし)を前提として、物語文などでは「登場人物のその後の生き方」、説明的文章では「筆者の発展的な考え」等、推定しうる展開や事柄(ことがら)を「断定的に」説明してある。本文には直接書かれていなくとも、主題や要旨、展開等を踏まえると論理的には推断(すいだん)が可能であり、正答となる。(42)「暗黙の前提」の一種。

【偽装論理】

★(59)比較トラップ(別に比べてないし！/ヒカトラ)
・本文中で特に比較対象とはされていない「**ある内容《A》**」と「**ある内容《B》**」とを、**【AよりもBが～】**、**【Aに比べてBのほうは～】**のように**比較する形にして説明し、見せかけの説得力により誤答に誘導**する。本文に「**対照的な事柄**(ことがら)」が挙(あ)げられていても、それが即(すなわ)ち「**比較される内容**」であるとは限らない。また、**【Aと違ってBは～】**、**【Aと異なりBは～】**、**【Aとは対照的にBは～】**、**【A以上にBは～】**のように表現を変えて**比較に気づかれないよう調整**してあることが多いので注意。

★(60)価値トラップ(価値判断してないし！/カチトラ)
・本文においては、ある事柄(ことがら)について特に「良い・悪い」、「正しい・間違っている」等の「**価値(評価)**」を与えているわけではないのに、選択肢の説明においては、そこに**何らかの価値や評価を与え、見せかけの説得力により誤答に誘導**する。「**その評価や価値判断が本当に正しいのかどうか**」は本文と照合してみればすぐにわかることだが、記憶に頼って選択肢どうしの読み比べだけで判断しようとしても、その誤(あやま)りに気づくことが難しいので注意。

■価値語(評価語):「良い・悪い」、「正しい・間違っている」、「素晴らしい・最低だ」、「難しい・易しい」、「大切だ・重要でない」、「幸福だ・不幸だ」、「おいしい・まずい」、「安全だ・危険だ」、「満足だ・不満だ」、「十分だ・不足だ」のように、**物事について価値や評価を与える言葉**を「**価値語(評価語)**」という。本文、および、選択肢の説明における各所の**評価や価値判断**を正しく捉(とら)えながら読む訓練をしっかりと積んでおこう。

★(61)比較価値トラップ(比較と価値の合体版！)
・本文中で特に比較対象とはされていない「**ある内容《A》**」と「**ある内容《B》**」とを**比較**し、そのうえで、さらに**【Aに比べてBは良い(悪い)】**のように「**不必要な価値や評価**」まで与え、見せかけの説得力により誤答に誘導する。
(59)「比較トラップ」と(60)「価値トラップ」を複合した手法。

★(62)因果の逆転　※基本的な論理④『因果関係』(p.5) 参照！
・「**受験をする子どもが多いので、この地域は塾が多い(Aだから、Bである)**」を「**この地域は塾が多いので、受験をする子どもが多い(Bだから、Aである)**」のように、**因果関係を逆転させて説明**してある。「**要素の有無**(必要な要素を含むかどうか)」や「**要素の正否**(要素の内容が正しいかどうか」を判断基準とするだけでは「**因果の逆転**」に気づかない恐(おそ)れがあるので注意しよう。

◎「**ので・から・ため(に)**」等の「**原因・理由**」を示す語を使用すると「**因果の逆転**」に気づかれやすいため、「**～ことで**」や「**～ことにより**」、「**～によって**」などの表現に言い換えられていたり、因果関係そのものを捉(とら)えづらくするために巧妙(こうみょう)に表現が調整される場合も少なくない。

> ・**花子さん:アンタ、勉強しないから(原因)、成績が悪いのよ。(結果)**
> ・**愛子さん:違うわよ。成績が悪いから(原因)、勉強する気になれないのよ。(結果)**

・花子さんと愛子さんの主張は、互いに「**因果関係が逆転**」しています。文章を読む際だけでなく、文章を書く際や会話をする際においても、**正しい因果関係を強く意識**するよう心掛けよう。
※**因果関係**:原因と結果との関係。「**原因や理由**」が「**前提**」となって「**結論**」が導かれる。

★(63)因果要素の倒置　※基本的な論理④『因果関係』(p.5) 参照！
・「**風邪を引いたから、学校を休んだ(Aだから、Bだ)**」を、「**学校を休んだのは、風邪(かぜ)を引いたからだ(Bであるのは、Aだからだ)**」と**倒置しても因果関係は変わらず、意味は全く同じ**である。このように、本文中の「**AだからBである**」という語順を、選択肢において「**Bであるのは、Aだからだ**」と倒置して説明されると、因果関係そのものに気づかなかったり、因果関係の確認に手間取る恐れがあるので注意。**(2)「カモフラージュ」**の一種。

★(64)偽装因果(因果関係作ってみた！)　※(47)『因果トラップ』参照！
・本文中の、**もともと因果関係の存在しない**「**ある内容《A》**」と「**ある内容《B》**」とを、**【A～ので(理由・原因)＋Bである(結果)】**のように**機械的に連結し、因果関係を偽装(ぎそう)**する。「**見せかけの根拠**」や「**見せかけの説得力**」によって誘導されないよう注意しよう。**(45)「条件トラップ」**の一種。

【5人の宇宙人】

■問題
・パッブー(A)、ピコペポ(B)、プルッパ(C)、ヨーギェル(D)、テレロ(E)という名の5人の宇宙人が地球にやって来ました。以下の**情報③を最初の手がかりとして**、どの宇宙人が何をしているかを特定しましょう。
※**ヒント**:③の地球儀を踏(ふ)まえ、次に①、その次に②を検討(けんとう)してみるといいよ。

①Dは**地球儀**(ぎ)を眺(なが)めているか、**温泉**につかっている。
②A、B、Cの3人は**星**を眺めてはいない。
③AかEのどちらかが、**地球儀**を眺めている。
④B、C、Dのうち1人が、**宇宙船**の修理をしている。
⑤**居眠**(いねむ)**り**をしているのは、Cではない。

■答え
※説明を簡略化するため、宇宙人の行動をキーワードのみで略記(りゃっき)します。
(1)情報③により、地球儀がAかEであるのなら、①の**Dは地球儀ではない**。だから、「**Dは温泉**」である。
(2)「Dが温泉」であるのなら、情報②の「星を眺めているのがDかE」なのだから、「**Eが星**」である。
(3)「Eが星」であるのなら、情報③の「**Aは地球儀**」である。ここまでで「**Aが地球儀**」、「**Dが温泉**」、「**Eが星**」と確定する。
(4)情報⑤により、**Cは居眠りをしておらず**、また、確定した「A、D、E」も居眠りをしていないのだから、この「A、C、D、E」以外の「**Bが居眠り**」となる。
(5)以上により、最後に残った「**Cは宇宙船**」である。

■口頭でのアウトプットに挑戦！
・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予**(あらかじ)**めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨(のぞ)みなさい。

■記述問題
・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜(てきぎ)用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

【今週のジャイアン当番】

■問題

・今週のジャイアン当番は、**ルイ君**、**サラさん**、**メル君**、**ルルさん**、**レオ君**の5人です。以下の情報をもとに、月曜日から金曜日まで、誰がジャイアン当番なのかを特定してください。

①**ルイ君**は**レオ君**の数日前が当番です。
②**サラさん**の当番は**ルルさん**より後です。
③**メル君**の当番は**ルルさん**の2日前です。
④**レオ君**は木曜日が当番です。

■答え

(1)④の情報により、**レオ君**の当番は木曜日で確定している。
(2)①によれば、**ルイ君**の当番は**レオ君**の「数日前」なので、「一日前」の水曜日ではなく、月曜日か火曜日のいずれかである。
(3)もし**メル君**が水曜日だとしたら、③により**ルルさん**が2日後の金曜日となるが、それだと**サラさん**が土曜日以降となってしまい、「当番は金曜日まで」という条件に合わず、**矛盾**(むじゅん)**する**。だから、**メル君は水曜日ではない**。
(4)もし**メル君**が火曜日だとしたら、③により**ルルさん**が2日後の木曜日となってしまい、木曜日で確定しているレオ君と曜日が重なり、**矛盾する**。だから、**メル君は火曜日ではない**。
(5)もし**メル君**が月曜日だとしたら、③により**ルルさん**は2日後の水曜日となり、また、②により**サラさん**が金曜日であっても**矛盾しない**。
(6)さらに、もし**メル君**が月曜日だとしたら、火曜日が**ルイ君**であっても①と**矛盾しない**。
(7)以上により、月曜日は**メル君**、火曜日が**ルイ君**、水曜日が**ルルさん**、木曜日が**レオ君**、金曜日が**サラさん**であると結論される。

■口頭でのアウトプットに挑戦！

・上の解説内容をもとにして、今度は大人を聞き手として、あなた自身がこの問題の解き方を**口頭で説明**してみてください。ただし、あなたの考え方が聞き手に正確に理解されるよう、**説明する内容を予**(あらかじ)**めよく整理**したうえで、一つひとつ段階を踏(ふ)みながら**論理的に**、また、**伝わりやすさを工夫して**説明に臨(のぞ)みなさい。

■記述問題

・「**口頭でのアウトプット**」がうまくできたら、次にこの問題の解き方を自分なりに**記述して説明**してみよう。ただし、あなたの考え方が読み手に正確に理解されるよう、指示語や接続語を適宜(てきぎ)用いながら、**論理的で伝わりやすい文章**を工夫しなさい。

※基本的な論理⑥『背理法』(p.6) 参照！

★(65)同語反復(循環論法/おんなじこと言ってる！/オウム返し)　※(66)『前後同一』参照！

・「世界平和のためにはどのような社会にすべきだと筆者は考えていますか」という問いに対し、「戦争の起きない社会にすべきである」といった一見もっともらしい説明が書かれてある。しかし、これは、**「戦争が起きない社会を実現するためには、戦争が起きない社会を実現する必要がある」と言っているのと同じこと**なので、何も実質的な説明とはなっていない。**設問の内容がそのまま選択肢の説明において無意味に繰り返されていないかどうか**を確かめる視点を持とう。
※**同語反復**:「善人は善(よ)い人だ」、「雨が降る日は天気が悪い」、「馬から落馬した」のように同語や類義語を無意味に繰り返すことを「**同語反復**」(**同義反復・類語反復**)という。トートロジー。

■**循環論法**:「**彼は勤勉(きんべん)だ(結論)。なぜなら、彼は真面目(まじめ)だからだ(根拠)**」は、「**彼は真面目だ(結論)。なぜなら、彼は勤勉だからだ(根拠)**」と同じ意味であり、このように、「**結論と根拠とが単純に循環し、証明とならない**」論法を「**循環論法**」という。選択問題において、「**Aであるのはなぜか**」と問われているのに、「**それはAだからだ**」といかにも理由らしく説明されていないかどうかを確かめる視点を持とう。また、「**消しゴム貸して。だって、消しゴム貸してほしいから**」のように、日常においてもうっかりと循環論法によって言い訳をしたり反論したりすることがあるので注意しよう。※p.34を参照！
※本項とは別に、「**『選択肢の説明内』において『同語反復や循環論法』が用いられている場合**」については、(66)『**前後同一(ダブり/同語反復/循環論法)**』を参照のこと。

★(66)前後同一(ダブり/同語反復/循環論法)　※(65)『同語反復(循環論法)』参照！

・選択肢の説明において、「**AはAである(善人は善い人だ)**」のように、**前半の説明内容と後半の説明内容とが同一**となっている。**前後を同内容とした「同語反復」であることが露見**(ろけん)**しないよう、表現や言い回しを巧**(たく)**みに調整し、見せかけの説得力により誤答へと誘導**する。

■また、「**Aである。だから、Aである(彼は真面目だ。だから、彼は真面目だ)**」のように、「**同語反復**」であるとともに「**因果関係**」の形式をとる**「循環論法」が使われている場合もある**ので注意。
※**露見**(ろけん):秘密(ひみつ)や悪事など、隠(かく)していたことが表に現れること。
※**ダブり**:「重複(ちょうふく)」の意の俗語。「二倍・重複」等の意味を持つ英語の「double(ダブル)」に由来する。

■本項のように、「**同語反復や循環論法**」が**『選択肢の説明内』に用いられている場合**とは別に、**『設問文』と『選択肢の説明文』との間で「同語反復や循環論法」が用いられている場合**があり、これについては、(65)『**同語反復(循環論法)**』を参照のこと。

★(67)類比論法(その喩(たと)えは無関係！)　※基本的な論理⑩『類推(ルイスイ)(類比推論)』(p.37) 参照！

・筆者(作者・登場人物)の考えに沿(そ)うと見せかけた**「喩(たと)え」を引用し、それが根拠(前提)を補完する有効かつ正当な類例であるかのように偽装**(ぎそう)して説明する。「**説明内容に類似した喩え(類比)**」は、抽象的な事柄(ことがら)や難解な事柄(ことがら)を理解する一助になるうえ、その説明に説得力を与える効果を持つが、**元来説明そのものとは「別物」**であるため、**その「喩え」に本質的に異なる点(相違点)が無いかどうか、また、その「喩え」が説明における補完情報として正しく機能しているかどうか**をよく検討する必要がある。
※**「慣用句」や「ことわざ」が類比として引用される場合もある**。**そのことわざや慣用句の正しい意味や用法**を知ったうえでないと、それが**適切な「類比」**であるのか、あるいは単に**ダミーとしての「類比」**であるのかどうかの判断が困難になるので注意。語彙(ごい)力の強化にもしっかりと取り組んでおこう。

★(68)屁理屈(ああ言えば、こう言う/苦しい言い訳)

・**無関係な事柄**(ことがら)**を無理やり関連づけて主張される、まるで筋(すじ)の通らない理屈**(りくつ)。日常においては、自分の非を認めたくないときや言い逃(のが)れをするときに、咄嗟(とっさ)に屁理屈を言ってしまうことがあるかもしれない。自分でも面白い屁理屈の例文を考えてみよう。

・警官:**この牛泥棒(どろぼう)め、逮捕(たいほ)する！**
・犯人:**だ、だんな！　誤解ですぜ！　あっしはたまたま綱(つな)を拾(ひろ)っただけで、そしたら牛が繋(つな)がっていましてね、牛のやつが勝手について来ただけですってば！**

★(69)ゴール違い(結論間違えた！)

・論理的な筋道は正しいが、そこから導き出される結論が誤っていたり、ずれていたり、不完全だったり、あるいは、「可能性の一部」に過ぎない内容だったりする。普段から「自分の頭をよく使い、論理的に文章を読み、論理的に考え、検討し、適切な結論を導く訓練」を怠りなく。

★(70)コース違い(道筋間違えた！)

・選択肢の説明における結論自体は正しいが、そこに至るまでの論理的な筋道に誤りがある。結論の正しさに引きずられて慌てて判断してしまわぬよう注意。普段から「自分の頭をよく使い、論理的に文章を読み、論理的に考え、検討し、適切な結論を導く訓練」を怠りなく。

★(71)無関係(関連性無し/虚偽の関連付け)

・本文中における本来無関係な複数の事柄を無理やり関連づけて、それらしい説明に仕立ててある。本文を照合せず、記憶に頼って選択肢どうしの読み比べだけで判断しようとする受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。「見せかけの説得力」によって判断を誤らぬよう、「事柄どうしの関連性」についてよく吟味し、判断しよう。

★(72)飛躍偽装(これ正解かよ！)

・例えば、「日本人はあいまいな返事を好む」や、「日本人は自らの意思をごまかそうとする」のような、一見誇張し、もしくは歪曲された印象を与える表現や、論理的にも飛躍した印象を与える表現で説明されていても、筆者(作者・登場人物)の個性や考えに沿えば、それが不適切とは言い切れない場合がある。このように、表現や言い回しを巧妙に調整し、「正しい内容でありながら、不適切な印象を与える説明」、「論理的に飛躍した印象を与える説明」に偽装することで、解答者の誤認を図る。同時に、一般に多くの小学生(受験生)が消去するよう指導されている、「『言い過ぎ』の印象や『大げさ』な印象を与える表現」、あるいは、「極端な表現」等の誘導要素を敢えて含めてある場合も少なくないので注意。(2)「カモフラージュ」の一種。

★(73)意味不明(イミフ/ちょっと何言ってんのか分からない/ナゾ/支離滅裂/曖昧)

・何が言いたいのか、さっぱり意味がわからない。論理展開がデタラメだったり、意味内容が曖昧で捉えにくかったりする。ただし、正解でありながら言い換え等により正解と思えなくする(2)「カモフラージュ」や、(42)「暗黙の前提」等の手法が用いられた「正答肢である可能性」も排除してはならない。(1)「論外」の一種。

※曖昧：意味内容がしっかり捉えにくく、はっきりとしないこと。

【ダブルスタンダード(二重基準)】

・「同じことをして兄は怒られたのに、弟は何も咎められなかった」のように、同じ一つの事柄について、状況によって二つの異なる基準を使い分けること。

※二重基準(ダブルスタンダード)：基準となる事柄が二つあり、立場やそのときの状況によってそれぞれの基準を都合よく使い分けること。身近な例として、「報道倫理に基づき、公正、公平、中立に、事実を正確、かつ客観的に報道する」ことを理念として掲げながら、特定の思想や主義の上に立った偏向報道や歪曲報道、捏造や情報操作などによって世論誘導を図ったり、自らに都合の悪いことは一切報道しなかったりするなど、NHKを含め、状況によってその姿勢や見解を都合良く変える日本のマスメディア(マスコミ)が挙げられ、その醜悪さと低劣さには目に余るものがあり、辟易を禁じ得ない。与えられた情報を鵜呑みにせず、常に「前提」を疑い、考え、批判的、客観的に検討し、総合的に判断するようにしよう。

※マスメディア：テレビ・新聞・ラジオ・雑誌・インターネットなどの、マスコミ(大衆伝達・大量伝達)の手段となる、大量の情報伝達が可能な媒体(ばいたい)。また、マスメディアにより情報を発信する組織。

※マスコミ：マス・コミュニケーションの略。不特定多数の人々に対する各種情報の大量伝達。また、情報伝達の活動。

(7)事後情報効果

・ある出来事を経験した後に、実際の出来事には含まれていなかった情報を与えられると、その誤った情報に沿うように記憶が変容する現象。自分の理解した内容が、選択肢の説明内に含まれているさまざまな情報によってその都度揺れたりぶれたりしないよう、本文の正確な内容把握訓練を徹底しよう。論理的には「前提操作」として利用される。

(8)催眠誘導(トランス誘導/幽体離脱誘導)

・哲学的な内容の文章や、抽象表現の多用された難解な文章、間接描写が多く意味が捉えづらい作品、あるいは、筆者(作者)独自の世界観に基づく極めて個性的な内容の文章などが素材文として扱われると、本文の内容と選択肢の説明内容との煩雑な照合が思考に混乱をもたらし、解答者が文面を見つめるうちにゆるやかに催眠状態に陥って朦朧となってしまう。あるいは、トランス状態や幽体離脱に陥ると、浮遊感と快感を伴いながら、幸せそうな笑顔を浮かべつつ「ホゲー」となってしまう危険性もある。平常より難解な文章に対しても全力で食らいつき、頭脳をフル回転させて問題解決に取り組む訓練を積んでおきたい。

※催眠：眠気を催すこと。

※トランス：魂が抜けて、うっとりとした状態。

※幽体離脱：意識や霊魂が肉体から離れている状態。体外離脱。

※煩雑：込み入って煩わしいこと。

※朦朧：意識がおぼろげで、はっきりしないさま。

■難易にかかわらず、文章の文字を見た瞬間に気絶してしまう受験生は少なくない。集団指導などにおいても、国語の授業中に目を開けたまま気絶している者、瞑想修行中の者、目下幽体離脱中の者の姿もしばしば見受けられることだろう。中学受験を人生のステップとして自ら選択した以上、自分一人の力ではどうにもならないなどと諦めてしまわず、時に信頼できる先生や大人たちの力も借りながら、まずは自分にできることから始めよう。「未来の自分」の姿をはっきりと思い描き、それに強く、強く自分を引き付け、高めていく努力を日々積み重ねていってほしい。「自分の力で自分を育てる」姿勢、「自分の力で自分を作り上げてゆく」姿勢の大切さを忘れないこと。

(9)ゾンビ効果

・一度誤答であると確信を抱いて消去したにもかかわらず、その後も、「もしかしたら本当は正解なのではないか」、「手招きする方へ行けば自分は楽になれるのではないか」といった観念に度々襲われては、いよいよ増幅する恐れと不安の中で、やがてふいに正常な判断力を失い、気が付くとまんまと誤答へと引きずり込まれてしまっていたのかよ、このっ！ という、それはそれは恐ろしい現象。

※ゾンビ：邪悪な霊力などによって、生きた姿を与えられた死体。蘇生死体。

※取り憑く：霊などが乗り移る。

(10)サブリミナル効果(隠し誘導文)

・「こっちへおいでよ♡」、「正解はこれだよん♡」、「もうお前を離さないもんね＼(^o^)／」のような、受験生の潜在意識に強く働きかける文言をいくつかの要素に分解したうえで、それを選択肢の表現の中に巧妙に埋め込み、誤答へと暗示誘導する。咄嗟には認識不可能な潜在情報を説明内に密かに埋め込むことで受験生をまんまと誤答へと誘導する、それはそれは、マジで恐ろしい暗示手法。

※サブリミナル効果：映画やコマーシャル等において、例えば「コーラを飲もう」、「ポップコーンを食べよう」といったメッセージを表示した一コマをフィルムの中に何枚か挟み込んで映写すると、数千分の1秒という、視覚では通常認識できない極めて短い時間に繰り返して表示されるそのメッセージが、コーラやポップコーンの売り上げ増加に反映するとされる現象。ある知覚刺激が非常に短時間であるなどの理由で意識としては認識できないが、潜在意識に対して一定の影響を及ぼすことができるとされる。心理学や認知科学の分野での実証が困難とされているが、心理操作や暗示誘導、洗脳、マインドコントロール等に悪用される恐れがあるため、日本ではNHKや民放がこの手法を使用しての放送を禁じ、海外でも同様に禁止している国が多い。

※洗脳：暴力的な手段など強制力により、相手の思想や主義を根本的に変えさせること。

※マインドコントロール：暴力的な手段などを用いずに相手の心理状態を制御し、特定の意思決定や行動へと誘導すること。

【心理操作術】

(1)確証バイアス

・**自分が信じている考えや判断を裏付ける情報にばかり注目し、逆に不都合な情報については無視する心理傾向**。バイアスとは、偏見(へんけん:かたよった見方・考え方)のこと。選択問題においては、「**論理的飛躍**」や「**前提操作**」といった手法に利用される。**思考に方向性を定める**こと自体は大事であるが、**都合の良い情報にばかり目を向けて判断を誤(あやま)らせてしまう**ことのないよう注意しよう。

(2)初頭効果

・選択肢の説明において、**後半部に誤(あやま)った内容を述べながら、前半部に正しい内容を述べることで目立たせ、正解としての印象を強く与えて誤答に誘導する**。「**人間は最初に与えられた情報ほど信じやすい傾向をもつ**」という、心理学でいう「**初頭効果**」を作為(さくい)的に利用する。時間節約のため、選択肢の説明を最後まできちんと読まず、専(もっぱ)ら前半部に書かれた内容によって正否(せいひ)を判断する傾向の強い解答者を誤答に誘導しやすい。

※**初頭効果**:最初に提示された特性が印象に残り、その後の評価に影響を及(およ)ぼす心理的作用。逆は「**新近効果**(心理学用語としては、表記は「**親近**」ではなく「**新近**」が正しい)」。

(3)新近効果

・選択肢の説明において、**前半部に誤(あやま)った内容を述べながら、後半部に正しい内容をべることで目立たせ、正解としての印象を強く与えて誤答に誘導する**。「**人間は最後に与えられた情報ほど信じやすい傾向をもつ**」という、心理学でいう「**新近効果**」を作為(さくい)的に利用する。小手先テクニックとして、選択肢の「説明における後半部に書かれた内容のみによって正否(せいひ)を判断する」よう指導されている解答者などを誤答に誘導しやすい。

※**新近効果**:最後に与えられた情報や、直前に与えられた情報が特に印象に残り、その後の評価に影響を及ぼす心理的作用。尚(なお)、心理学用語としては、表記は「**親近**」ではなく「**新近**」が正しい。逆は「**初頭効果**」。

(4)アンカリング効果(初期値提示誘導)

・例えば、「**ピザ**」という語を相手に10回繰(く)り返させた後、「**肘**(ひじ)」を指差して「**これは何か**」と問うと、相手がつい「**ヒザ**」と答えてしまう現象を経験することがある。あるいは、ある商品の値札に書かれてある「**元の値段**」が二重線で消され、併(あわ)せて「**割引価格**」や「**値下げ価格**」が書かれてあると、それを見て「**この商品は得だ**」という印象を抱(いだ)いてしまうこともある。このように、**「最初に提示された情報」が「アンカー=基準(初期値)」となって、その後の判断に影響が及ぶ心理現象**を「**アンカリング効果**」という。論理的には「**前提操作**」の一種。

※**アンカー**:船の錨(いかり)のこと。最初に与えられた情報が「アンカー」となって心にとどまり、その後の思考や判断がその「アンカー」に引っ張られてしまう心理現象を「**アンカリング効果**」という。

※本資料の47ページに『**消えた1,000円の謎**』という論理パズルを掲載(けいさい)しています。「**アンカリング効果**」による心理操作と「**前提操作**」を念頭に、是非問題解決に挑(いど)んでみてください。

(5)誤前提暗示(二分法の罠)

・「サイドメニューはポテトになさいますか、それとも、サラダになさいますか。」のように、**「いずれか一方を必ず選択する」ことを「前提」として二者択一(たくいつ)を提示して誘導する暗示手法(二分法の罠(わな))**。もっともらしい選択肢が与えられると、限定されたその選択肢の中から判断をしがちであるという人間の心理傾向を作為(さくい)的に利用する。選択問題においては、説明文中に「**否定できない二つの要素を選択的に並列**」することで暗示をかけ、誤答へと誘導する。論理的には「**前提操作**」の一種。

※日本のマスコミ(マスメディア)による世論調査やアンケート等においても、(4)「**アンカリング効果**」、(5)「**誤前提暗示**」などの暗示手法や、(41)「**前提のすり替え**」、(45)「**条件トラップ**」などの「**論理操作(前提操作)**」によって質問項目の表現や文脈を巧妙(こうみょう)に調整し、**回答者の心理と判断を意図的に一定の方向へ誘導**しようと図るケースがしばしば見受けられる。

(6)イエス誘導法

・選択肢の説明文に、解答者が「**YES(イエス=その通りだ)**」と肯定(こうてい)せざるをえない語句や表現を複数仕込み、「**肯定の認知を連続させる**」ことで誤答に誘導する。「**同意の積み重ね**」により自然と反論意識が弱まっていく人間の心理傾向を作為(さくい)的に利用する。選択問題では、「**本文中の語句が沢山含まれているから正解だ**」、「**肯定要素が複数あるから正解だ**」といった、**頭を使わない安直な機械的判断をしない**よう注意しよう。論理的には「**前提操作**」の一種。

【すり替え一般】

★(74)主語のすり替え(えっ、マジか!)

・選択肢の説明における**主語(主部)が別のものにすり替わっている**。普段、「**主語と述語の係り受け**」をほとんど意識せずに文章を読んだり書いたりしている受験生が相当に存在することを作問者は心得ている。「**主語と述語の係**(かか)**り受け**」、「**語句と語句との係り受け**」を意識し、「**文脈**」を正しく把握しながら**読み、書き、話す習慣**を持とう。

※**主語**:「**何が**」「**誰が**」に当たる言葉。「は・も・の・こそ・だって・さえ・まで」などの助詞も「**が**」に替(か)えて用いられるので注意。(空**は/も/だって/さえ/まで**泣いている=空**が**泣いている…泣いているのが空だという点で意味は一致する)

★(75)心情違(ちが)い(気持ちが違う)

・**人物の心情に合致(がっち)しない心情表現にすり替えてある**。「**不思議に思っている**」、「**予想外に思っている**」、「**驚**(おどろ)**いている**」、「**願っている**」、「**興味を引かれている**」等の表現によって人物の「**共感度や受け止め具合**」を**低めたり、ぼかしたり**、あるいは逆に、「**絶望している**」、「**決意している**」等の表現によって「**共感度や受け止め具合**」を**高めたり**して**巧妙に調整してある**。普段の生活においても、「**なんとなくそのような気持ち**」といった感覚で済ますのではなく、「**対象への共感や理解**」を深め、それを「**ふさわしい言葉で表現する**」心掛けを持つことが大切だ。

★(76)理由違(ちが)い(理由のすり替え)

・**説明における『理由(根拠)』が、本文における本来の「理由(根拠)」とは異(こと)なったものにすり替えてある**。この『**理由を示す部分**』の説明は、**本文中からの引用**である場合や、**変造**や**捏造**(ねつぞう)による場合もある。また、「**~から(ので・ため)**」のような表現を用いるとそこが『**理由を示す部分**』であることに気づかれやすいため、「**~ことで(によって)/~わけで/~せいで(おかげで)**」のように言い換えられることが多い。

※**変造**:既存(きそん)のものを加工して、形状や内容を不正なものに作り変えること。

★(77)きっかけ違(ちが)い

・**本文中に書かれた「きっかけ」とは異なった不正確な「きっかけ」にすり替えて説明**してある。「**確か本文にはそのように書いてあったはずだから**」と、「**不確かな記憶や思いこみによって判断**」したり、本文との照合なく「**選択肢の読み比べだけで判断**」したりせぬよう注意しよう。

★(78)いきさつ違(ちが)い(経緯(けいい)違い)

・**本文中に描(えが)かれた「経緯(成り行き)」とは異(こと)なった不正確な「経緯」にすり替えて説明**してある。「**確か本文にはそのように書いてあったはずだから**」と、「**不確かな記憶や思いこみによって判断**」したり、本文との照合なく「**選択肢の読み比べだけで判断**」したりせぬよう注意しよう。

※**経緯**(けいい):ことの成り行きや、それに伴(ともな)う様々な事情。

★(79)目的違(ちが)い(目的のすり替え)

・**説明における『目的』が、本文における本来の「目的」とは異(こと)なったものにすり替えてある**。この『**目的を示す部分**』の説明は、**本文中からの引用**である場合や、**変造**や**捏造**(ねつぞう)による場合もある。また、「**~ために**」のような表現を用いるとそこが『**目的を示す部分**』であることに気づかれやすいため、「**~に向けて**」、「**~をしに**」、「**~となるように**」のように言い換えられることが多い。

★(80)対象違(ちが)い(対象のすり替え)

・**ある事柄(ことがら)についての「対象」が、別の事柄や人物にすり替わっている**。記憶に頼(たよ)って判断しようとせず、本文との照合作業によって、「**何に対して**」、あるいは「**誰**(だれ)**に対して**」なのか、**対象**となるその内容を正確に捉(とら)えるようにしよう。

★(81)あらすじトラップ

・本文における「**ある部分の粗筋(あらすじ)や要約文が書かれてあるだけ**」で、実は設問の要求には何も応えていない。**粗筋や要約文としては正しい内容**であっても、「**設問の要求**」を正しく捉(とら)えずに「**選択肢の読み比べだけで判断**」したり、「**不確かな記憶や思いこみによって判断**」したりせぬよう注意。

★(82)語のすり替え(語意のすり替え)

・日常においては、例えば「**共感**」、「**同情**」、「**理解**」は感覚的に似た意味の語として捉(とら)えられることがあるが、そのような一般的傾向を利用し、**本文の内容に合致(がっち)しない意味の語にすり替えてある**。

※**共感**:他人(相手)が抱(いだ)いている考えや感情について、**自分もその通りだと感じること**。
※**同情**:他人(相手)の苦悩や不幸を**気の毒に思い**、自分のことのように**思いやっていたわる**こと。
※**理解**:他人(相手)の気持ちや立場を**正しくわかること**。
※他に、「**反省⇔後悔**」、「**中立⇔無関心**」、「**否定⇔反対**」、「**不満⇔不信**」、「**嫌(いや)だ⇔嫌(きら)いだ**」、「**申し訳なさ⇔罪悪感/後ろめたさ**」、「**残念だ⇔気の毒だ**」、「**避(さ)ける⇔無視する**」、「**真面目⇔素直/正直**」、「**中途半端(はんぱ)⇔いい加減**」、「**意外だ⇔不思議だ**」、「**受け止める⇔受け入れる**」、「**目立たない⇔地味だ**」、「**疑(うたが)う⇔信じられない**」、「**希望を持てない⇔絶望**」、「**信頼が揺(ゆ)らぐ⇔信頼を損(そこ)ねる**」、「**認識**(知ること)**⇔理解**(分かること)」、「**利用⇔応用**」、「**負(お)い目⇔引け目**」などはそれぞれ同義ではない。

■日常においては、それぞれの語を意味や用法を厳密に区別せず感覚的に用(もち)いて済(す)ませてしまうことがある。国語学習においては、言葉の辞書的な意味や用法を適宜(てきぎ)国語辞典を用いて確認するなど、**言葉に関わる取り組みや言語生活への姿勢**をより強く意識することが大切だ。
■**国語辞典**を使用して言葉の意味を調べる際には、意味が分からない言葉があったら何も考えずに即座(そくざ)に辞書を引くのではなく、まずは文脈や言い回し、その言葉に含まれている漢字等を手掛かりに、知識や語感、また、それまでの生活体験等にも照らし、**自分なりに意味を推定し、そのうえで本来の正しい意味や用法を確認する**という手順を踏(ふ)むほうがよい。そして、何より、その言葉を単に知識事項や暗記項目の一つとして済ますのではなく、**今後自分が生きていくうえで使いこなしていく言葉の一つ**として、あるいは、**これからの「自分」というものを作り上げてくれる大切な素養の一つ**として捉(とら)え、**積極的に自分の中に取り込み、生活の中で活用していく姿勢で学ぶ**ことが大切だ。

★(83)換言(かんげん)トラップ

・選択肢の説明において本文中のある内容や表現が**言い換(か)えられている場合に、本来の意味内容を変えてあったり、微妙にずらしてあったりする**。「**抽象化**」や「**一般化**」により「**言い換え**」がなされている場合、それが**本文の意味内容と合致(がっち)する適切な表現であるかどうか**をよく検討しよう。
※**換言**(かんげん):言い換(か)えること。

★(84)ぼかし語トラップ(概念(がいねん)語によるはぐらかし)

・「**不思議な**出来事」、「**奇跡的な**経験」、「**未知の**世界」、「**正反対の**考え」、「**本質的な**価値」、「**本物の**関係」、「**実質的な**効果」、「**次元の異なる**発想」のように、本文中のある内容が「**概念語(抽象語)**」によって言い換(か)えられている場合に、**その「概念語」が本文の内容に即(そく)した適切な意味や用法としてではなく、単に「意味のぼかし/説明のはぐらかし」**として利用されている。「**概念語**」を感覚的に「**何となくそんな意味**」で捉(とら)えていると、**印象操作による誘導**にかかる恐れがある。
※**概念**(がいねん):物事の本質や性質について、抽象的、普遍(ふへん)的に捉(とら)えた意味内容。

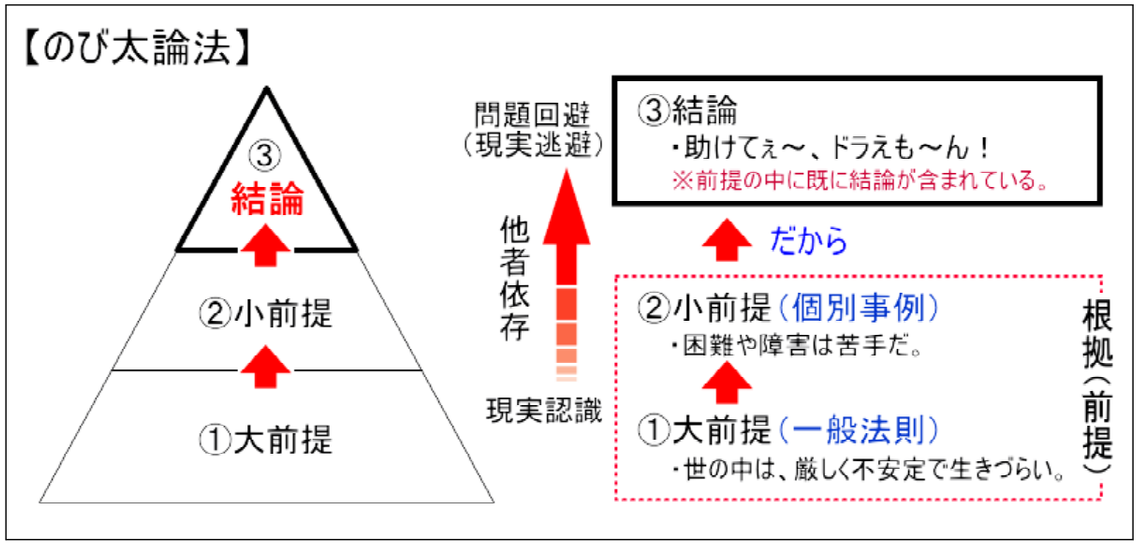
■概念(がいねん)語

・物事の本質や性質について、その内容を抽象化して表す語。
・**例**:友情・信頼・共感・理解・同情・喜び・悲しみ・安心・不安・好意・愛情・決意・親切・希望・失望・絶望・疑問・正義・対比・比較・対立・矛盾(むじゅん)・客観・主観・絶対・相対・文化・習慣・自然・個人・社会・人生・教育・情報・技術・現在・過去・未来・時間・空間・理想・現実・直接・間接・平和・自由・思考・認識・判断・論理・価値・評価・可能性・表面的・合理的・多様性・因果関係、民主主義、情報社会、など。
※自身の「**言葉の引き出し**」にしまい込まれている様々な言葉を適宜(てきぎ)引き出して自在に使いこなせるよう、普段から**記述や口述によって意識的にアウトプットする**訓練を継続することが大切だ。

★(85)迂言(うげん)法

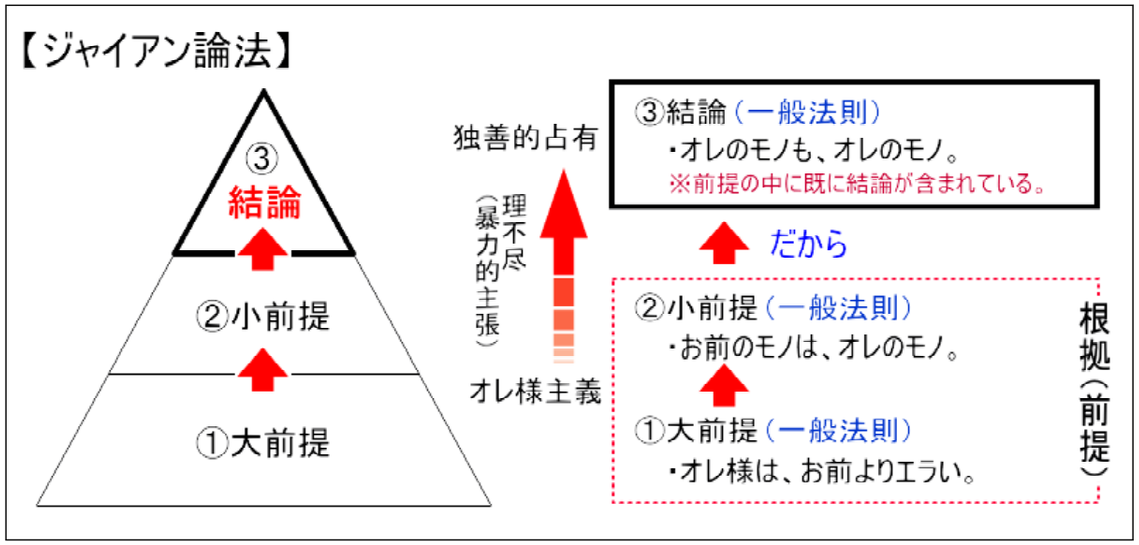
・例えば、「**親友**」のような「**直接表現**」を用いるのではなく、「**①仲がよく＋②信頼し合える友達**」のように「**複数の語を組み合わせて同意となるよう言い換(か)えて正答肢に用い**、逆に**誤答肢のほうに「直接表現」を用いて目立たせ、誘導を図る**。「**言い換え**」に気づいたら、それが文脈上正しい内容の適切な表現であるかどうかをよく確かめよう。(2)「**カモフラージュ**」の一種。
※**他の例**:**幸福**(＝恵まれた状態に満ち足りた心持ち)、**勇気**(＝恐れずに立ち向かおうとする思い)
※**迂言**(うげん)**法**:あることを、単一の語句で直接言い表さず、複数の語句を用いて同意となるよう間接的に表現する方法。

■のび太論法



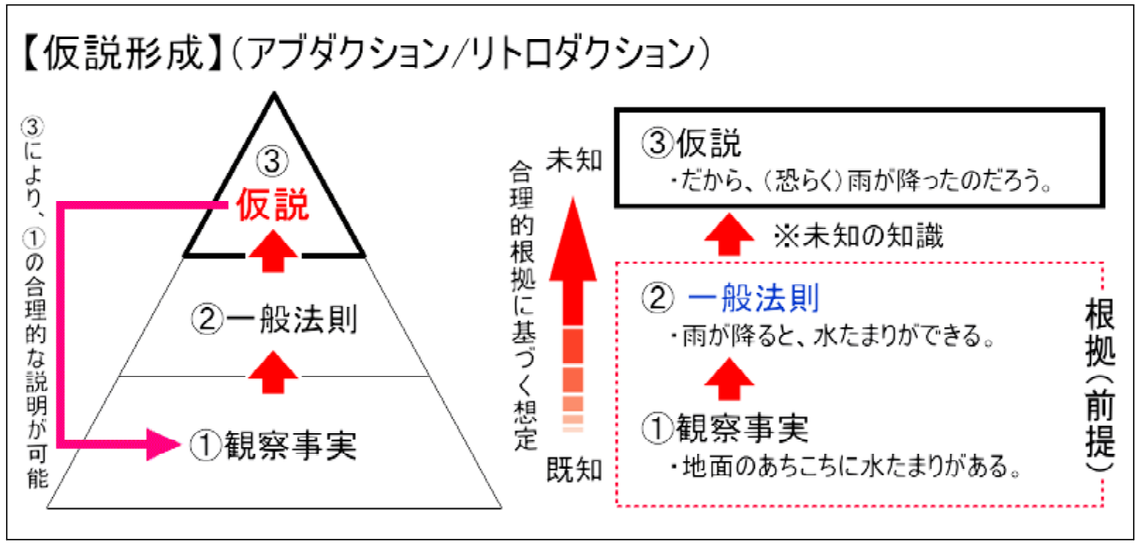
◎ドラえもんがいつものび太を助けることについて、①**賛成**と、②**反対**双方(そうほう)の立場から、根拠(こんきょ)を示したり、具体例を挙(あ)げたりしながら、それぞれについてあなたの意見を自由に述べてください。

■ジャイアン論法



◎ジャイアンが「ジャイアンリサイタル」を開催(かいさい)すると、聴衆(ちょうしゅう)が体調を崩(くず)したり、飛んでいる鳥が気絶して落下したり、近くの家の窓が割れたりと、大惨事(だいさんじ)になります。その**解決策**を自由に考えて説明してみましょう。

■基本的な論理⑪ 仮説形成（アブダクション/リトロダクション）



◎仮説形成
・ある「**観察事実**」をもとに、その原因を探るため、「**一般的法則や知識・情報等**」を照らし合わせ、それを「**前提**」として「**合理的な説明を想定**」する推論法を「**仮説形成**」（アブダクション/リトロダクション）といいます。

【仮説形成の例①】
・前提①：地面のあちこちに水たまりがある。　【観察事実】
・前提②：雨が降ると、水たまりができる。　【一般法則】
・結論：だから、（恐らく）雨が降ったのだろう。　【仮説】

・「**仮説形成**」は、「**既知の知識**」**をもとにして**「**未知の知識**」**を新たに得るための強力な思考法**の一つです。ただし、想定した仮説が必ずしも正しいとは限らないため、「**仮説の正しさ**」を証明するために「**検証**」を行う必要があります。

【仮説形成の例②】
・前提①：太郎を見つめる花子の目が　になっている。　【観察事実】
・前提②：人が異性を好きになると、目が　になる。　【一般法則】
・結論：だから、花子は太郎に恋しているぞっ！（≧ω≦）　【仮説】
※身近なものごとに目を向けて、このような例文を自分でも考えてみましょう。

【誤った仮説形成の例】
①「太郎君が珍（めずら）しく学校を休んだ。（**観察事実**）」→ ②「宇宙人にさらわれると、学校に来ることができない。（**一般法則**）」→ ③「だから、太郎君は宇宙人にさらわれたに違（ちが）いない！（**仮説**）」
※証明困難な「**前提（②）**」を都合よく持ち出して推論したために、「**論理的に飛躍した（誤（あやま）った）仮説**」が導出されました。このような例文を自分でも考えてみましょう。

◎物理学者の**ニュートン**は、「**リンゴが木から落ちる**」という「**観察事実**」をもとに、**一般法則**に照らすのみならず、その「**創造的な想像力**」によって思索（しさく）をめぐらし、ついに「**引力**」**という未知の作用を**「**創案＝仮説形成**」しました。創案（そうあん）とは、今まで誰も考えつかなかったことを最初に考え出すことです。また、理論物理学者の**アインシュタイン**も、「科学的仮説や理論というものは、**観察された事実を説明するために『発明されるもの』**である」と述べ、**一般法則に縛（しば）られず、「創造的な想像力」を発揮して合理的な「仮説」を創案する**ことの重要性を指摘しています。**仮説形成**は、科学においてだけでなく、日常生活においてもまた、さまざまな物事に対処したり、新しい考えを創案したりするうえで重要な役割を果たす**強力な思考法**の一つなのです。
※**思索**（しさく）：物事の道理をたどり、秩序立てて深く考えを進めること。

★（86）一般論（普通はそうだろ/一般論はさておき）
・**本文の内容に沿（そ）わない、無関係な一般論**が書かれてある。説明内容自体は「**一般論として正しい**」ために否定（ひてい）できないので、本文の内容をよく把握（はあく）をせずにいると誘導に陥（おちい）る恐れがある。「**一般論としてはそのとおりだが、筆者の主張、本文の内容とは無関係である**」と見抜けるようになろう。（3）「**ホイホイトラップ**」、（41）「**前提のすり替え**」の一種。
※**一般論**：世間一般に広く認められると考えられる論。個々の具体的な事柄（ことがら）を考えず、広く全体を論じる議論。「自然保護は大切だ」、「適度な運動は健康によい」、「勉強すれば将来の役に立つ」など。

★（87）常識・道徳論（文句言うな逆らうな）
・「**常識**」や「**道徳**」**としての説明**となっている。常識として、あるいは道徳的に正しい事柄（ことがら）に対しては**否定（ひてい）しづらく**、逆にそれにふさわしくない事柄に対しては**肯定（こうてい）しづらい一般心理**を作為（さくい）的に利用する。「**常識的、道徳的にはそのとおりだが、本文の内容とは合致（がっち）しない**」と見抜けるようになろう。（3）「**ホイホイトラップ**」の一種。
※**常識**：健全な一般の社会人が共通に認めている、普通の知識や思慮分別（しりょふんべつ）。社会通念。
※**道徳**：社会生活を送るうえで、個人が守るべき規範（きはん）。人が踏（ふ）み行うべき正しい道。尚（なお）、**倫理（りんり）**と道徳とは同義であり、根本的な相違はないが、現代の日本では、道徳の場合、「『**徳**』という意味合いを強く含意（がんい）し、自発的に正しい行為へと促（うなが）す個人の内面的原理として働く」というニュアンスを含む。

★（88）比喩（ひゆ）説明不適　※実在トラップ
・本文中の指定部分における**比喩表現についての解釈（かいしゃく）が本文の内容に即（そく）しておらず**、「**単にその比喩表現が与える一般的なイメージの説明**」、「**主観的な印象の説明**」、「**単に辞書的な意味の説明**」となっている。また、「**単に別の比喩への言い換え**」をして誘導を図る場合もあるので注意。比喩表現をいくつかの部分に「**視点分割（要素分け）**」し、それぞれの意味やニュアンス、文脈などを勘案（かんあん）しつつ、「本文の内容や主題等に即した具体的、かつ適切な解釈」となっているかどうかを慎重に検討しよう。

■『**実在トラップ**』…　例えば、「**闇（やみ）**」という語が本文では「**真実を秘（ひ）めるもの**」のように**象徴（しょうちょう）的な意味合い**を与えられているとして、それが選択肢においては「**暗くて見えない部分**」のように表現をぼかしながら、単に「**実在・物理的存在**」として、あるいは、単に「**辞書的な意味**」にすり替えて説明されている。

★（89）暗示・象徴（しょうちょう）トラップ　※『象徴・暗示』（p.14）参照！
・**単なる光景等の描写（びょうしゃ）について、無理やり主題や心情を投影（とうえい）させた「暗示」、もしくは「象徴的な意味」を与えた説明**となっている。「**暗示**」や「**象徴**」を捉（とら）える視点は必須（ひっす）であるが、単なる光景や事物（じぶつ）の描写にまで**無理やり意味付け**をしてしまわぬよう注意。
※**暗示**：その後に起こる「**事件**」や「**展開**」を情景描写や種々（しゅじゅ）の事象（じしょう）によって予（あらかじ）め読者にそれとなくほのめかしておく手法。**伏線**（ふくせん）。 ※p.14参照
※**象徴**：本文の内容において、一見さほど重要でなく思われる部分的な描写（びょうしゃ）であるが、実はその作品の「**主題**」や「**人物の心情**」等と深く関連づく、作品上重要な意味や役割を与えられたものごと。 ※p.14参照

★（90）可能性トラップ
・ある事柄について、**本文では「▲の可能性が『ある』」と述べられているのに対し、選択肢の説明においては「▲の可能性が『高い』」といった内容にすり替え**てある。「**可能性の有無**」と「**可能性の程度（高さ・低さ）**」とは別問題であるため、「**可能性**」という言葉につい引っ張られて判断を誤（あやま）らないよう注意しよう。（41）「**前提のすり替え**」、（14）「**論点違い**」の一種。

★（91）主題違（ちが）い（要旨（ようし）違い/主題トラップ）
・「**主題（要旨）を捉（とら）える問題**」**において、「本文全体に底流する『本来の主題や要旨（ようし）』とは無関係な説明**」となっている。また、「**主題（要旨）の意味内容を微妙（びみょう）にずらしてある**」場合や、「**主題（要旨）そのものではなく、それに深く関連する副次的な事柄（ことがら）についての説明**」にすり替えられている場合もある。（41）「**前提のすり替え**」、（42）「**暗黙の前提**」の一種。
※「**主題（要旨）を捉（とら）える問題**」は一般に**最終問題（付近）**に設けられるが、それ以前の「**経過問題**」においても「**本来の主題（要旨）**」を前提としていないと判別が困難な場合があるので注意。
※**主題**：主に文学的作品等において、**作者**がその作品全体を通して最も強く訴（うった）えたい事柄。
※**要旨**（ようし）：主に論理的な文章において、**筆者**がその文章全体を通して最も強く訴えたい事柄。
※**副次（ふくじ）的**：主要なものに対して、従属した関係にあるさま。二次的。

★(92)趣旨違い(脱線/意味違い/意味ズレ)

・「仲直りして、握手(あくしゅ)した(事柄の前後関係を示す文脈)」と、「握手して、仲直りした(並行的状況を示す文脈)」とでは意味が異なるように、説明の趣旨や文脈が正確でなかったり、異なっていたりする。「記憶に頼(たよ)って選択肢の読み比べだけで判断」しようとしても、あるいは、「要素の有無」や「要素の正否」だけを基準に判断しようとしても、趣旨や文脈を巧妙(こうみょう)に調整してあるため、一見しただけでこれに気づくことは難しい。普段から速く、正確に文脈を辿(たど)り、文意を掴(つか)む訓練を積み、また、文章を書くときや話をするときにも、正しい文意・文脈を強く意識するようにしよう。

※趣旨(しゅし):言おうとしている中心的な内容。趣意。主旨。

※文脈:「文章中の文と文」や、「文中の語と語」の論理的なつながり具合。

★(93)非主要(後回しでよくね?)

・「設問における論点」とは異なる、「主要(中心)とは言えない論点」について説明されている。「設問における論点」から外(はず)れ切っているわけではなく、あるいは、『主要な論点に深く関連する内容』であることが多いため、判断に迷う恐れがある。「設問における論点」については、感覚的に「何となく」ではなく、「本旨(ほんし)」をしっかりと捉(とら)え、そのうえで「正しく方向づけて思考する」ことが大事だ。(14)「論点違い」の一種。

※本旨(ほんし):本来の趣旨(しゅし)。趣旨とは、言おうとしている中心的な内容のこと。

★(94)主観(どっかの誰かさんの考え)

・本文の内容に沿(そ)った客観的な内容とは異なる、無関係な主観的内容の説明であったり、主観的な「偽要素」が組み込まれていたりする。客観的な視点や客観的な把握(はあく)力が未発達な小学生を誘導しやすい。相対的視点をもって「自分の見方」と「他者の見方」とを区別し、「この説明は不特定他者の主観であって、筆者(作者・登場人物)自身の考えとは無関係である」と見抜けるようになろう。(3)「ホイホイトラップ」の一種。

※主観:自分(その人)だけの考え。

※客観:自分の考えから離れて、他者の立場から考えること。

★(95)それってあなたの感想ですよね!

・本文における「ある箇(か)所の意味内容を問う問題」等において、「本文の内容を踏まえた適切な解釈」ではなく、「単にその表現や内容から抱(いだ)きそうな主観的な感想や印象を述べ連(つら)ねてあるだけ」となっている。そもそも、求められているのは「感想や印象の説明」などではないはずなのに、「自分の抱(いだ)いた感想(印象)と同じことが書いてあるから正解だ!」と見当外(はず)れの判断をしてしまわぬこと。普段における本文の読解訓練を基本として、「設問の要求」を正しく把握(はあく)し、かつ、「設問文そのものの読解」もしっかりとできるよう訓練しておこう。(14)「論点違い」の一種。

★(96)成り済まし(偽装理由)

・「なぜですか」という「理由説明を求める問題」でありながら、「問われている箇所の意味内容を説明してあるだけ」となっており、実は設問の要求である「理由」については何も説明されていない。設問の要求をよく確認もせずに取り掛(か)かると、「それはどういうことですか」といった「内容説明を求める問題」と勘違(かんちが)いしてしまいやすい。また、「問われている箇所の表現を別表現に書き改めてあるだけ」の場合もあるので注意。本文の読解訓練だけでなく、「設問で何が要求されているか」や、「設問文そのものの読解」もしっかりとできるよう訓練しておこう。(3)「ホイホイトラップ」の一種。

★(97)別の事柄の説明(別件の説明/不正流用)

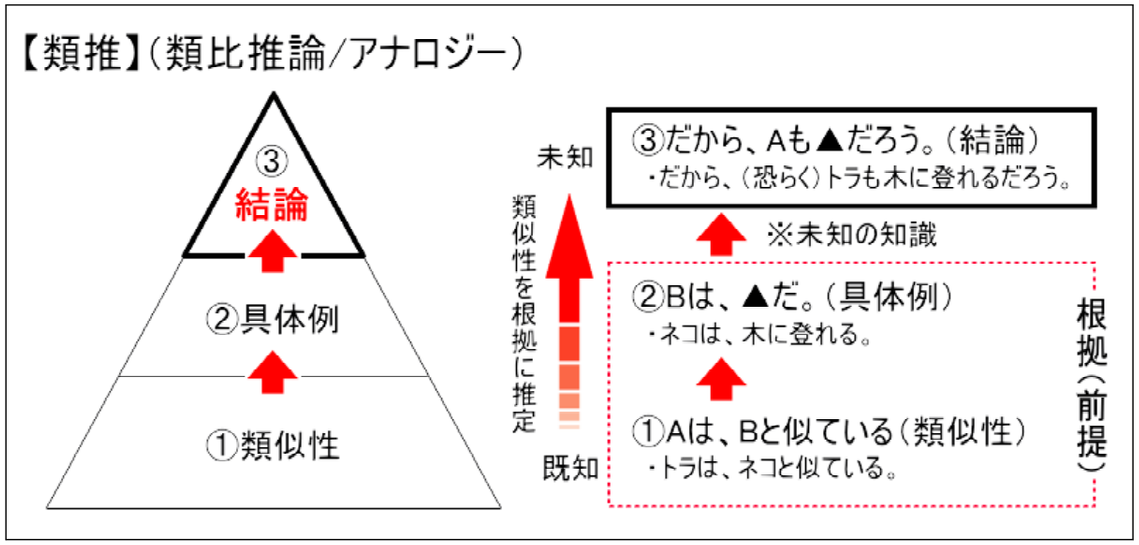
・設問の要求する事柄(ことがら)についての正当な説明そのものではなく、本文中の無関係な別件(別の事柄)についての説明にすり替わっている。「確か本文にはそのように書いてあったはずだから」と、不確かな記憶や思いこみによって判断してしまわないよう注意。また、「本文を照合せず、記憶に頼って選択肢の読み比べだけで判断」するのも危険だ。(14)「論点違い」の一種。

※流用:本来の使途(しと)を外れて別の使途に用いること。

★(98)余計(邪魔/異物混入/蛇足/お邪魔虫)

・説明を成立させるための要素は全て揃(そろ)っているが、実は密(ひそ)かに「偽(にせ)要素」も組み込まれている。「偽要素の組み込み」に気づかれないよう、表現や内容を微妙(びみょう)に調整してあることが多く、「正しい要素が全て含まれていれば正解」といった機械的な判断法では見抜けない恐れがある。

■基本的な論理⑩ 類推(類比推論)



・「類推(類比推論)」とは、ある事柄について、「Aは、Bと似ている」と「類似性」を認め、次に「Bが▲(という性質)なら」、「(恐らく)Aも▲(という性質)だろう」と推理する方法です。

【類推の形式】
①Aは、Bと似ている。 【類似性の確認】
・花子さん:トラは、ネコに似ているところがあるね。
②Bは、▲だ。(Bは、▲という性質を持つ。) 【具体例の提示】
・愛子さん:ネコは、木に登れるわ。
③だから、(恐らく)Aも▲だろう。(Aも▲の性質を持つだろう。) 【類推結論】
・花子さん:それなら、きっとトラだって木に登れるはずよ!

・花子さんが①「トラは、ネコに似ている」と類似性を指摘したので、愛子さんは身近な存在であるネコの性質について考えてみたところ、②「ネコが木に登っている」姿を思い浮かべました。そこで、花子さんは、そうした情報を根拠(前提)として、③「トラがネコと類似した性質を持っているなら、きっとトラも木に登れるだろう」と類推したのです。ちなみに、トラやライオン、チーター、ヒョウ、ジャガー等のネコ科の動物は木に登ることができます。

◎「類推(類比推論)」は、「類比」、「アナロジー」とも呼ばれ、「既知の知識」をもとにして「未知の知識」を新たに得るための強力な思考法の一つです。日常においても私たちは、ものごとについて推測したり、仮説を立てたりする際に、無意識的にこの「類推(類比推論)」という思考法を活用しています。

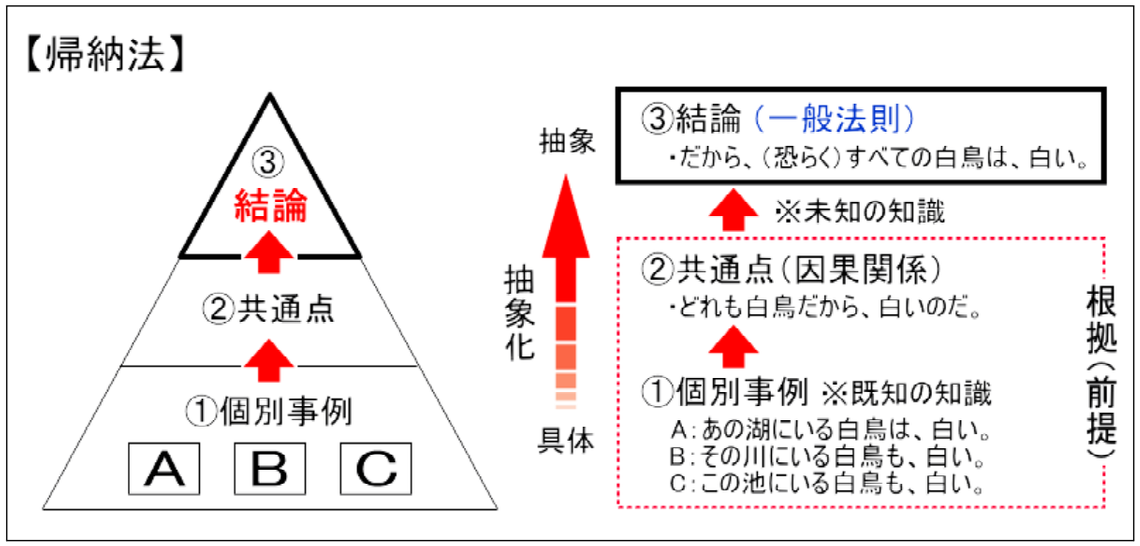
◎類比論法

・類似性のある例を挙げて、自分の主張に説得力を持たせる論法です。

・お母さん:[A]勉強はね、[B]スポーツと同じなの! 【類似性の確認】
・翔平君:[B]スポーツは、[▲]目標に向けて毎日練習することが大事だね。 【具体例の提示】
・お母さん:だから、[A]勉強も、[▲]合格を目標に毎日努力することが大事よ! 【類比結論】

◎選択問題においては、「ことわざや慣用句」等も「類比論法」に利用される場合がある。厳密な読解と検討によって、それが「適切な類比」として機能しているのかどうか、あるいは、単にダミーとして見せかけの説得力のためだけの類比となっていないかどうかを見極められるようになろう。

■基本的な論理⑫ 帰納法



■演繹法と帰納法

・『四谷大塚 第二回 合不合判定テスト（令和二年/2020年7月実施）』、大設問2番にて「**演繹法**と**帰納法**について説明された内容を含む素材文が扱（あつか）われ、その関連問題（100字記述）が出題されました（出典：『日本史でたどるニッポン』本郷和人著）。

◎演繹法

・「**一般法則**」をもとにして「**個別的結論**」を導く推論形式を「**演繹法**」といいます。ですから、「**三段論法**」は**演繹法**の一種です。※基本的な論理①『三段論法』（p.4）参照！

◎帰納法

・「**演繹法**」とは逆に、「**個別事例（複数の具体例）**」をもとに「**一般法則**」を導き出す推論形式を「**帰納法**」といいます。『**一般法則が出発点**』になるのが「**演繹法**」で、『**一般法則がゴール**』になるのが「**帰納法**」ということです。

【帰納法の例】

・前提①：　【個別事例】
　A：あの湖にいる白鳥は、白い。（具体例）
　B：その川にいる白鳥も、白い。（具体例）
　C：この池にいる白鳥も、白い。（具体例）
・前提②：どれも白鳥だから、白いのだ。　【共通点/因果関係】
・結論：だから、（恐らく）全ての白鳥は、白いだろう。　【一般法則】

※帰納法では列挙される具体例以外に**例外**の出現がありうるため、③の「**結論**」に「恐らく」を付けてあります。もし例外が出現した場合には、帰納法による「**結論**」は「**一般法則**」とは言えず、むしろ「**論理的飛躍**」、もしくは「**論理的な誤り**」となってしまうからです。実際、ヨーロッパでは「スワン（swan=白鳥）」は白いものだという常識があったのですが、1697年、オーストラリアで「**黒いスワン**（固有種の黒鳥（コクチョウ）」が発見され、この「**帰納推論による仮説」は明確な誤り**であったことが判明しました。

◎「A君はハムスターを、Bさんはウサギを、C君は亀を飼っている。**みんな、小動物を飼うのが好きなんだな**」のように、日常においても私たちは無意識的に帰納法を用いて推理や推測をしたり、仮説を立てたりして、生活や発想などに役立てています。帰納法は、「**既知（きち）の知識」をもとにして「未知の知識」を得るための強力な思考法**の一つなのです。

◎以下に、帰納法を使った簡単な例文を自分でも考えてみましょう。（上図の前提②は省略して可）

【具体例：いくつか挙げる】　（　　）

【抽象化：まとめて捉え、一般化する】（　　）

★（99）替え玉（身代わり）

・「『筆者、あるいは登場人物は』どう考えているか」のように問われているにもかかわらず、その当人ではなく、本文に引用されている、もしくは本文に登場する別の人物の考えや気持ちを、筆者自身のものとしてすり替えて説明されている。「**確か本文にはそのとおり書いてあったはずだから**」と、不確かな記憶や思いこみによって判断しないよう注意。また、「**本文を照合せずに選択肢の読み比べだけで判断**」するのも危険だ。

※**替え玉**（かえだま）：本人だと偽（いつわ）って別人を使うこと。また、その人。

※**身代（みが）わり**：他人のかわりになること。また、その人。

★（100）偽証（ぎしょう）トラップ

・「登場人物が本心を隠（かく）して述べる気持ちや考え」、あるいは、「筆者自身が想定する他者の反論」等を引用し、それが「登場人物（筆者・作者）本人の本心や考え」であるかのようにすり替えて説明してある。「**確か本文にはそのとおり書いてあったはずだから**」と、不確かな記憶や思いこみによって判断しないよう注意。また、「**本文を照合せずに選択肢の読み比べだけで判断**」するのも危険だ。

※**偽証**（ぎしょう）：真実でないことを真実であるかのように述べた証明。

★（101）回想部の変造（思い出作ってみた！/思い出作り）

・本文における「**回想部**」を説明に引用する際、さり気なく回想部の時系列や内容等を改変してある。読解作業においては、回想部の内容や展開、時系列も正確に掴（つか）むことを忘れずに。

※**回想部**：過去を振り返って、あれこれと思い出す部分や場面。

※**変造**：文書、通貨など既存（きそん）のものを加工して、その形状や内容などを変えること。

※**改変**：内容を変えて、もとと違（ちが）ったものにすること。

★（102）定義のすり替え（定義ちがくね？）

・筆者、あるいは作者によって「**特に定義づけられた概念（がいねん）や語句**」を、それとは異なる意味合いにすり替えて説明してある。本文中の概念や語句については、筆者（作者）によって「**特定の意味合い**」で使用されているのか、あるいは「**一般的な意味合い**」で使用されているのかをきちんと区別しよう。

※**定義**：用語の意味や概念（がいねん）の内容を明確に限定すること。その意味・内容。

※**概念**（がいねん）：認識した内容の本質や性質。物事の大まかな意味内容。 ※（84）「概念語」を参照のこと。

※**違（ちが）くて/違く**：俗語（ぞくご）。正しくは「**違って/違い**」とする。また、「違かった」、「違くない」も、それぞれ「**違った**」、「**違わない**」と正すこと。

★（103）語句矮小化（なんか意味弱まった…）

・「いじめ」を「不仲（ふなか）」と表現するように、本来説明にふさわしい的確な語句や表現を用いるのではなく、「本質を外した、意味を弱めた表現」にすり替えて説明してある。一見しただけでは微妙な意味の違いが区別できず、判断を誤る恐れがある。受験学習においても、普段の言語生活においても、**感覚的に読み、書き、話す**ばかりでなく、**言葉の意味や使い方**、また、正確性や**論理性、伝わりやすさ**について、より意識するようにしよう。（14）「**論点違い**」の一種。

※**矮小化**（わいしょうか）：物事や、物事の重要性を小さく見せること。

★（104）論点矮小化（大した問題かよ！）

・「**いじめ**というのは、**子どもの悪ふざけの一形態**である」のように、ある問題（論点）について、それをわざと小さく取り上げたり、重要性を低めたりして説明する。論点についての方向性が一致していても、**問題の本質が不明確であり、説明として不完全**である。（14）「**論点違い**」の一種。

※**矮小化**（わいしょうか）：問題を小さく見せること。物事の重要性を小さくしたり、物事の一部だけを断片的に捉えて問題を小さくしたり、小さく見せたりすること。日常においては、ある問題について、それが「**大した問題ではない**」といったニュアンスで言い逃れや責任回避（かいひ）をする際などに用いられる場合が多い。

★（105）反対語トラップ

・「**満足**」を、反対語である「**不満**」を使って「**不満ではない**」と言い換えても、**同義とはならない**。このように、本文におけるある語句の「対義語」を用いて「反対表現にする」ことで、いかにも正しい説明であるかのように偽装（ぎそう）する。選択肢の説明に**反対表現**や**否定表現**があると正確な意味を取り違えてしまう恐れがあるので、よく注意しよう。（31）「**論理的飛躍**」の一種。

★（106）単純例示

・本文中に挙げられている具体例、またはその一部がそのまま選択肢の説明に組み込まれているだけで、説明として成立していない。冷静に対処すれば、例示の引用だけでは説明にならないことにすぐに気づけるはずだ。

★（107）半分ずっこ（ハーフ＆ハーフ）

・選択肢の説明が内容的に大きく二つに分けられるような場合に、前半か後半のいずれかは完全に正しい内容であるが、一方が完全に間違っているか、あるいは、意味があやふやである。「本文中のキーワード」や（5）「キラキラワード」などを巧（たく）みに組み込み、直感の誘発（ゆうはつ）や印象操作によって誤答への誘導を図（はか）る。検討が不十分だと、あやふやな記憶に頼（たよ）って判断してしまったり、「ハロー効果」による直感頼りの判断に落とし込まれたりするので注意。

※半分ずっこ：半分ずつにする、の意。

※ハロー効果：ある対象を評価するとき、その「一部の特徴的な印象」に引きずられて、全体について歪（ゆが）んだ評価をしてしまう心理現象。「halo（ハロー）」とは聖像などの頭部や全身を包みこむ後光（ごこう）や光輪（こうりん）。また、太陽や月の周囲を取り巻く「かさ」のこと。後光効果。

★（108）要素倒置（要素不足誤認）

・線部等、問われている箇所（かしょ）の内容が、例えば「A→B→C」の要素に分解できるとして、それを選択肢の説明では「C→A→B」のように要素の順序を変えて文脈構成し、一見したところでは「要素不足」であるかのように誤認させる。また、逆に順序そのものは「A→B→C」と一致させてあっても、表現を調整することで「要素不足」であると誤認させる場合もあるので注意。（2）「カモフラージュ」の一種。

★（109）具体例照合（落ち着いて慌てろっ ♡ ~(ºᵛºٖ)~ ♡）

・「本文中の具体例は重要ではないので読み飛ばせ」と指導されている受験生が相当に存在することを作問者は心得ており、そこで、具体例をあらためて照合しないと選択肢の検討に進めないようにしてある。本文の通読段階において、具体例は速やかに内容を整理しつつ、本文全体におけるその意味や機能、また、筆者（作者）の主張との関連性などを総合的な観点から確かめよう。

★（110）否定不能（消極的肯定/出直して来いや）

・最後の二択での「絞（しぼ）り込み」において、「積極的に肯定（こうてい）されうる選択肢」と「消極的に肯定されうる選択肢」とがあり、その判別が非常に困難となっている。いずれの選択肢も内容的には決して否定できず、際（きわ）どい見極めが必要となる。設問の要求はもとより、思考の方向性、文脈、視点、論点、諸要素の有無や正否（せいひ）、因果関係、前提の正否、暗黙の前提、論理的飛躍、踏み込みの度合い、換言の適否（てきひ）、表現やニュアンス等、さまざまな角度からの検討力が求められる。

★（111）正答もどき（ゴースト/パラレルワールド/トワイライトゾーン/蜃気楼（しんきろう）/攪乱（こうらん））

・「正答肢」の要素・文脈・表現等に非常によく似せ、真偽（しんぎ）の判断を困難にする。本文との照合において、問われている箇所とその前後近辺の情報を単眼的に確認しただけでは「正しい内容や要素」を読み取ることができない場合があるため、本文における前提内容、論理構造、文脈、表現、ニュアンス等を含め、厳密（げんみつ）かつ総合的に判断する必要がある。

※ゴースト：多重像。幽霊（ゆうれい）。亡霊（ぼうれい）。

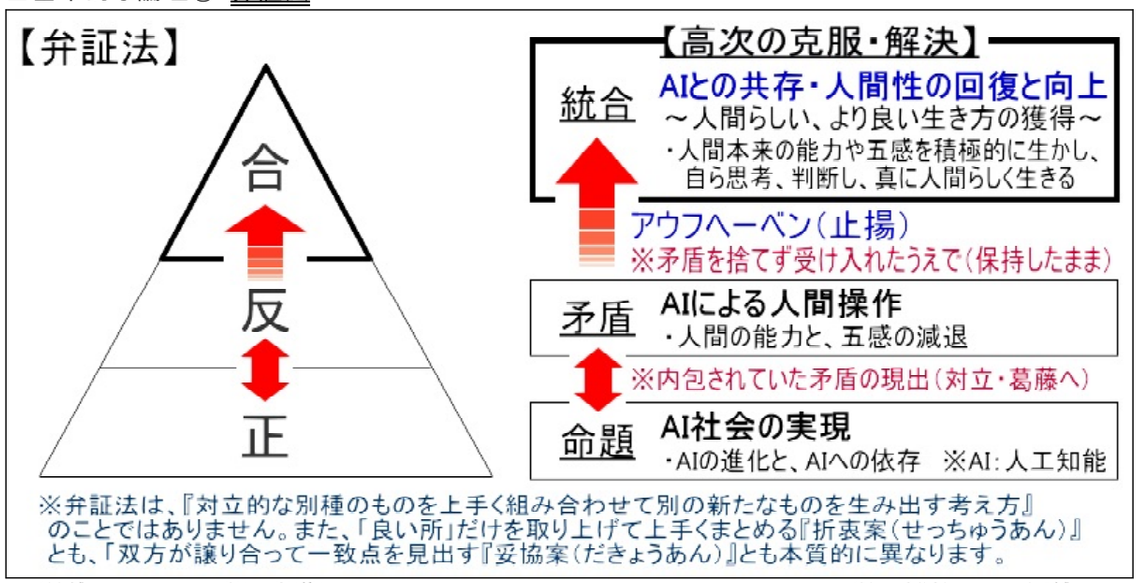
※パラレルワールド：並行（へいこう）世界。現実の世界と並行して存在するとされる別の時空世界。

※トワイライトゾーン：昼でも夜でもない曖昧（あいまい）な時間帯である夕暮（ゆうぐ）れ時。二者間の境界が曖昧な領域。時空の歪（ゆが）みに陥（おちい）ったり、超能力や心霊（しんれい）現象などの超常現象を経験したり、あるいは、宇宙人、タイムトラベラー、透明（とうめい）人間、地底人などの異世界の存在と遭遇（そうぐう）したりといった怪異（かいい）が起こるとされる時間帯。アメリカで制作されたSFテレビドラマのタイトルが語源。

※蜃気楼（しんきろう）：光の異常屈折（くっせつ）によって地上の物体が浮き上がって見えたり、逆さまに見えたりする現象。海上や砂漠で起こる。ミラージュ。

※攪乱（こうらん/かくらん）：混乱が起きるようにすること。かき乱すこと。

■基本的な論理⑨ 弁証法



・「弁証法（べんしょう）」とは、①【正（せい）＝命題（めいだい）（出発点となる問題）】がまずあり、その内部から②【反（はん）＝矛盾（むじゅん）（対立・葛藤（かっとう））】が現出（げんしゅつ）すると、その【矛盾】を捨てず、受け入れたうえで（保持したまま）、③【合＝統合（高い次元での克服（こくふく）・解決）】へと至（いた）らしめる思考形式です。そして、【反】を受けて【合】へと進化（深化）・発展させる、この最終段階を【止揚（しよう）＝アウフヘーベン/ドイツ語】といいます。

・【矛盾】は完全に否定し捨（す）て去るのではなく、むしろそれを認（みと）め、受け入れて発展のための糧（かて）としてこそ【統合（高次（こうじ））の克服・解決）】の実現を可能とします から、弁証法は、一般に同種のものと解釈されている、「対立的な別種のものを上手く組み合わせて別の新たなものを生み出す考え方（トンカツとカレーを組み合わせてアウフヘーベンすればカツカレー、といった類（たぐい）の考え方）」のことではありません。また、「良い所だけを取り上げて上手くまとめる『折衷案（せっちゅうあん）（良いとこ取り）』」とも、「双方（そうほう）が譲（ゆず）り合って一致点を見出す『妥協案（だきょうあん）』」とも本質的に異なります。

■サピックス『新小6・3月度組分けテスト（令和四年/2022年）3月実施）』で扱（あつか）われた文章（『スマホを捨てたい子どもたち―野生に学ぶ「未知の時代」の生き方（山極寿一）』を例に「弁証法的解釈」をすると、以下のようになります。（筆者自身が『弁証法的思考法』により主張を展開しています）

【弁証法の形式と例文】

①【正】命題（出発点となる問題）

・「現代はAI（人工知能）が進化し、人間はAIへの依存（いそん）を強めている」

②【反】内包（ないほう）されていた矛盾の現出（⇒対立・葛藤（かっとう）へ）

・「AIへの依存が強まるとともに、人間が持つ本来の能力や五感の働きが生かされず、ますますAIに操作され、人間らしさが失われてゆく」

③【合】統合＝【反】を受け入れて発展のための糧（かて）とし、高次の克服（こくふく）・解決を実現する。

・「機械化、情報化が進展する現代、AIに依存しすぎず、人間本来の能力や五感をもっと積極的に生かし、自分の頭を使って考え、判断し、また、主体的に行動することで、AIと共存（きょうそん）しつつ、真に人間らしい、より良い生き方を獲得（かくとく）し、実践（じっせん）すべきだ」

◎文学的文章の場合でも、例えば、①【正】『主人公の、周囲に流されるまま、自分を偽（いつわ）り、自分らしさを失った消極的な現在の生き方』において、②【反】『今のままの自分であり続けてよいのか』という「矛盾（対立・葛藤）」がその内部から生じ、何かのきっかけを経て、③【合】『それまでの自分のあり方を否定（ひてい）せず、むしろそれをありのままに認め、受け入れて成長の糧（かて）とし、本当の自分らしさを求めて、自分に正直に、力強く前向きに生きてゆく』といった「高次の克服・解決（より良い生き方の獲得（かくとく）＝人間性の向上）」がもたらされる、というように「弁証法の思考形式」を読解に適用できる場合があり、これにより、各種問題への解釈の仕方や記述答案の内容にも大きな違いが出てきます。

◎日常においても、私たちはさまざまな場面において無意識的に「弁証法的思考法」によって物事を考えたり、対処したりすることがあります。文章を書くとき、話し合いをするとき、図画や工作などの創作に取り組むとき、創造的な発想に挑（いど）むとき、人との関係について考えるとき、困難を克服しようというとき、自分のあり方や生き方に悩（なや）むとき、未来への道筋を思い描（えが）くときなどにおいても、意識的に「弁証法的思考法」を活用してゆきましょう。

【疑似相関（見せかけの相関）】

・**友紀夫君**：アイスクリームの販売量が、上がっていますな！（A）
・**進次郎君**：熱中症になる人も、増えているぞ！（B）
・**友紀夫君**：**アイスクリームの販売量の増加が、熱中症増加の原因**ですな！！！
・**進次郎君**：今のままではいけない！　だからこそ、日本は今のままではいけない！
・**ひろゆき君**：それって、あなたの感想ですよね！
・**竜兵君**：くるりんぱ！
・**たけし君**：ちょっと何言ってるのかわかんない。

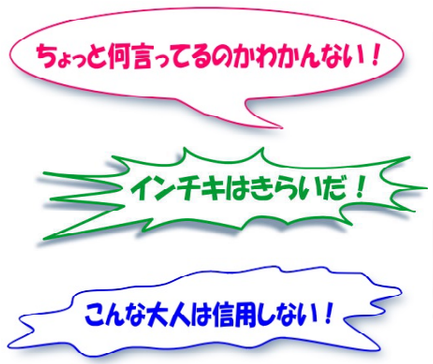
・ある事柄（A）が変化するとともに他のある事柄（B）も同時に変化しているとき、そこに「**相関関係がある**」というが、**単に相関関係を示しているだけのものに「因果関係」を捉（とら）えてしまうこと**を「**疑似相関**（ぎじそうかん＝**見せかけの相関**）」という。※p.32「11：疑似相関」を参照！
※**相関関係**：一方の変化とともに、他方も変化するような関係。

・例文の場合、実際には（A）と（B）は**「別の要因（C＝気温の上昇）」によって変化している**のだが、それがはっきりと見えるものではないために、**（A）と（B）とが「因果」によって関連づいている印象**を与えてしまう。「**因果関係のあるものには相関関係がある**」が、**相関関係があるからといって、それが因果関係を示しているとは限らない**。

【循環論法】

・友紀夫君と進次郎君とは特殊な通信方法を使って互いに自由に意思疎通できるようですが、二人の会話は論理が破綻（はたん）していて、一般の人たちには全く意味不明ですね。竜兵君もたけし君も呆（あき）れてしまいました。ちなみに進次郎君の、「今のままではいけない！　**だからこそ**、日本は今のままではいけない！」のような論法を「**循環論法**」といいます。**同語を無意味に繰り返して、いかにも根拠に基づいた主張らしく見せかけるだけの偽（いつわ）りの論法**ですから、**話の中身が空っぽで、何の問題解決にもなりません**。
※（65）、（66）『同語反復（循環論法）』を参照！

・そこで、ひろゆき君は、堂々と「**空っぽの主張**」をして誇らしげな進次郎君に対し、「問題に対して真摯（しんし）に向き合いもせず、平然と論点をはぐらかし、明確な根拠も具体案も示さず、虚勢（きょせい）を張っては自己満足に浸（ひた）っているばかりで、ただ当たり障（さわ）りのないその場限りの感想を述べて能天気に受け流して済まそうとする言動は、実にいい加減、かつ無責任であり、人を馬鹿にしている」と非難しているのです。
※**破綻**（はたん）：物事が修復不可能な状態にまで壊（こわ）れること。
※**虚勢**（きょせい）**を張る**：実際よりも優（すぐ）れたものに見せかける。空いばりする。
※**真摯**（しんし）：真面目（まじめ）に、ひたむきに物事に取り組むさま。
※**能天気**（のうてんき）：何事も深く考えず、常に呑気（のんき）で気楽なさま。また、その人。



＊1：わら人形論法（ダミー攻撃/歪曲攻撃）

・**先生**：勉強は大事なんだから、毎日しっかりと勉強するんだぞ！（**前提**：励（はげ）まし）
・**生徒**：「**泣こうがわめこうが、引きずり回してでもお前を勉強漬（づ）けにしてやるわ、このボケッ！**」だなんて、そんなひどいことを生徒に向かって平然と言う教師がどこにありますか！（話をねじ曲げて「スパルタ教育」に**論点（前提）をすり替え**て非難し、ついでに**人格攻撃**）
・**先生**：**誰がそんなこと言ったかね、このスッタコが！**
・**生徒**：……**てへぺろっ**（・ω<）！

・選択肢においては、**本文におけるある言説（げんせつ）をわざと歪（ゆが）めて解釈（かいしゃく）**し、そのうえで、その「**ダミーの論点**」について説明（批評）してある。本文における**論点**と、その**論点についての主張や説明内容**を正確に捉（とら）え、選択肢の説明に**歪曲**（わいきょく）がないかどうかを確かめよう。**（14）「論点違い」、（31）「論理的飛躍」、（41）「前提のすり替え」**の一種。
※**歪曲**（わいきょく）：事実をわざと歪（ゆが）めて（曲げて）**伝える**こと。「曲解（きょくかい）」は、事実を曲げて**受け取ること**。
※**わら人形論法**：相手がそもそも言ってもいない論点を作り上げ、その「**架空の論点（わら人形/ダミー）**」に対して**反論**し、自説を有利に導く詭弁（きべん）。案山子（かかし）論法。架空（かくう）の論証。

＊2：道徳主義トラップ（道徳をダシにせよ！）

・「カンニングは**悪い**に決まっているじゃないか（**道徳的価値観**）。**だから**、僕がカンニングなんて**するはずない**（**事実にすり替え**）」のように、「**Aは道徳的に善である（悪である）、だから、Aは▲が事実だ**」という形式で、「**道徳的な価値観を事実にすり替える**」**論法**。**「道徳」をはじめから「良いもの・正しいもの」と前提し、そのうえで、「だから、▲が事実だ」と、誤った結論を導く**。（＊3）「**自然主義トラップ**」の逆パターン。**（41）「前提のすり替え」、（31）「論理的飛躍」**の一種。

＊3：自然主義トラップ（自然に倣（なら）え！）

・「人間は本来、夜には眠る動物だ（**自然界の事実**）。**だから**、人間は深夜に勉強をすべきではない（**価値判断にすり替え**）。」のように、「**Aは自然界の事実である。だから、Aは▲であるべきだ（価値判断）**」という形式で、「**自然界の事実を価値判断にすり替える**」**論法**。**「自然界の事実」をはじめから「良いもの・正しいもの」と前提し、「だから、自然に逆らわない行動が正しい」と、誤った結論（価値判断）を導く**。（＊2）「**道徳主義トラップ**」の逆パターン。**（41）「前提のすり替え」、（31）「論理的飛躍」**の一種。

＊4：新規主義トラップ（新しければいいの？）

・「この教材は改訂（かいてい）された（**新しいものごと**）。**だから**、内容も優（すぐ）れている（**価値判断**）」、「**ざんぎり頭を叩（たた）いてみれば、文明開化の音がする**」のように**「『新しいものごと』は無条件に『良いもの・正しいもの』」であると前提し、「過去のものごと」を否定する**。新しいものごとが常に正しいとは限らない。（＊5）「**伝統主義トラップ**」の逆パターン。**（41）「前提のすり替え」、（31）「論理的飛躍」**の一種。

＊5：伝統主義トラップ（古ければいいワケ？）

・「以前は誰もがテレビや新聞、ラジオなどから情報を得ていた（**習慣**）、だから、インターネットの利用はふさわしくない（**価値判断**）」。「人類は数千年にわたり神を信じ続けてきた（**伝統/慣習**）。だから、神は存在する（**事実**）」のように、**「『伝統や習慣・慣習』は無条件に『良いもの・正しいもの』である」と前提し、「現在のものごと」を否定する**。昔のやり方が常に正しいとは限らず、また、昔のやり方が正しかったとしても、現在に通用するとは限らない。（＊4）「**新規主義トラップ**」の逆パターン。**（41）「前提のすり替え」、（31）「論理的飛躍」**の一種。

＊6：論点まき散らし（めまいがするぜ/論点混在/動くゴールポスト）

・説明内に**複数の異なる「論点」が組み込んである**。それぞれの論点自体は重要なことかもしれないが、「**何を中心の論点としているのか」が不明確で、焦点がぼやけてしまっている**。「**設問における論点**」を正確に掴（つか）み、その**「中心となる論点」に正しく沿（そ）って思考する**訓練を積んでゆこう。**（14）「論点のすり替え」**の一種。
※**動くゴールポスト**：本来の主要な論点や条件を、その時々の状況により、こじつけによって新たな論点や条件を次々と追加、変更し、それを本来の主要な論点としてすり替え、自説に有利に働くよう導く手法。

＊7：事実の主張へのすり替え

・本文では「花子さんは女性だ」と書かれているものが、選択肢の説明では「花子さんは女性らしくあるべきだ」のように、「事実」を「主張」にすり替えて説明されている。本文における「事実」と「意見（主張）」とをしっかりと区別して読むようにしよう。（14）「論点違い」の一種。

＊8：前後即因果（祈ったから合格した！）

・「入試前日に必死に合格を祈（いの）ったら、本当に合格した。だから、合格したのは祈ったからに違いない。」のように、「『ある事柄（前件A）』が起きた後に、続いて『別のある事柄（後件B）』が起きた」という連続的な事実を捉（とら）えて、「《前件A》が《後件B》の原因（理由）である」と無理やり因果づけて説明する。（31）「論理的飛躍」の一種。（64）「偽装因果」の一種。

＊9：逆は必ずしも真ならず（逆立ち飛躍）

・「海には、魚がたくさんいる（Aならば、Bだ）」を逆立ちさせて、「魚がたくさんいるのなら、そこは海だ（Bならば、Aだ）」と言い換えても、同義とはならない。これを、「逆は必ずしも真ならず」という。（31）「論理的飛躍」の一種。

> ・花子さん：海にはね、魚がた～っくさん、いるのよ！
> ・愛子さん：逆に言えば、魚がた～っくさんいるところが海！　ってことよね！
>
> （…む～ん…）

・「魚がたくさんいるところ」は「海」に限らず、「川や湖」、「水族館」なども考えられます。しかし、愛子さんはそうした「他の可能性」を前提に置かずに、花子さんの主張を「単純に逆立ち表現」することによって、それがあたかも真実であるかのように「飛躍した判断」を下しています。

＊10：裏返しは必ずしも真ならず（AでないならBでない？　/裏返し飛躍）

・「自分がされて嫌（いや）ことは、人にすべきでない（Aならば、Bである）」を裏返して、「自分がされて嫌でなければ、人にしても良い（Aでなければ、Bでない）」と言い換えても、同義とはならない。このように、本文における「ある表現を裏返して利用」することで、いかにも正しい説明であるかのように偽装（ぎそう）する。選択肢の説明に反対表現や否定表現があると正確な意味を取り違えてしまう恐れがあるので、よく注意しよう。（31）「論理的飛躍」の一種。

＊11：疑似相関（見せかけの相関）　※p.34参照！

・ある事柄（ことがら）（A）が変化するとともに別のある事柄（B）も同時に変化しているような場合に、本来は両者に因果関係はないのに、あたかもそこに因果関係があるように見えてしまう現象を「疑似相関（見せかけの相関）」という。選択肢においては、「疑似相関」を利用した偽（いつわ）りの説明はないかどうかに注意しよう。（31）「論理的飛躍」、（64）「偽装因果」の一種。

・疑似相関の例：「（A）コンビニの店舗（てんぽ）数が増えた」、「（B）犯罪件数が増えた」という二つの事柄が同時に起きていたとして、そこに相関関係はあっても、「コンビニが増加したから、犯罪件数が増えた」ということにはならない。実際には（A）と（B）は「別の要因（C）＝人口の増加」によって変化（増加）しているのだが、それがはっきりと目に見えるものではないために両者が「因果関係」によるものと見えたり、推測してしまったりする。

※相関関係：一方の値と別の一方の値とに関連性があること。
※因果関係：原因と結果との関係。因果関係のあるものには相関関係があるが、相関関係があるからといって、それがそのまま因果関係を示しているとは限らない。

＊12：比較不成立（比べるなよ！）

・「このリンゴと、このミカンとでは、どちらが品質が良いか」、「ロックとクラシックとでは、どちらが優れているか」のように、そもそも本質や分類が異なるために比較することができない物事どうしを無理やり比較し、その「価値や良否」について述べる。（14）「論点違い」、（41）「前提のすり替え」の一種。

【悪魔（あくま）の証明】

・晋三（しんぞう）君：悪魔（あくま）なんか存在するわけない！
・清美さん：じゃあ、悪魔が存在しないことを証明してみせなさいよ！
・晋三君：むぐぐっ……。
・清美さん：証明できないんだったら、悪魔は存在するってことじゃないの！
・晋三君：どうやって調べれば証明できるんですかっ！！！
・清美さん：疑惑（ぎわく）はさらに深まった！
・晋三君：ずるいよ！　悪魔の罠（わな）だ！

・「悪魔の証明」とは、証明することが困難な事柄（ことがら）に対して「存在しないこと」の証明を求める詭弁（きべん）。「あること＝存在すること」を証明するには実際に事例を集めればよいが、「ないこと＝存在しないこと」を証明する事例を集めるのは事実上、ほぼ不可能である。
・清美さんは、議論以前に「悪魔は存在する」とまず結論づけ、この証明されてもいない「結論」を前提として、「もし悪魔の不在が証明されるなら、悪魔が存在しないと認めてもよい」と、もともと証明困難な選択肢をダミーとして敢（あ）えて提示し、譲歩（じょうほ）の余地を与えるふりをして相手を「二分法の罠（わな）/p.34(5)参照」に掛け、人身攻撃と印象操作によって人格を貶（おとし）めつつ、相手の排除（はいじょ）、差別を謀（はか）っています。
・本当は二つの選択肢以外にも、「存在するかどうか分からない」という別の選択肢もあるのですが、詭弁として批判や反論に利用されるだけでなく、人身攻撃や印象操作、排除、排斥（はいせき）、差別等の目的にも利用される「悪魔の証明」では、こうした「他の可能性」については完全に無視します。
※詭弁（きべん）：誤（あやま）っていることを、意図（いと）的に正しいと思わせるように仕向けた誤魔化（ごまか）しの議論。
※排除（はいじょ）：受け入れられないものをその場から無くすこと。
※排斥（はいせき）：受け入れられないものをその場から遠ざけること。

◎例文の「悪魔」という語を「宇宙人」や「空を飛ぶペンギン」などに読み替えてみよう。また、「僕はカンニングをしていない」、「私は犯人ではない」といった論題についても、読み替えて論法の不適切さを確かめよう。

・二人の少女が、仲良く波越えをして楽しそうに遊んでいました。
※2012年（平成24年）8月10日、千葉市美浜区の『検見川の浜』にて細川撮影